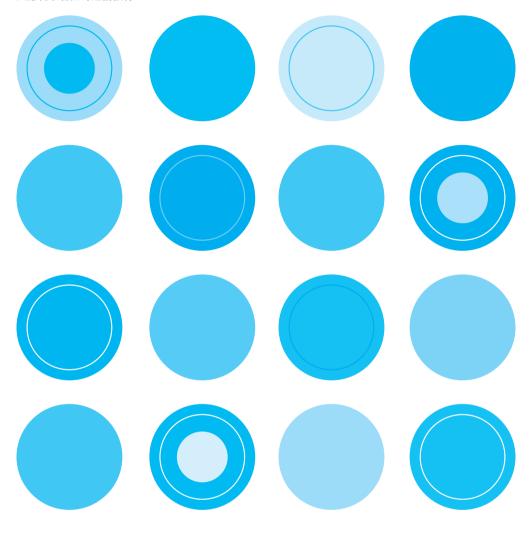
文部科学省認可通信教育



福祉心理学科 スタディ・ガイド 目 次

Ι章	ようこそ福祉心理学の世界へ	— 3
1		1
2	福祉心理学科での出会いと歩み渡部 純夫	
3	新入生・進級生の方々へ白井 秀明・	10
4 5	福祉心理学を学ぼうとしている方へ小 松 紘・福祉心理学科への期待宇田川一夫・	·· 13
-		10
Ⅱ章	心理学実験への招待────	— 19
6	心理学ではなぜ実験をするのでしょう小松 紘	20
7	実験と心理学の深~い関係 大関 信隆 実験レポートのまとめ方 中村 修	23
8 9	実験レポートのまとめ方中村 修 心理学実験 をふりかえって大関 信隆	···27 ···33
Ⅲ章	心理学研究に取り組む────	- 39
10	心理学研究法 レポート作成のためのヒント(その 1)	
11	·····································	40
11	心理学研究法 レポート作成のためのヒント (その2)中村 修	45
		**
Ⅳ章	│ 心理学の幅広い世界────	– 51
12	心理学の基本的な考え方小松 紘	52
13	心の成り立ち · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	54
14 15	「福祉心理学」の考え方渡部 純夫福祉心理学のレポートを添削して渡部 純夫	···57 ···60
16	生涯発達心理学のレポートを添削して木村 進	63
17	生涯発達心理学のスクーリングを終えて木村 進	···67
18	臨床心理学のレポートに取り組むにあたって …佐々木千鶴子	70
19 20	「臨床心理学」スクーリングを終えて佐々木千鶴子 人格心理学のレポートにおける「事例研究」…皆川 州正	···73 ···75
21	学習心理学のレポートを添削して村井 則子	···78
22	教育心理学のスクーリングを終えて白井 秀明	80
23 24	社会心理学を学習するにあたって(1)佐藤俊人社会心理学を学習するにあたって(2)吉田綾乃	82
24 25	社会の理学で学習するにのだろく (2)音田 綾方 家族心理学のスクーリングを終えて西野美佐子	···85 ···88
26	心理アセスメントのスクーリングで学んでほしかったこの	
		92
27	心理療法のレポートを添削して 秋田 恭子心理療法のスクーリングを終えて 宇田川一夫	95
28	- / L NT H / F / T / T / T / T / M / M / C - ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	40
29	児童青年心理学のレポートを添削して無緊急佐之・	101
29 30	児童青年心理学のレポートを添削して	··101 ··105

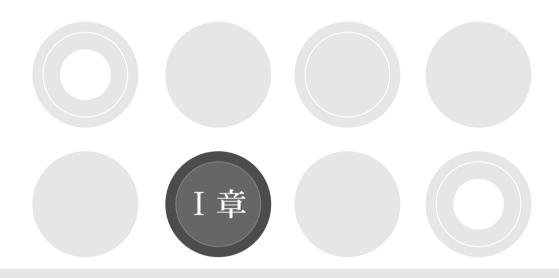
32 33 34	概 念 心理学キーワード
V章	レポートを書こう――― 123
35 36 37 38 39	レポートを添削して本村進・・124心理学概論レポート解答例127心理学概論レポートを書こう(1単位め)130心理学概論レポートを書こう(2単位め)137心理学概論レポートを書こう(3単位め)141
VI章	卒業研究ガイド―――― 145
40 41	福祉心理学科 卒業研究作成のしおり
42	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
43	心理学における研究の進め方・論文の書き方(その3)木村 進…176
	卒業後の進路 183
44 45	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

この『福祉心理学科 スタディ・ガイド』は、2002年4月の通信教育部開設から2007年8月までに学生向け機関誌『With』に掲載された福祉心理学科の先生方からのメッセージを一冊にまとめたものです。

レポートを取り組む際には、教科書や『レポート課題集』とともに目を通していただくと参考になる部分があるかと思います。自学自習では取り組むのが難しいという声の多い「心理学研究法」についても、III章にわかりやすい解説が掲載されています。

また、「II 章 心理学実験への招待」の部分は、実験のスクーリングの前には是非ご一読ください。本書を通じて、皆様の心理学の理解が少しでも深まることを願っています。

<u>注意</u> 本文の記述の時点より、担当教員やレポート課題が変更になった科目が一部にご ざいます。ご了承ください。



ようこそ 福祉心理学の世界へ



福祉心理学科の道案内板 福祉心理学科での出会いと歩み 新入生・進級生の方々へ 福祉心理学を学ぼうとしている方へ 福祉心理学科への期待

福祉心理学科の道案内板

皆川州正

◆福祉心理学科の由来

我が国で初めて(おそらく世界でも初めて)の福祉心理学科が誕生したのは、1974年4月のことです。伝え聞くところによると、当時の心理学は人間の心の働きを各領域に分けて解明すべく研究していました。しかし、心の各領域の理解を持ち寄ってみても、つぎはぎだらけのモザイク的な人間が見えてくるだけで、生き生きとした人間がみえませんでした。そこで、生活している人間を対象とし、人間の幸せに心理学的に貢献しようという意気込みで、(ドイツ語で)"Lebens Psychologie"の学科の創設が企画されました。当初は、「生活心理学」と「福祉心理学」の名前が考えられましたが、最終的には「福祉心理学」科に決まりました。

なお、福祉には2つの考え方があります。一つは、「弱者の救済」を目指すウェルフェア(welfare)です。もう一つは、「生命・生活・人生の質(QOL)」の向上を目指すウェルビーイング(well-being)です。以前は前者の考え方が強かったのですが、近年は後者の考え方が強くなっています。そして、福祉心理学科の福祉とは、当初から後者の考え方をとっていたといえます。

◆何を学ぶことができるのか?

今日の福祉心理学科は、以下のような特色を持っています。

- (1) 本学科では、広義には環境と相互作用しながら発達し生活する人間、 狭義には福祉の場面における当事者を対象として、それらの人たちの幸 せに心理学的に貢献することを目指しています。環境との相互作用、生 涯発達、適応と不適応(自己実現)の視点をもって学んでほしいと思い ます。
- (2) 人間の幸福を目指していない応用心理学はありえないという観点か

- ら、福祉心理学を応用心理学の基本として位置づけています。そこで、 まず福祉心理学を学び、それから産業・社会心理学、発達・教育心理 学、臨床心理学などを学ぶようになっています。
- (3) 人々の幸せを願い、それを実現するために最大限の努力をしようとする姿勢を「福祉の心」と呼んでいます。「福祉の心」は、相手のニーズや課題を把握して援助活動を展開していく際に土台となるものです。本学科では、このような援助者の心理と支援について学ぶことができます。
- (4) 社会福祉でも、「個別化・多様化・多元化」が図られ、「サービス中心」から「ニーズ中心」へと変わり、当事者の「心の理解」が欠かせなくなりました。本学科では、福祉の場面における当事者の心理と対応について学ぶことができます。
- (5) 虐待, 学習障害, 注意欠陥/多動性障害, 不登校, 引きこもり, 家庭内暴力, 離婚, 自殺, 介護などの問題が増え, 心理学の知識とスキルを踏まえた「心の福祉」が求められるようになりました。本学科では, このような「心の問題」の理解と対応について学ぶことができます。

◆心理学の落とし穴

一つには、「心理屋の心理知らず」という言葉があります。心理学の専門家なのに、人の気持ちが少しもわかっていないという皮肉です。そもそも「心理学」とは「心の理学(科学)」のことであり、客観的なデータに基づいて心の一般的法則や個人差を研究しようという学問であり、気持ちを共感的に理解することとは異なります。しかしながら、福祉心理学を学ぶ上では、客観的なデータをとらえつつ、相手の身になって心の痛みなどもとらえる姿勢を持つことが望まれます。パウロは「たといあらゆる奥義とあらゆる知識とに通じていても、たとい全財産を人に施しても、愛がなければ、何の値打ちもない」と戒めています。

もう一つには、心理学を学んで、人の心がわかったような錯覚に陥ることがあります。例えば、恋人の心を分析し、得意になってしゃべり、嫌がられたという話もあります。ソクラテスは「自分の無知を知り、自分の魂を高めることが大切」と戒めています。

◆心理学関連の仕事

心理学を直接生かせる仕事としては、以下のようなものがあります。なお、詳しくはインターネットや書籍で調べてみてください。

- (1) 医療機関の心理職 精神病院や精神・神経科クリニック,心療内科,小児科において,心理検査や心理療法などを行います。「臨床心理士」の資格(取得見込みを含む)を採用条件にあげるところも多くなっています。
- (2) 公務員の心理職 県・政令指定都市の心理判定員, 家庭裁判所調査 官, 少年鑑別所心理技官, 厚生労働省の心理職, 警察の心理職, 科学捜査研究所所員などがあります。公務員試験に合格しなければならず, 受験勉強が必要です。
- (3) 福祉機関の心理職 リハビリテーションセンターの心理職や障害者職業カウンセラーなどがあります。
- (4) スクールカウンセラー・教育相談員(非常勤) 小・中・高等学校に おいて児童・生徒のカウンセリングや保護者・教職員への助言を行いま す。多くは「臨床心理士」の資格(取得見込みを含む)を採用条件にあ げています。「臨床心理士」の受験資格を得るには資格認定協会による 指定大学院修士課程に進学しなければならず(本学大学院は一種指定 校)、受験勉強が必要です。

その他にも、心理学を直接・間接に生かせる仕事は多くあります。

◆最後に

元政上人は「心にも及ばぬものは何かあると心に問えば心なりけり」と詠みました。心の不思議を知り、心のとらえ方を学び、福祉の心を深めていかれることを切に願うものです。

福祉心理学科での出会いと歩み

渡部 純夫

◆はじめに

新入生の皆さん福祉心理学科へようこそ。心より歓迎いたします。そして、進級された皆さんには、一年間のがんばりの結果進級されたことに心より敬意を表したいと思います。

それぞれに、胸の中で去来するものは違うかもしれませんが、新たな自分を見つけるための学習が始まります。未知なる時間と空間への旅に一緒に出かけましょう。

◆福祉心理学科での学びについて

それぞれの考えのもと、福祉心理学科の門をたたかれた1年生の皆さんがこれから学ばれる学問は、人々の福祉(=幸福)に役立つ「心理学」ということになります。「心理学」というと、人の心を分析し理解することが可能なものと考えている人もなかにはいるかもしれませんが、けっしてそういうことではありません。

「心理学」には科学としての側面があります。客観的な法則を見つけ出すことも「心理学」の大切な課題です。そのためには、「心理学」の基本になる概論をしっかりと身に付ける必要があります。また、意識や行動を実験的に証明することにも取り組まなくてはなりません。そこでは、数学的な思考や計算などが入ってきますので、今からそれなりの覚悟をしておいてください。

一方, 2年生以上の皆さんは、これまでの学習を通して「心理学」に少しは触れてきたわけですから、「心理学」の何たるかがわかりかけてきたと思っている方がいるかと思います。しかし、実際はそうではないことをまもなく知ることになると思います。まだ「心理学」の淵しか覗き込んでいなかったことが理解できる日は近いと思います。一年間で、「心理学」の核心

に近づくための入口から入ってもよいというお墨付きをようやくもらったと考えてもよいのかもしれません。それくらいに「心理学」の深さをこれから知ることになるのではないかと思います。それを知ったからといって臆することなく、一歩一歩確実に学びをすすめていってほしいと思います。

◆「心理学」を学ぶことの意味あい

「心理学」を少しかじると、人のなすことすべてを「心理学」で解釈したいという衝動に駆られることが起こります。下手な理屈づけをしたくなります。そして、相手のことがすべてわかったような錯覚にとらわれることがないとは言えません。しかし、人のこころがそう簡単にわかるはずはありません。むしろ「心理学」を学べば学ぶほど、人間の不思議さや心の深さにふれることになり、わからないことがたくさんあることに気づかされます。そして、謙虚な気持ちで相手とかかわりを持たせてもらうことから生まれる心のつながりの大切さを理解することになります。

「心理学」を使って相手の心を変えてあげるといったあさはかな驚りはどこかに一掃されることになると思います。人間として素直に相手の生き様を受け入れていくところに、「心理学」としての究極の姿があるように思うのは私だけでしょうか。

また,「心理学」の知見は人々の幸せのためにのみ使われなくてはいけないことをくれぐれも忘れないでいただきたいと思います。そこでは,使用する側の倫理と責任がいつも問われることになります。

◆おわりに

簡単にではありますが、「心理学」の一側面について述べてきました。これから、「心理学」を学ばれる1年生はもとより、進級した2年生以上の方にも共通したものをと考えながらまとめてみました。私の思いのほうが先行した感が否めないのですが、大事なことと思いましたので、少し気に留めておいていただければと考えています。

それはそれとして、新たなスタートが切られます。新鮮な驚きもあるで しょうし、スクーリングを通して友達を作られることもあると思います。と かく通信というと孤独な学習と思われがちですが、このような場を通して仲間と出会いお互いに励まし合いながらがんばることもできます。

学問をする喜びと楽しさを、通信だからわかりあえる仲間と共有することも、通信のよさのひとつではないでしょうか。有効に場と時間を活用し、健康で実りある一年になることを心より祈りながら、お祝いの言葉にしたいと思います。

新入生・進級生の方々へ

白井秀明

◆入学・進級おめでとうございます

研究室の窓から見える桜が満開です。福祉心理学科へ入学なさったみなさん。心から歓迎いたします。「やりぬいてやろう!」という強い決意を抱いている方、レポートを書く時間をどうやってつくろうか? こんなに難しそうな本を読んで本当にレポートが書けるんだろうか?? と少し不安に思っている方など、さまざまだと思います。一方、進級なさったみなさん。お疲れ様です。順調にレポート提出やスクーリングをこなされている方、なかなか順調に進まず焦りを感じている方など、こちらもさまざまだと思います。

私にとって、この桜の季節は年間の授業計画の再編成の時期です。授業で配ったプリントや受講生の授業の感想などを見返しながら、昨年度にやったことは1年前の計画通りにいったのか? ここはうまくいかなかったから見直す必要があるかな? 新年度の授業は、この計画通りうまくいくかな?などとあれこれ考えます。少し強めの風に揺れている桜の花びらを見ながら、毎年この時期に感じる、期待、不安、焦りなどは、こうした計画の立案や見直しの作業からくるのではないかと考えてしまうのですが、それは言い過ぎでしょうか?

いずれにせよ、みなさんがこの時期に抱くさまざまな思いは、通信教育という非常に限られた時間で自分の「学び」をどう実現しようかと真剣にお考えになっているからこそだと思います。一年後の桜の季節に、計画通りに実現されたことがたくさんある。よかったなぁ!と、お互い思いたいものですね。

◆入学・進級のプレゼント

今回の目的は、福祉心理学科の新入生・進級生へのメッセージということなのですが、ただおめでとう、がんばってね、といっても、なにかカレンダーの表紙のようにめくられて読みとばされるのではないかと、いらぬ心配

をしてしまいます。だったら、読みとばされないような文章を書けばいいじゃないかと言われそうですが、私にはその文章力もありません。そこで、プレゼントをしたいと思います。ものではありません。私が大学時代に教育心理学の講義で紹介された本に載っていたエッセイです。

いまだに「教えること」「学ぶこと」を考えるときに、私の心の中で原点になっているものです。他力本願?……まあ、本学とは宗派が違いますが、お許しください。それは次のようなものです。

私はかつて幼稚園の 2 児を近郊に伴った。彼らは"みやこぐさ"の花に注意を引かれたが、その名を問うほかに能がなかった。当時、私どもの菜園には、同じ豆科の"えんどう"の花が咲いていたので、私は名を教えるかわりに、その花を持って帰り、おうちでそれによく似た花を見出すようにと指導した。彼らが帰宅後両者の類似を見出した時には、小さいながらも自力に基づく新発見の喜びに燃えた。やがて一人は"みやこぐさ"について、"これにもお豆がなるのか"と尋ねた。それは誰にも教えられない独創的な質問であった。私はそれにも答えずに、次の日曜に彼らに現場で確かめることを提案した。彼らがそこに小さな"お豆"を見出した時、そこには自分たちの推理の当たった喜びがあった。秋が来た。庭には萩の花が咲いた。彼らが萩にもお豆のなることを予測した。彼らは過去の経験から、いかなる花に豆がなるのかを自主的に知り、その推論を独創的にまだ見ぬ世界に及ぼしたのである。

(渡辺万次郎「科学技術と理科教育」『理科の教育』Vol. 8, No. 11;高橋金三郎『授業と科学』国土社,1973 より引用)

少しく解説がいるかもしれません。ミヤコグサなどの豆科の花の多くは, ふつう蝶形花といって蝶が羽を広げてとまったような形をしています(下図

参照)。そんなめずらしい形の花なので、幼い子どもらの目にとまったのでしょう。 初老の(?)男性と幼子らのほのぼのとしたやりとりと感じますが、じつは「学ぶこと」と「教えること」についてたいへん考えさせられる事例だと思うのです(他にも



いっぱい読み取れることはあるのですが)。「教えること」についてはスクーリングの時にお話しするとして、今は、そう、「学ぶこと」です。幼い子どもたちは「なに」を学んだのでしょうか?

いるいる言い表し方はあるとは思いますが、ここでは花の形が似ていることの「意味」とでもしておきましょうか。もちろん、「蝶形花にはマメができる」という意味を、子どもたちは男性からもましてや花たちからも一切告げられていません。花の形が似ている、一方にはマメがあるという事実たちから自分自身の力でつかみ取った、もっと言えば、つくりあげた「意味」です。自分でつくりあげた「意味」だからこそ、その意味を自分自身で使って「これ(ミヤコグサ)にもおマメがなるのかな?」と独創的な予想をすることができるのです。そして、だからこそその予想が当たったときには「喜び」に打ち震えるのです。おそらく予想が外れたら「驚き」にうちひしがれるに違いありません。自分でつくりあげた「意味」、それにもとづいた予想の確かめにはそんな感情を揺さぶる効果があると、私は信じています。「学ぶ」というのは、こんなダイナミックなプロセスなのです。

◆よけいなお世話

こうした文脈の中で「学ぶとは」をまとめれば「自分で意味をつかみ取ってそれを確かめる過程」ということになります。何か結果にあたるようなものを記憶してレポートやテストでそれを思い出して書くといったような静的なプロセスとは無縁なのです。ましてや数冊の参考書から数百字ずつ「……」付きの引用だけが並んでいて、最後の最後に「…ということがわかりました。」だけが自分の言葉というレポートに出会うと、心から泣きたくなってしまいます。どうしてこんなわくわくする楽しい「学ぶ」というプロセスを避けて通ってしまうのかな、と。

じゃあ、どうやったらこの福祉心理学科の通信教育で「学ぶこと」を楽しめるのか。それには、まず『福祉心理学科 スタディ・ガイド』をよーくお読みになることだと思います。そして各科目の教科書や参考書を読んでガイドを読み直す。このいったりきたりが秘訣だと思います。

幼稚園生になんか負けていられません。ぜひ「学ぶ」ことをご自分自身で 楽しんで、レポートで報告してください。期待しています。 4

福祉心理学を学ぼうとしている方へ

小松 紘

◆心理学の対象

心理学(psychology)は、その語源から判断しても、「心の学」(ギリシャ語の"こころ"を意味するpsyche + "学"を意味する logos)として一般に受け入れられていますが、では、"こころ"とは何かということになると、それを問題にしようとする人の数だけ意味があるようにも思われるし、あるいは、きわめて簡単な表現で言い表わせるようにも思われます。このように主観的で曖昧な"こころ"は、科学的な用語としては意味が多義すぎるため、言葉としてはいささか味気ない感じがしますが、心理学では「意識 consciousness」という概念が用いられることが一般的です。しかしこの「意識」も主観そのものですから、科学としての心理学では、観察や測定可能な「行動 behavior」をより客観的指標として、意識のあり方を知る手がかりにしてきたわけです。その意味で、「意識」と「行動」は、心理学の目的のひとつである人間理解の重要な研究対象であるわけです。

◆心理学の2つの領域

ところで、人間を理解するといっても、大きく2つの立場があります。ひとつは、私たちの日常的な生活の場での理解であり、この例は無数にあります。たとえば私たちの買い物のしかたを見ると、日用品を買う場合のように習慣的な買い方、趣味品を買う場合のように選んで買う選択的な買い方、品物に魅了されてあれこれ考えずに買ってしまう無選択的(あるいは衝動的)買い方、自家用車など高額な品を買う場合のようによく考えて計画的に買う買い方があります。これらの購買行動は日常的によく見られる行動であり、心理学の応用領域、たとえば消費者行動心理学の研究課題でもあるわけです。

一方この問題は、人間の「欲求 need」として、「行動」を引き起こす

「動機づけ motivation」という心理機制(メカニズム)の重要な説明概念にもなっています。つまり私たちが何か行動をする場合、例えば、食事をするというようなケースでは、血糖値が低下して"おなかがすいた何か食べたい"と思っている状態が「欲求」なわけです。でも大事な会議の最中なので我慢せざるを得ないということがしばしばあります。つまり「欲求」とは生体内の何らかの欠乏や過剰がその原因であるく状態>であって、まだ行動には至っていません。

やっと会議が終わりました。さあ食事に行こうと立ち上がりました。この行動を喚起する直接的な力は「動因 drive」といわれます。でも、食堂はどこにあるのでしょう。つまり「動因」だけでは行動は定まりません。おなかのすいた人々は、食堂に向かって移動し始めます。このときこの'食堂'は、行動を方向づけるところの「誘因 incentive」となるわけです。食堂で食事を終えたとき、「欲求」も「動因」も解消するわけです。

上の2つの立場のうち、前者は具体的で、私たちの購買行動の理解に役立ちます。一方後者は、例にあげた人間の生理的均衡(ホメオスタシス)とは別の、派生的、二次的欲求の存在をさらに仮定すると、広く私たちの行動一般を説明することができます。

◆実学としての福祉心理学

基礎を勉強すると、そこから得た知識を実生活で試してみたくなりますし、応用の分野で仕事をしていると、背景にある心理機制(メカニズム)に関心を持つものです。心理学の応用領域は常に基礎領域による点検が必要であり、基礎領域は、それが人類のみならず地球レベルで、はたして意義ある研究に発展するものなのか、検閲が必要と思われます。基礎と応用は、よく車の両輪にたとえられ、そのバランスの大切さが強調されますが、その車が走る軌道は、人類を含む地球家族にとってよりよい未来に続くものでなければなりません。

心理学が実証科学である以上、私たちは多くの人が納得できる証拠(エビデンス)を得るために、客観的で、信頼性が高く、正しく対象を捉えられる技法を修得することが求められます。それに加えて、心理学を学ぶ私たちは、学ぶことによって得られるものを、"世のため、人のため、自分のた

め"に、日日の生活の中で活かしていくことを心がけることが大切であると思います。その意味で心理学は実学であり、「福祉心理学」は"学びと実践"の可能性を探求する、またとない場であるといえるのではないでしょうか。

福祉心理学科への期待

宇田川一夫

◆1 はじめに

心理学を専攻していると時々人から「人のこころがわかりますか?」「なんだか分析されているようで怖くなります」等のようなことをしばしば言われることがあります。一般の人々は、このような「万能化した心理学のイメージ」を持っている傾向にあると思います。皆さんも福祉心理学科を専攻した動機に多かれ少なかれこのようなイメージをもちながら、少しでも「人間心理」の理解が深まったらと思い専攻しているのではないかと推察しております。

さて、心理学の勉強を始めていかがでしょうか。「人のこころがわかるようになった」でしょうか。私は、上記の質問に対しては、「人のこころがわかったなら、心理学の勉強などはしておりません」と答えております。人間の心理は、そんな単純でないことはすでに皆さんおわかりであろうと思います。人間の存在は、どのような学問を持ってしても「未知数の存在」だろうと思います。「わからない存在」であるが故に解明をしたいと思うのが、人のこころだと思います。その結果、科学が進歩し、人間存在がかなりの部分において解明されてきたことも確かです。心理学においても、心理学を勉強しない人より、心理学を勉強した人の方が心理を少しはわかると言えるでしょう。

◆2 科学と心理学

心理学において「人のこころがわかる」というテーマは、心理学の根幹的 テーマとなっております。

福祉心理学を勉強している人はすでにお分かりのように、心理学の一般的 イメージとかけ離れた内容を勉強していると戸惑っている人が多いのではな いかと思います。心理学が「実証科学」であることをまだ十分に理解してい ない人にとっては。極端に言えば「人の心理が見えない心理学を勉強している」と思っている人もいるのではないかと思っております。

不登校や人の悩みの一助になれば等のような臨床心理学に興味のある人にとっては、その思いはより一層強いのではないかと推察します。確かに臨床現場では、「実証科学」から離れたことを要求され、またときに効果的に働くこともあります。それでは、他の客観的心理学は、「あまり必要ではないのでは」という問いが生じてきます。皆さんは、その問いをどうお考えになりますか。

しばしば主観性が要求される臨床心理学にとって、主観性を客観化する能力をつけていないとしたら、その主観性は、一般化される内容ではなく、個人的な体験に落ちる危険性を秘めています。したがいまして、主観性を使う臨床心理学にとっては、主観的体験を客観化する能力がより求められることになります。もしそれを怠ることになると「命綱を持たずに危険な未知の世界に入り込むこと」に等しくなります。それは、クライエントとカウンセラーが共に危険に巻き込まれることを意味しています。

◆3 レポート作成上の留意点

客観化する能力は、どのように身につけたらよいのでしょうか。現実的・ 具体的な「レポートのまとめ方」を例に出します。

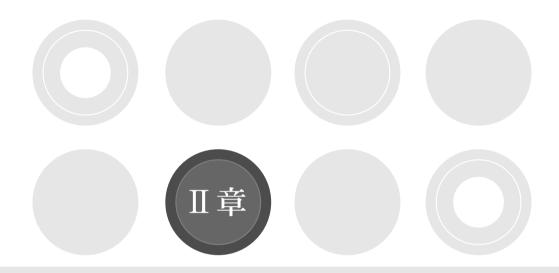
レポートの内容は、一言で言えば幅があります。そこで「おや?」と思う ことから述べてみます。

レポートは、参考書等(インターネット検索した文献も含む)をそのまま「要約」するレポートがありますが、それはレポートと言うよりは、「要約文」と言った方が正確でしょう。要約して理解したことから、レポート課題を考え、書くことが「客観性の能力」が育つことであろうと思います。そのためには、「時間」と「努力」が求められます。

また、レポート課題を十分理解しないレポートがあります。内容がよいこともありますが、レポート課題からズレております。なぜそのようなことが起こるかというと自分の「主観性」を先行させた結果によるものと思われます。教員が求めた課題(客観)に対応せず、自分の思い、考え(主観)を優先したためと思われます。たとえ、そのレポートがすばらしい内容であって

も相互的対応性(主観性-客観性の対応)に欠けているレポートとなってしまいます。

私のスクーリングを聞いた方はすでにご承知ですが、「意識」の特徴のひとつに「怠惰」(省エネルギー)がありますので、その特徴と仲良くするのではなく、適切につきあうことが客観性を身につける道と思います。



心理学実験への招待



心理学ではなぜ実験をするのでしょう 実験と心理学の深~い関係 実験レポートのまとめ方 心理学実験 I をふりかえって

心理学ではなぜ実験をするのでしょう

小松 紘

◆実験 (experiment) とは

私たちの毎日の生活のなかで、何も問題なく過ごしているときには気づかないことでも、いったん困ったことが起こると、どうしてそのようなことが起こったのだろうかと、いろいろその原因を問題にし、それらの因果関係を考えることになります。たとえば、Aさん宅で一緒に暮らしているおじいちゃんが、座敷でつまづき転んだとします。このとき「おじいちゃん気をつけてよ!」と言っただけで終わってしまわないで、どうして転んだのだろうかと考えて欲しいものです。

この場合、転ぶという結果を引き起こした原因として、大きく①座敷内の物の配置や畳の状態、照明などの環境側の要因と、②おじいちゃん自身の運動能力や注意のしかたなど、心身機能の問題、さらにはおじいちゃんが日頃不注意な人なのかどうかといった、当事者側の要因が考えられるでしょう。でも、おじいちゃんに尋ねたところ「暗かったので」という答えが返ってきたとしたら、照明の適正さが問題にされなければなりません。そこで照明が調べられることになります。

さて、いざ調べようとすると、私たちはそこに様々な問題が存在することに気づくことになります。たとえば、照明が適正であるかどうかは座敷の広さと関係があります。洋間の場合はとくに壁面の材質や明度、色なども取り上げられなければなりません。でもおじいちゃんは日本間が好きなので、家の中にある4.5畳、6畳、8畳の部屋それぞれについて、30ワットの蛍光灯1本、同2本、同3本と照明条件を変え、明る過ぎずまた暗過ぎず、しかも足下にある物を見つけやすい条件を調べることになりました。実はこれは立派な実験場面ということになります。そして「転んだのは照明が不適当だったからではないか」という仮説(hypothesis)のもとに実験がなされることになるわけです。

◆実験における配慮

不明なこと、わからないことをいろいろな方法を用いて調べ考えて、真理を究明することを研究(study、investigation、research)といいます。実験はその問題の因果関係についてある仮説を立て、それを検証するために、他の要因を一定にして原因と思われる要因を系統的に調べ、そこに存在する法則性を明らかにする研究法のひとつです。他の要因を一定にすることは、ふつうの生活では無理なことが多いので、必要に応じて照明や音、湿度、換気などを統制(コントロール control)できる特別な部屋が作られますが、これを実験室(laboratory)といっています。心理学の歴史では、1879年にドイツのライプチヒ大学に世界で初めての心理学実験室が、W.Wundt(ウィルヘルム ヴント)によって設立されました。ここから科学的心理学がスタートしたといわれています。

科学が備えなければならないことは、経験的に確かめることができる実証性と論理性、体系性ですが、実験はこれら科学的知識を得るための有力な手段といえます。上の例でいえば、おじいちゃんが転んだのでお隣に相談したところ、30ワットの蛍光灯2本がよいと言われたとしても、それは日常的知識であって科学的知識ではありません。3つの部屋それぞれにおいて、蛍光灯の本数に関する3つの条件ひとつひとつを実際に試し、おじいちゃんの印象を訪ねてみて、初めてその部屋にふさわしい電球が決まるのです。この場合蛍光灯の本数を独立変数といい、おじいちゃんの明るさ感あるいは見やすさ感を従属変数といいます。さらに部屋の広さは助変数(パラメータparameter)といわれます。実験は一般に要因を操作する実験条件(または実験群)と、要因を操作しない統制条件(または統制群)を設けて結果を比較し、要因の効果を調べます。しかし、上の例のように要因間で比較する場合もあります。いずれにせよ、このような手続きを経て得られた知識は科学的知識といえます。この例でのおじいちゃんは被験者(subject)であり、照明と適正さを調べたAさんは実験者(experimenter)になります。

しかしAさんの試みも1回だけでは偶然の結果かもしれないので、何回か調べてみることにしました、そのことによって得られた知識はより信頼性 (reliability) のあるものになり、さらにまた、多くのお年寄りに参加してもらって調べれば、より客観性 (objectivity) が増すことになります。また

蛍光灯の本数を変えてみたAさんの試みも、おじいちゃんの部屋の照明を決める方法としては、**妥当性**(validity)のある方法といえます。ところが、もっと厳密さを要求する実験では明るさと色とを分離し、明るさの効果だけを見たいなら、光のスペクトル分布を変えてしまう電圧調節法ではなく、観察対象と照明光源間の距離を変えたり、NDフィルターを用いたりします。また測定に際しては、照明強度の測定順序をランダムにして、順序効果を相殺したり、被験者となる男性、女性の人数を同じにしたり(これを**カウンターバランス** counterballanceといいます)、いろいろと配慮しなければならないことが多いものです。おじいちゃんの部屋に対する好みなど、被験者の内的条件を考慮すれば、事態がさらに複雑になることはご想像いただけると思います。

実験は、一言で言えば、確かな知識を得るために行われるのですが、とくに上に述べたような、刺激の物理的側面を操作することによって、人の意識や行動を調べる方法は、精神物理的、あるいは心理物理的実験として比較的長い歴史をもっています。この方法では実験に際して、被験者に競争意識などもたないよう、また実験者にも結果に特別の期待などもたないよう求められます。後者は実験者変数などと言われていますが、これを防ぐために、実験の教示(instruction)をテープレコーダーに吹き込む方法が用いられたりします。しかし実験の中には、被験者や実験者の内的条件、あるいは相手への印象や効果を、積極的に調べようとするものもあり、さらには騙し(deception)のテクニックを用いたりするものもあります。

くわしくは実験に関する参考図書などで調べてみてください。

実験と心理学の深~い関係

大関信隆

本学通信教育部で心理学を学ぶ際に必ず経験する授業のひとつに「心理学実験」があります。「実験」などと言うと、何やら理系の人たちがやるような印象を持ち、およそ心理学とは無縁の授業のように思われた方も多いのではないでしょうか。心理学はもっと深遠な、形や数字では表せない、人の心の奥底を知る学問のような気がしたのに……と。

このような疑問を持たれた方のために、今回は紙面をお借りして、なぜ心理学で「実験」の授業があるのか、「実験」の授業から何を学べばよいのか、についてお話ししたいと思います。「実験」って、実は心理学ととても深~い関係にあるんですよ。

◆心理学の目的とその接近法

心理学の学問的な目標を大雑把に説明するとしたら、それは「多様な人間の行動を心理的側面(心理的要因)から説明すること」と言えます。ある人間の行動が生起する裏側には、どのような心理的要因が存在し、どのような影響を及ぼしているのか、についての一般的法則・モデルを検討することです。

人間の行動に影響を及ぼす心理的要因を探求していくには、いくつかのアプローチがあります。例えば、対象の行動や心理的内界をつぶさに観察していく方法(観察法)や、アンケートのような"質問紙"を使って大勢の人の意見や考え方を探る方法(調査法)などです。そして、「実験」という方法もそのひとつです。

◆実験って何?

一般的に「実験」という語が意味するものは「厳密な統制条件下で、特定 の要因操作が対象の変化に影響を与えたかを検討すること」です。これを心 理学の場合に置き換えて表現するのなら、「ある心理的要因が人の行動にどのような影響を与えるか検討したい時(研究の動機)、その要因以外の要因を極力排除した状況を作り出して(厳密な統制条件下)、影響の源と考えられる要因を加えたり、取り除いたりするなかで(要因操作)、要因が実際に人の行動に影響を及ぼしたかを検討すること(データの分析と考察)」と言えるでしょう。

◆実験法の利点

先にご紹介した3つの方法, すなわち「観察法」「調査法」「実験法」は, いずれも人間の行動に影響を及ぼす心理的要因を検討するために用いられますが, なかでも実験法は, 心理的要因とそれが影響を与える人間の行動との関係を最も明確に描き出すことのできる手法といえます。

確かに、実験法は「厳密な統制条件」を必要とするので、観察法ほど日常的な状況下での自然な人間の行動を捉えているとはいえません。また、同時に実験ができる人数に限度があるので、数百人単位で意見を聞ける調査法ほどには多くの人から情報を得ることができるわけでもありません。ですが、人間の行動は非常に複雑であり、それに影響を与える心理的要因も多岐にわたります。日常的な行動場面では、いったいその行動に最も影響を与えている要因が何なのか、見えにくくなってしまいます。また、多くの人から意見を聞いても、その意見が実際の行動や意見をそのまま反映しているという保証は、必ずしもありません。

そんなとき、「限定された状況下ではあるが、この心理的要因を操作すると、確かに人間の行動が変化する」という、「心理的要因と行動との関係性」を明確に打ち出せる実験法は、非常に強力な「人間の行動を探求していくための手段」となります。

◆「実験」の授業がある意義

先ほども書きましたが、人間の行動は非常に複雑なので、前述した3つの方法のいずれを採っても、人間の行動メカニズムを一時に、完全な形で捉えることは難しいものです。大切なのは、自分が知りたい人間の行動に関する

メカニズムが、どのような方法を採ればより明確に描き出せるのか、を考えることです。このような、「研究対象に近付くための方法:研究の方法論」のひとつとして、「実験的手法」を学ぶことが心理学実験の大きな目的と言えます。

現在、心理学の第一線で行われている実験は、非常に複雑で難しいものも少なくありません。ですが、スクーリングで皆さんが体験する実験は比較的簡単なものであり、また内容も古典的な(ベーシックな)ものがほとんどです。そのなかには「これのどこが人の行動説明に関係があるのか」少し見え難いものもあるでしょう。ですが、実験を行う1~3年次は、実験法という「手法」を体得することに重点が置かれています。つまり、

- (1) 実験とはどのような流れで実施されるものなのか
- (2) 状況を統制するとはどのようなことか
- (3) 要因を操作するとは何か
- (4) 自分が実験を実施する側(実験者)になったとき、相手(被験者)が どのような反応を返してくるか

など、実験法を用いて実際に研究する際に重要な事柄を体験してもらうことが重要かと考えています。そして、ここで体験した「要因を操作するという視点から、人間の行動を探求していく」というアプローチは、「実験」に限らず、心理学のさまざまな事柄を習得していく際に、とても大切な枠組みとなるはずです。これらの点を念頭に置きながら、心理学実験に臨んでいただけると嬉しいです。

◆歴史的にも深~い関係

最後に、心理学の歴史から見た「実験と心理学の深〜い関係」について、 簡単にご紹介しておきます。

近世以前まで「こころ」というものは、主に哲学的な側面から語られてきました。ですが、16~17世紀頃に天文学や物理学の学問的発展があり、「実証可能な研究方法を採る学問こそが科学である」という風潮が強くなりました。そのなかで、心理学も科学の一ジャンルとして確立するために、「実験的手法を用いたアプローチ」を模索するようになりました。そんな折、後に「心理学の父」と呼ばれる**ヴント**(Wundt,W. 1832~1920)が世界で初めて

大学に心理学の講座を設けましたが、それは実験心理学の講座でした。また、それと前後して、記憶や情動などの研究も、実験的な手法を用いて数多く行われた経緯があります。

比較的関心を持たれている方も多い臨床心理学分野での例を挙げるなら, 臨床心理学の中で重要な概念の一つである「学習性無力感(何度も何度も失 敗を繰り返すと、やがて行動そのものを起こそうとしなくなる)」も、最初 は動物(白ネズミ)を使った実験から導き出されたものなんですよ。

以上、心理学における「実験」の意義や重要性について述べさせていただきました。「実験」に対する印象や考え方が、少しでも変わっていただけたでしょうか。スクーリングの際も教える側として、できるだけ「実験法の意義」を理解していただけるよう努力したいと思いますので、受講者の皆さんも尻込みせず、積極的に実験に臨んでみてください。

実験レポートのまとめ方

中村 修

心理学実験 I は、p. 23~26で大関先生が書いたように、「実験法」という手法を体得することに重点が置かれていますが、それに加えてもう一つ大事な目的があります。それは、「研究を記述する」方法を学ぶことです。

◆心理学実験の流れ

心理学実験は、以下のような流れで進みます。

①実験概要の説明→②実験→③結果の処理の説明→④レポート作成 (実験課題によっては①と②が入れ替わることもあります。というのも事前にどのような ことを目的とした実験かということを知ってしまうと、結果に影響してしまうことがあ るためです)。

④のレポートは、これまで皆さんが各教科で作成してきたレポートと毛色が違います。何が違うかというと、「心理学の論文形式にのっとって」まとめてもらうことになります。それではまず、心理学の一般的な論文の形式を説明しましょう。

◆一般的な形式

心理学の論文は、「問題・目的」「方法」「結果」「考察」の4つの部分から成り立ちます。

【問題・目的】大まかに言って、以下の3点についてまとめます。

- (1) 問題意識の整理:研究のテーマを取り上げた理由,特になぜそのことを研究することが(学問的,社会的に)重要なのかということ
- (2) これまでの研究の整理:テーマに関してこれまでの研究の動向とそれでわかっていること、これから取り組まれるべき問題点、特に自分の研究に直接関連する研究の紹介
- (3) 目的:自分の研究で明らかにすることを明確にし、仮説、予想を明示

【方法】ここでは、この部分で書かれていることを読んだ人が同じように実験をやってみることができるように説明していきます。

- (1) 被験者:被験者の属性(性別,年齢など),人数
- (2) 実験日、実験場所
- (3) 材料、課題:実験に用いる機材・物品について説明します。
- (4) 手続き:実験の「流れ」について説明します。

【結果】ここでは、実験から得られたデータに基づく事実のみをまとめていきます。必要に応じて、図や表を用います。ただし、図表を載せればいいというものではなく、図表のどこがポイントなのか、見るべき点をしっかりと記述します。

【考察】結果の解釈を行います。結果が仮説・予想が支持したのかどうか結論づけます。また、問題のところで整理したこれまでの研究結果との比較から、新たにこの研究でわかったことをまとめます。要は、この研究で明らかになった点、ならなかった点、今後の問題点を整理します。

◆なぜこのような書き方をするの? -

p. 24で大関先生は「心理学における実験」を以下のようにまとめています。文章をそのまま引用しますが、わざと3つの部分にわけて書いてみます。

- (1) ある心理的要因が人の行動にどのような影響を与えるかを検討したい 時 (研究の動機).
- (2) その要因以外の要因を極力排除した状況を作り出して(厳密な統制条件下)、影響の源と考えられる要因を加えたり、取り除いたりするなかで(要因操作)。
- (3) 要因が実際に人の行動に影響を及ぼしたかを検討すること (データの分析と判断)。

(1)から(3)までの各部分と「心理学の一般的な論文の形式」を対応させると、「(1)=問題・目的」「(2)=方法」「(3)=結果・考察」になります。要は研究の動機から研究結果まで、その研究に関するすべてのこと、一連の流れを論文で説明しなければなりません。その流れに沿った説明の仕方が、この論

文の形式ということになります。もう少し説明を加えましょう。

どの研究法を用いる場合でも、研究は「○○について調べたい、なぜ人は ○○のような行動をするのだろう?」という研究の動機・問題意識をもつこ とから始まります。ただし、漠然とした問題意識だけでは研究は進みませ ん。つまり、「○○には△△が影響するのでは?」という形での「仮の答え を含んだ問い」をもたなければなりません。その点については、私が書いた p. 40~50の「心理学研究法のヒント」(清兵衛シリーズ(笑)です)を参照 してください。研究を記述する際にも、まずは「問題・目的」として、「問題 意識から検証可能な問いへ」と至る流れを説明していきます。

次に、この「仮の答えを含んだ問い」をどのような方法を用いて検証したか、ということを「方法」で記します。この部分は本当に重要です(もちろん他の部分も大事なのですが)。例えば、ある結果を示した研究で「被験者は大学生30人、実験法を用いて、このような条件で……」ということが説明されていたとします。その研究に興味を示した読者が、「それなら、小学生に同じことをやってみたらどうだろう?」「実験条件をこのように変えてみたらどうだろう?」などと、新たな問題意識をもち、そのテーマの研究を発展させていく、こともあるわけです。ある結果が導かれるのは、それを導き出した方法あってのことです。逆に言えば、どんな方法で明らかにしたのかがわからない結果は信用できないのです。

最後に、用いた方法でどんなデータが得られ、それがどういうことを意味するかを「結果・考察」でまとめていきます。得られたデータから、「仮の答え」を「本当の答え」に昇格させられるかどうかをこれらの部分で明確にしていくわけです。

◆心理学実験 I でのレポート作成

心理学実験 I では、前述の形式に則ってレポートをまとめてもらうということは説明しました。しかし、4日間日替わりで行うそれぞれのテーマについて、受講生の皆さんに一からまとめてもらう、つまり【問題・目的】からまとめてもらうのは実質的に無理なことです。その日のテーマにそってこれまでの研究を調べたりする余裕などはありませんからね。なので、【問題・目的】【方法】については、こちらで書くべき内容を整理した資料を準備し

ておきますので、それをもとにまとめていただきます。

皆さんにがんばってもらうのは、【結果】と【考察】です。これらは、実験当日どのようなデータが得られるかによって書くべき内容が左右されます。実験終了後、結果の処理(平均値の算出など)をし、実験種目ごとのフォーマットにあわせて結果を記述します。そして、得られた結果から考察していくことになります。皆さんがデータからどのように考えるか、どう考察するかが一番苦労するところでしょう。もちろん、「このような結果はこういうことを示す」ということは説明しますが、「みなさん共通にこういうことを書きましょう」ということにはならないのです。

◆レポートの具体例

それでは、以下にレポートの例を示します。これは、実際に今回の心理学 実験で行う実験種目のものではありませんし、スペースの都合でかなり短縮 して書いてあります。

実験テーマ:短期記憶容量の限界について

【問題】

短期記憶の容量の限界は「7±2チャンク」と言われている。このチャンクとは「意味ある情報のまとまり」を表す単位であり、短期記憶が物理的な情報量にそのまま対応するわけではないことを表している。ここから、チャンク化によって記憶可能な物理的な情報量が影響を受けることが予想される。本研究では、同一の文字が用いられているがチャンク化の異なる文字列を用い、チャンク化が記憶量に及ぼす影響を検討する。

仮説:チャンク化された文字列を記憶する条件とチャンク化されない文字列 を記憶する条件とでは、前者の方が後者よりも再生量が多いだろう。

【方法】

被 験 者: A大学 1 年生 20名 (男女各10名ずつ)

使用機材: ストップウォッチ 2 つ 1 桁の加算用紙 20枚 結果記述用の用 紙 20枚

記憶材料:16文字から構成される2つの文字列を用いた。

材料1 チャンク化された文字列「 Every Little Thing 」

材料2 チャンク化されていない文字列「 yEgrl neTivt heitL 」 この材料2は、材料1をランダムに並べ替えたものである。よって、材料1と2は使用される文字種は同一であるが、文字の並びの違いによって、材料1は3チャンク(Every, Little, Thing)、材料2は16チャンクの文字列となっている。

手続き:被験者を、材料1を記憶するA条件と材料2を記憶するB条件に10名ずつ(男女5名ずつ)振り分けた。各条件とも、記憶材料を10秒間呈示し、その後リハーサルを妨害するため、1分間の加算作業を行った。最後に、呈示された文字列の再生を求め、用紙に記入してもらった。

【結果】

条件ごとに、正しく再生された文字数別の被験者数を表 1 にまとめた。平均正答数は、A条件で15.9文字(SD 0.32)、B条件で5.9文字(SD 2.02)であった。これより、完全に正答した者はA条件だけにおり、再生量もA条件のほうが多いことが明らかとなった。

表 1 条件毎の正答文字数別人数

	16文字	15文字	11文字	6 文字	5 文字	3 文字
A条件	9	1	0	0	0	0
B条件	0	0	1	6	3	1

注:表中の数字は人数

【考察】

結果から、チャンク化された文字列を記憶したA条件の被験者はB条件の 被験者よりも正確に再生する量が多いことが明らかとなった。よって、情報 のチャンク化が短期記憶に影響することが確認されたといえる。

参考になったでしょうか。実際に皆さんにまとめていただくレポートはこれよりも長いものにはなりますが、形としては一緒です。心理学実験 I で初めてこのような形式のレポートを書く作業をするのは大変なことだとは思いますが、頑張って、めげずに取り組んでいただきたいと思います。

◆最後に、もう一度、実験と研究法の意義を

心理学実験と心理学研究法のつながりについて、とでも言いましょうか:実験 | から||では「実験法の修得」と「研究の記述の仕方」、研究法 | では「実験法以外の方法の修得」と特に「構成概念の扱い方」について、研究法 ||では「検査法」「結果の処理の仕方」に焦点があてられています。これら全体で目指すものとは何でしょう。それは、「心理学のアプローチでの問題解決の基本的なやり方」を学ぶということです。これは、心理学で学んだ知識を役立てる方法を学ぶ、といっても過言ではないと思います。

皆さんがそれぞれの生活で出会う問題に対して、心理学の知識を生かして予想をたて(特に臨床心理学では「見立て」と呼びます)、その予想のもとに問題を整理し、事実に基づいた問題点、改善点を明確にする――このことは、臨床・教育現場であろうと一般の職場であろうと、どこにおいても大切なことには変わりありません。そのようなことを、実験 | ~ |||、研究法 |・ || と、時間をかけて、何度も繰り返すなかから学んでいただきたいと思っています。

心理学実験 | をふりかえって

(話し手) 大関信隆

「心理学実験 I」のスクーリングを受講された皆様、4日間毎日遅くまでお疲れ様でした。実験を進めレポートを書き終えることに追われて、じっくり考える暇がなく残念、という声もいただきましたので、この場を借りて、ちょっとふりかえってみました。

Q. 実験 | の「長期記憶の検索」は、「検索方略」を用いるか用いないかによって、10分間に思い出した数がどう変化していくのかを見ていきました。この実験は他の人と比較したり、平均を出したりしなかったのですが、それでも実験と呼んでよいのでしょうか。

A. はい。これも立派な実験です。

この実験は、「データ」として得られた「思い出した数」の変化がどのような要因によって引き起こされたのかを、検索方略の有無の効果と実験中の自分の心の中を振り返る「内省」とを合わせて考察するものでした。ひとりのデータをもとに考察していくので、「単一事例実験」と呼ばれています。記憶の古典的研究者として有名なエビングハウスも、最初は自分自身を「被験者」として実験を行ったことで有名です。

心理学の研究の目的のひとつは、心の働きや行動が起こるメカニズムについて、一般的な法則を見つけることです。今回の「単一事例実験」では、方略を用いた場合と用いなかった場合という「実験的操作」を行うなかで、ひとりの個体(今回は自分自身)から得たデータが、一般的法則に近いものであるかどうかや、法則がどう働いているかを見ていく、という「実験計画」に基づいた実験だったといえます。

Q. 今回の実験では、心理学の理論がまず自分自身に当てはまるかどうかを 考えてみることが大事ということですね。でも、私自身のなかに見出され た法則が他の人にも当てはまっているかどうかは、どうしてわかるので しょうか。

A. そういう疑問をもって、実験にのぞむのはいいことですね。①他の人に当てはまるかどうか、②何回やっても、また別の状況でやっても私自身に当てはまるかどうかなどは、この実験だけではわかりません。そういう疑問が出たら、次の実験を計画していくのが、研究を進めていくということです。

この実験では、日によって課題を変えてみました。「子のつく女性の名前」に取り組んだクラスもあれば、「カラオケの曲名」や「野菜の名前」に取り組んだクラスもありました。時間の都合でできませんでしたが、これらの課題を一人がやって、ほぼ同じ結果や法則が見出せれば、課題の違いという要因よりも、方略の有無の違いという要因の方が影響が大きいといえるかもしれません。また、たとえばまわりに同じ課題に取り組む他の人がいる今回のような環境と、ひとり静かな場所で取り組む場合では結果が違うかもしれません。

- Q. この実験で他の人のデータを寄せ集めて平均を出さなかったのは、何か 意味があるのでしょうか。
- A. 今回のような日常的な素材を用いた場合であっても、個々人がそもそも持っている記憶量には差があります。つまり「個人差」の要因が大きいわけです。このような場合、単純にデータを平均化してしまうと、個々人の持つデータ本来の意味が薄れてしまう恐れがあります。単一事例実験は、複数の被験者のデータを集めて処理した際に生じてしまう「被験者間のばらつきの影響」という問題を回避できる長所があります。したがって、今回のような目的の実験には適した方法だと言えます。

これまでにわかっていることからすると、10分間に思い出した数が、方略を用いればしだいに減りながらもある程度一定の数が思い出せるのに対して、用いない場合は後半にはガクッと減るという数の減り方のカーブ(=「プロフィール」と呼んでいます)が一般的に見出せる法則なのです。そのことを他の人と比較する際には、データを「標準化」(偏差値のような数値に変換する、と考えてください)したり、ベースライン(出発

点となる値)を揃えた上でカーブを見ていく、という方法をとればいいのですが、計算が複雑になるので省略しました。

- Q. あと、最初に「方略なし」をやった後に「方略あり」をやったので、 「方略あり」のときに「方略なし」で思い出した言葉が記憶に出てきてしまったのですが……。
- A. このことも「実験計画」を考えるうえでは大切なことです。それを防ぐためには、①「方略あり」の後に「方略なし」を行うグループと逆の順序で行うグループを分ける、②「方略あり」を行うグループと「方略なし」を行うグループに分ける、というようなことをすればよいのです。ただし、いずれの場合も「標準化」などのデータ修正を行う必要があるでしょう。また、グループに分ける場合は、2つのグループが等質であることを厳密には考えていかないといけません。

どの実験(正確には「試行」)のあとにどの実験を行うかで影響が出ることは「順序効果」と呼ばれます。それを防ぐための工夫として、たとえば小松紘先生の「背景色の効果」の実験では、「白一黄一黒一青……」の順番で出すグループと「白一黒一青一黄……」の順番で出すグループに分けていました。

- Q. あと、意外にものごとは思い出せないなぁと感じたのですが。
- A. そうですね。実験を通じて、人間の「記憶」の不思議にめざめていただいて、教科書や他の本をどんどん読んでいただければ、と思っています。 繰り返し出てくる名前は思い出せるとか、「記憶のネットワーク」をつくりあげれば思い出しやすくなるとかは、試験対策にも使えるかもしれません。
- Q. 他の実験には、どんな意味があったのでしょうか。
- A. たとえば「触2点閾の測定」(注:この実験は平成14・15年度のみ実施しました)では、人間の感覚に「閾」というものがあることを肌で感じてほ

しかったというものがあります。刺激が一定以上の大きさ(この場合は「2点間の幅」)になれば2点と感じるのに、それ以下だと1点としか感じないということは不思議ですね。でも、「視覚」でも「聴覚」でも「閾」というものはあります。それから閾には、幅がありましたね。その中央の値を「閾値」と定義づけしています。

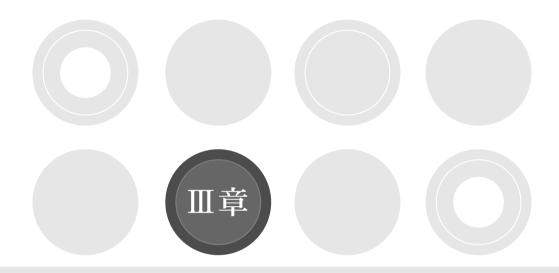
このことの応用を考えていくと、「閾」の値が「心理的状態」や「身体的状態」によってどう変わるかという実験も考えられます。落ち込んでいる時と快調な時では、触2点閾の値が変動するかもしれません。実際、連日の実験で疲れている方は、データが予測されるとおりにならずに考察が難しかったことを経験されたようです。

- Q. ある実験では、そのグループの人の平均や標準偏差を出しましたが、これは意味があったのでしょうか。個人によって、どう感じるかは、随分開きがあったのではないかと思うのですが……。
- A. 多くの人から集めたデータを比較する時、私たちはまずそのデータがどのような特徴を持っているのか(どのような分布になっているのか)に注目する必要があります。例えば算数のテスト結果を元にして、あるクラスと他のクラスとの間に違いがあるかどうかを調べる場合を考えてみてください。どちらのクラスも平均点は50点だったとします。ですが、ひとつのクラスではいろんな点数をとる人がいて(点数の分布はなだらかな丘のような形になります)、もうひとつのクラスでは多くの生徒が平均点に近い点数をとっていた(点数の分布はそびえ立つ山のような形になります)とします。こうなると、単純に平均点だけをみて「2つのクラスの生徒は等質である」と考えるには無理があります。そこで、平均以外にもデータのばらつき具合を示す標準偏差(SD)やデータが最も多く見られる場所を示す最頻値などの「代表値」を確認する必要があります。この中で、特に平均や標準偏差はデータの特徴を概観するための最初のステップとして、多くの場面で算出されます。

実験項目によって印象評定にばらつきが多かったものがありましたね。 逆にばらつきが少なかったものもあったかと思います。それらの違いか ら、さまざまなことを考察していけるといいですね。ばらつきがあること の意味, ないことの意味を改めて考えてみるなかで, 平均値や標準偏差を 算出する意味を考えてみるといいかと思います。

- Q. もうひとつ, 平均の差がどの程度あったら違っているといえるのでしょうか。たとえばある印象評定項目で, AとBの平均値がそれぞれ-0.82と 0.73, 標準偏差がそれぞれ1.52と1.68だったとします。このときはAとB に差があったのでしょうか、なかったのでしょうか。
- A. AとBの平均点の差は1.55で、5段階評定としては比較的開きが大きめですね。でも標準偏差をみると、どちらの場合もばらつきが多いように思います。これを仮にグラフに描いてみると、二つの山が重なり合っている部分が大きいことに気づくでしょう。こうなってくると、平均点の差の開きほどには、実際の2つの違う条件の効果の違いは現れにくかったのでは、と考えられます。この結論をより厳密に確認するためには「tー検定」や「分散分析」などの「平均値の差の違い」を測る「統計検定」を行いますが、心理学実験 Iの段階では、まだ心理学を学び始めたばかりですので、平均の差と標準偏差から考察していただければ、と思います。

お忙しいなか、ありがとうございました。



心理学研究に取り組む



心理学研究法 I レポート作成のための ヒント(その 1・2)

心理学研究法 | レポート作成のためのヒント (その1)

中村 修

これから2回に分けて、心理学研究法 I に取り組む際に参考になる(はず?)ことをまとめていきたいと思います。それでは、ある事例から。

◆桶屋の清兵衛. 売上に悩む

むかしむかし、ある街に清兵衛という桶作りの職人がいました。清兵衛は最近のれんわけしてもらい、郷里に帰って自分のお店をもったばかり。お前は腕がいいからと親方にお墨付きをもらい、意気込んで商売を始めましたが……どうもかんばしくありません。あまり儲からないのです。「何で儲からないんだろう?」、ここのところ気も沈みがちです。悩んでばかりいてもしょうがない、なんとか手をうたなくてはいけませんが、さてどこに手をつければいいものか、それも迷いどころです。

そんなとき清兵衛はふと、「そういや、『風が吹くと桶屋が儲かる』なんていう話があったな。ほんとにそうなのかな」とひらめいてしまいました(話の展開が強引ですが、今しばらくお付き合いください)。

修行した店(以下、本店)はなかなかの繁盛店でしたので、清兵衛は自分の店のある地域と修行したお店の地域で「風が吹く」ということで違いがあるのかどうか、ということを調べてみることにしました。清兵衛は同じ吹流しを2個作り、一つを本店の弟弟子に渡して「今から3カ月の間、吹流しがきれいにはためいていた(=風の強い)日数を数えてくれ」とお願いしました。もう一つ、「売れ筋の、この大きさの桶が1日に何個売れたか、これも3カ月の間数えてくれ」ともお願いしました。もちろん、自分の店でも同じ吹流しをつけて、同じ大きさの桶の売れた個数を数えてみました。さて、3カ月がたって、どんな結果がでたでしょうか。それはまたの機会があれば……

◆清兵衛がたてた研究計画?

今の例をもう一度振り返ってみましょう。清兵衛がもった問題意識は、「うちの店は何で儲からないんだろう?」でした。ただ、「何で?」とばかり言っているわけにもいかないので、もう少し考えを進めて「儲かっている桶屋とうちの店は何が違うんだろう?」どんな違いがあるんだろう?」と、「原因として考えられるもの」を探してみました。そして、どこかから聞いてきた話から原因として「風」を取り上げて「風が儲けに影響するのでは?」という問いを考え、さらに「風が吹くと儲けが多い?」というように風の影響の方向まではっきりと決めました。

ここまでで清兵衛が作ったものは、「仮の答えを含んだ問い」です。実はこれが研究の「仮説」になります。この問いをより仮説らしい文章にすると、「風が吹いている日数が多いほうが、売れた個数も多いだろう」となります。風という独立変数が儲けという従属変数に影響するというわけです。仮説に関するちゃんとした説明は、テキストp.149からの「実験法の手順と留意点」の「1 因果図式」と「2 仮説の設定」を参照してください。p.152に書いてありますが、仮説をもつということは実験法という研究法だけに限った話ではなく、研究するうえでの最も基本的な形である「2つの変数の関連」を確かめるときにはどの方法であっても必要になるものです。「何だろう? 何が?」という問いから、要因を絞り、その要因を使った仮の説明を組み立て、実際に確かめてみる、つまり「問いから検証へ」、これが研究の流れなのです。

さて、それでは仮説を実際に確かめてみるわけですが、清兵衛はここで本店と自分の店を比べる、ということをしています。なんでこんな面倒な手間を踏んだのでしょう。本店だけを調べて、「やっぱり風が強く吹いてるから儲かってるんだ」と結論付けてはいけないのでしょうか。実はダメなのです。自分の店でも本店と同じくらい「風が吹いていた」のならどうでしょう。風が吹いていても儲かったり儲からなかったりしていたのでは、風が儲けに影響するとはいえませんね。「風が吹くと儲かる」が正しいことを確認するためには、「吹いてる一儲かっている」というデータと、その反対の「吹いてない一儲かってない」の両方がそろうことが必要になります。つまり、仮説を確かめるためには、仮説(で示した文章)と正反対のことをしめ

すデータもそろっていないといけません。だから2つの店で調べるという手間を踏んだのです。

◆心理学研究法 | のポイントは?

心理学研究法 | の課題を振り返ってみましょう。これら 4 つの課題では「○○について研究する際の○○法を用いた場合の研究計画を」考えてもらう形になっています。観察法、面接法、質問紙法という 3 つの研究法について学んでほしいため課題 | から 3 があるのですが、どの課題の場合でも共通に求められているポイントがあります。それは、「研究する上での基本的な問いをたて、仮説を考える」という作業です。例の中で清兵衛は「何で儲からないんだろう?」という問いから、「風が吹くと儲かるのでは」という仮説をたてました。皆さんにはすでに課題の中で「好き嫌いに影響するのは何だろう?」「攻撃性に影響するテレビ要因って何だろう?」「老年期に適応する条件って何だろう?」という基本的な問いを提示してあります。特に課題2を例にとって話を進めますが、皆さんはそこから、「好き嫌いに影響するのは○○かなあ」という「○○」にあたる要因を絞り、「○○だと好き嫌いが△△になるのでは?」という影響の方向をはっきりとさせた仮説を考えることが必要になります。

ここで清兵衛の話にもう一度戻ります。清兵衛のお話がなんとなく間抜けにうつるのはなぜでしょうか。「風が吹くと桶屋が儲かる」というどこかから聞いた話にそのまま基づいて研究を進めているから、がその理由かもしれません。「風が吹くと……」というのはもともと落語の世界の「屁理屈」(風が吹くと桶屋がもうかる理屈についてはここでは割愛しますね)なのでしょうが、そうはいっても「屁理屈も理屈のうち」かもしれませんね。みなさんが課題に答える際にも、なんでこの要因を独立変数に選んだのか(=どうしてこの独立変数が従属変数に影響すると考えたのか)、その理由を書いてください。それが、なぜこの仮説を考えたのか、の答えにもなります。自身の経験、参考にした本に書いてあったことなど、理由にあたるものは考えだした人それぞれにあるはずです。「なんとなくそう思った」、これだけは勘弁してください。もちろん、「何も書かない」もやめてくださいね。

仮説を考える段階を終えたら、「風が吹く」と「儲かる」のそれぞれを

はっきりさせる作業にうつります。つまり**測定**です。清兵衛は「風が強く吹いている」ことを 2 箇所で同じ基準で確かめるために「吹流し」を用意しましたし、「儲かる」ということを「同じ商品の売れた個数」から比べようとしていますね。課題 2 ならば、「 $\bigcirc\bigcirc$ 」と「好き嫌い」を面接法で聞く場合の構造化面接の仕方を考えることになります。そして、「仮説を確かめるためには、どんな人に、何人くらいに、面接すればいいかなあ」という被験者の問題も考えてもらい、研究計画を具体的にしていってもらうことになります。そのあたりの「測定」に関するお話は p.45 \bigcirc の「心理学研究法 | レポート作成のためのヒント(その 2)」で行いたいと思います。

◆1単位め・課題2と3の補足

以下には、通信教育部よりリクエストのあった、1単位め・課題2と3に 関する補足を簡単にまとめます。

(1) 課題2について:面接調査には構造化面接、半構造化面接、非構造化面接という3つのやり方があります。当然のことながら、面接調査をする上では「面接で何を聞きだしたいか」ということをはっきりさせておくことが大前提になりますが、この3つのやり方にはどうやって聞き出すかという点で違いがあります。非構造化面接では、「〇〇についてお聞かせください」という基本的な問いのみ被面接者(面接を受ける人)に提示し、後は被面接者に自由に話してもらう(そして面接者は適宜質問をはさむ)という、いわば即興的な面接が行われます。被面接者は何をどういう順番でどのくらい話してもかまわない、というやり方です。一方、構造化面接では、聞きたいことを絞り込んで、質問内容・回答形式(「はいorいいえ」で答えてもらうのか、いくつかの選択項目から選んでもらうのか、自由に語ってもらうのか)を細かく設定し、質問順もはっきりと決め、それを遵守して面接をすすめます。構造化面接と同じく細かく質問を用意するものの、被面接者の語りにあわせて質問順を適宜調整するやり方が半構造化面接となります。

非構造化面接では、被面接者に自由に話してもらう分、調査者が事前に 思ってもいなかったことも聞きだせるという長所はありますが、逆に人に よって情報が得られる部分と得られない部分に差が生じるという欠点もあり ます。 (2) 課題3について:1単位め解説の(6)③課題3-2)にある「攻撃性については考える必要なし」とは、この課題でみなさんが「攻撃性の高低を調べる尺度・項目」を作る必要はないということです。みなさんは攻撃性に影響を与えると思われる「テレビ要因」に関する質問項目・尺度を考え、質問紙を作ってください。「テレビ要因」といってもいろいろな事柄が考えられますね。先にも書きましたが、この「測定」に関して、そして質問紙の作成については(その2)で説明します。

心理学研究法 | レポート作成のためのヒント (その2)

中村 修

前頁に引き続き、心理学研究法 I に取り組む際のヒントをまとめていきたいと思います。今回は、「測定」にまつわる話です。

◆またしても清兵衛登場

桶屋の清兵衛はまたまた悩んでいます。前回は、「風が吹くと(桶屋が) 儲かるのでは?」と思い、本店と自分の店を比べてみました。すると、3カ 月の間両店で風の強さはまったく変わらなかったのですが、売上(同じ種類 の大きさの桶が売れた個数)は本店のほうがずっと多かったのです。つま り、風が売上に影響しているのではないという結論に達しました。となる と、風ではないとしたら、いったい何なのでしょう。

そんなある日、修行時代になじみになったお客さんがわざわざ清兵衛の店まで顔を見に来てくれました。清兵衛、思わず悩みをお客さんにこぼしたところ、「おまえさんの店は、なんていうか、『雰囲気が悪い』んだよ」と言われてしまいました。雰囲気? 本店を知っているお客様がそうおっしゃるんだから、そうなのかもしれません。そこで清兵衛、前回と同じく、本店と自分の店を比べてみようと思い立ちましたが、新たなる悩みを抱えてしまいました。「『雰囲気』ってどうやって測ればいいんだ?」。

◆「お店の雰囲気」って何?

さて、皆さんは、「お店の雰囲気」と言われて、どんなことを思い浮かべるでしょうか? 「きっと清兵衛の店は、日差しが入りづらくて店内が薄暗いのでは?」「従業員同士の仲が悪そうに見えるとか?」「お客さん対応が悪いのかな?」、いろんなことが考えられると思います。

清兵衛が前回測ろうとしたものは、「風」と「儲け」でした。この2つと「雰囲気」が異なるのは、風と儲けは「量的・物理的現象」であり「実体の

あるもの」だということです。しかし、「雰囲気」はどうでしょう。 ここで、テキスト『教育心理学研究の技法』p.110の記述を引用してみます。

心理学では、人間の行動を理解するために多種多様の**構成概念**が提案されている。構成概念とは、身長や体重のように、実体があるものではない。したがって、<u>質問紙法</u>によるアプローチによってその概念を取り扱うためには、研究者はその構成概念を明確に定義し、それにもとづいてその概念を測定するための道具(つまり、<u>質問紙</u>)を考案しなければならない。(下線部は筆者がつけたものです)

清兵衛が扱いたい「雰囲気」と同じく、心理学の研究の中で測りたいものには物理的に測れないものがたくさんあります。もちろん、心理学研究法 I で皆さんが取り組む課題の中にも、「気の長さ(短さ)」「攻撃性」「適応」といった構成概念が用いられています。さらに、ここで言っていることは質問紙法に限った話ではありません。下線部は、面接法ならば「面接時の質問項目」、観察法ならば「観察に用いるチェックリスト」と書き換えることができます。

◆構成概念を測定する

(その1)でも書いたように、仮説をたてて研究をしていく際には、「データの比較」(清兵衛が風と儲けを本店と自分の店を比較したように)が基本になります。それでは清兵衛が前回と同じく、本店と自分の店の両方で、「このお店は雰囲気がいいですか?」という質問をお客さんにしてみる、というやり方をとってみたとしたらどうでしょう。実はこのやり方は、あまり勧められないやり方です。それはなぜでしょうか。

先に、「皆さんは『雰囲気の悪さ』で何を思いつきますか?」と書いた際、私は「物理的な暗さ」「従業員の仲の悪さ」「客への対応の悪さ」という3つの可能性を示しましたね。実は、答える人がそれぞれ個別の基準で答えるのでは、比較にならないのです。ある人は明るさの面から雰囲気が悪いといい、ある人は対応面から良いというのでは、結果がでた後に清兵衛にとっ

て役立つ情報(雰囲気を変えるために何を変えるか、ということ)はまったく手に入りません。つまり、雰囲気ということで、3つの側面が想定できるのなら、その3側面についてすべて質問しないといけないのです。つまり、雰囲気のような実体のない構成概念を測定するためには、測定の前に構成概念をはっきりと定義し、「どのような基準をクリアすればこの構成概念を示すことになるか」ということを決めないといけません。この作業は、構成概念を具体化する作業と言ってよいでしょう。テキストから具体例を示します。

◆「てれる」を測る

テキストp. 42に,「てれの生起を判定する基準」というものがあります。 ここではおよそ2歳の子どもの観察から,「子どもが照れている/照れていない」を見分けようとしています。基準をすべて引用してみます。

行動として、①少し微笑み(はにかみの表情)を見せる。それに続けて、②視線をそらし、また、③顔や髪や洋服、あるいは他の身体部位をさわるうとする。これら3つの基準をすべて満たしたときにてれの感情が生起していると判定する。

感情はあくまで個人の中に生じるものなので、観察法を用いる上で、目に 見える部分から3つの基準を設定することで具体化しているのです。

◆研究法Ⅰの課題では

さて、研究法 I の課題の中でみなさんを悩ませているものに、課題3の「テレビの要因」があるように思います。テレビの要因として何をとりあげるか、はもちろん皆さん次第になるわけですが、こんな例を考えてみましょう。テレビ要因として、「暴力的なテレビ番組」をとりあげ、「暴力的なテレビ番組を見ると攻撃的になるだろう」という仮説を考えたとします。そこで、暴力的なテレビ番組を見る、ということを測定していくわけですが、まず一つの問題は、「暴力的なテレビ番組とはどんな番組か」ということで

す。私の先輩教員は授業の中で「アンパンマンって暴力的だと思わない?」と言って学生を困らせることがよくあるそうですが、皆さんはどう思いますか?(だって、すべての問題を「アンパンチ!」で解決するじゃないですか!?)つまり、どんな内容が含まれていると暴力的か、ということをはっきりとさせておかないといけないわけですね。そして、「見る」ということも単純な話ではありません。視聴時間の長さなのか、暴力的な番組だけを見る(他の番組は見ないのに)ということなのか、そうした「見る/見ない」の判定基準も決めないといけません。

ここで、一つ補足を。みなさんが1単位めのそれぞれの課題でとりあげる要因は、「これまでにない目新しさをもつもの」や「画期的なもの」である必要はまったくありません! きわめて常識的な、当たり前と思えるようなことでかまわないのです。研究法1のポイントは、「面接・観察・質問紙という方法でデータを取る」やり方を学習することにあります。問題は、「とりあげた要因の関連がちゃんと説明されているか」(〔その1〕で説明したこと)と、「とりあげた要因をどのように測定しようとしているか」(今回の〔その2〕の話)ということになるのです。

◆測定項目の作り方

どの研究法を用いるとしても、これまで書いてきた**構成概念の具体化**が必要になることはもうおわかりでしょう。その上で、各研究法で気をつけるべきことをまとめていきます。

観察法では、先の「てれる」の観察にも現れているように、「目に見える行動」だけを観察リストに載せていくということが必要になります。ただし、先の基準には、一箇所だけ不明瞭な部分があります。それは「少し微笑む」というところです。「かなり」と「少し」などの「程度」の測定は観察法では微妙な問題になります。少なくとも観察者の中で一貫して「かなり」と「少し」を判定できるように訓練しなければいけません。

面接法と質問紙法においては、項目作成の点で実はあまり変わりがないと 言ってよいかもしれません。いくつかポイントを整理しておきましょう。

まず、質問文・質問項目を作成する際には、「一つの質問では一つのことを聞くこと」が大切になります。具体例をあげます。テキストp. 122表5-7

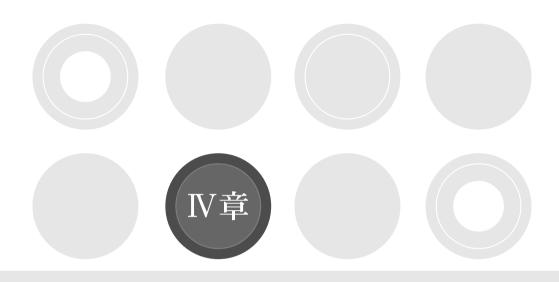
には、質問紙の項目の例がたくさん載っています(「関心」「満足度」といった構成概念をどう具体化しているか、このページを参考にしてください)。そのなかの「他者の勧め」という箇所を見てください。ここには「中学校の先生に勧められたから」の2項目が設定されています。これを「中学校の先生や親に勧められたから」とまとめてしまってはいけないでしょうか。そうしてしまうと、「先生には勧められたけど親には……」という生徒は答えづらくなってしまいます。面接法の場合ならば口頭でフォローすることもできるでしょうが、質問紙法の場合、そうもいきませんね。また、「回答者が答えやすい、単純で曖昧さのない文章にすること」も大切なことです。回答者の年代にあわせた表現を用いることも大事なことです。大人がわかる表現でも子どもではわからないということはよくあります。

また、この表5-7には載っていませんが、項目に答える前の「教示」も大切です。例えば、「生活の中でつらいことが多いほど、抑うつ状態になるだるう」ということを仮説にした研究をするとします。そこで、「生活の中でつらいことがあったかどうか」ということを調べるために、「友人が亡くなった」ということを項目にいれるとしましょう。しかし、それが起きたときが、15年前なのか、それとも2週間前なのかでは、「今の」精神状態への影響は異なると思いませんか? そこで、例えば「ここ3カ月のうちに起きたことをお答えください」(研究者の想定次第でこの期間設定はいくらでも変わります)という教示が必要になるのです。

最後に、応答の形式について説明します。自由記述形式、賛否形式(「はい」「いいえ」という2つの選択肢で聞くこと)、評定尺度法などさまざまな形式がありますが、ここではよく用いられる**評定尺度法**についてふれます。このやり方は、例えば「まったく違う、やや違う、どちらでもない、ややそうである、かなりそうである」というような5段階から回答を求めるものです(5段階の場合5件法ともいい、7段階の場合は7件法ともいいます)。このやり方は、設定した段階間を一定の等間隔とみなすことで平均値や標準偏差などを求め、多くの統計処理法を用いることができるメリットがあります。ただし、あまり細かく段階を設定するのは現実味がありません(例えば15段階に考えるとしても、そのくらい細かい程度の違いを表現する言葉がありませんしね)。みなさんが考える際には、まずは「はい、いいえ」で答え

る 2 件法でいい項目なのか、それとも「程度」まで聞くような項目なのかということをはっきりとさせてください。後者の場合、心理学研究のたいていは、 $3\sim7$ 件法で行われています。後はどの程度まではっきりさせればいいのか、という研究の目的の問題です。なお、教示、項目、評定法まで揃った形での質問紙の例は、テキスト p. 112の表5–1に載っています。

さて、2回続けて研究法 I のヒントになりそうなことをまとめてきました。前回、今回と共通しているのは、「自分がどんな要因をとりあげてどのような関連を想定するのか、という仮説をはっきりとさせ、その要因をどのような項目で測定するのかをはっきりとさせる」ということです。なので、我々教員がレポートをチェックするポイントは、「要因の絞り方、要因の関連の明示(仮説)、要因を測定するための明確化(項目作成)がすべて一貫しているか、その人のレポートの中での筋が一本はっきりと通っているか」ということになります。こちらをにやっとさせるレポートを(さて、「にやっと」とはどのような状態でしょう?)をお待ちしています。



心理学の幅広い世界



心理学概論/福祉心理学/生涯発達心理学 臨床心理学/人格心理学/学習心理学 教育心理学/社会心理学/家族心理学 心理アセスメント/心理療法 児童青年心理学/心理学キーワード

心理学の基本的な考え方

小 松 紘

◆「心理学」の語源とその研究対象としての「意識」と「行動」

心理学は日本語では「心の理(ことわり)の学」、すなわち心の仕組みや働きを研究する学問という意味をもっており、psychologyという英語の語源は、ギリシャ語の霊魂や心を意味するプシケ(psyche)と学問や科学を意味するロゴス(logos)が組み合わされた形になっています。いずれの場合も「心(こころ)」を研究の対象とする学問ということになります。

「心」は私たちのさまざまな心的事象をすべて包括した言葉ともいえ,用法は広く,文学的用語としても用いられています。科学的用語としてはむしる「意識」が用いられることが多く,この「意識」の働きがまず心理学の研究対象の一つとしてあげられてきました。しかしこの意識は,本来"気づいている"という意味がこめられており,私たちが意識しないで行動した場合,"無意識のうちに"というような表現になり,また意識の深層にあり通常気づかれていないものとして,「無意識」という概念がフロイト(Freud,S.) によって創り出されました。

このように「心」といい「意識」といっても、どちらも主観そのもので本人にしかわからないところがあり、他人がそれを客観的に把握することはきわめて難しい対象といわねばなりません。しかも心の働きにはその本人ですら理解しかねることがあります。劇的な体験をした場合など、私たちは自分自身の心の状態や行動をよく説明できない場合があることを、誰もが体験していることと思われます。しかしその一方で、日々の生活における多くの場面で、私たちは特に問題なく相手の心の状態を理解し、意志の伝達を図ることができます。例えば人の表情によって相手の感情状態を推し量ろうとしますし、立居振舞でその人の性格の一面を知ることができるものです。このように、表に現れる「行動」には、そのときその人の心のありようがよく現れると見なされます。その上「行動」は、観察したり測定したりすることができますので、意識の主観性に較べてより客観的であり、科学としての心理学

のもう一つの研究対象ということになります。

しかしながら、この行動も心の働きの結果、つまり意識活動の産物である以上、主観性を免れることはできないともいえます。例えば、涙にも嬉し涙や悔し涙があり、必ずしも悲しいときだけのものでもありません。"本音と立て前"などの言葉があるように、行動の背後にある動機にはいろいろあることが知られています。心理学という学問の対象のもつこの「主観性」は、この学問が抱えた一つの宿命的なものというほかはなく、私たちは常にそのことを心得ていなければならないわけです。このようなことから、心理学では他の科学で用いられている方法とは異なる独自の研究法が、これまでにもいろいろと考案されてきました。

◆心理学を学ぶ目的と心がけ

心理学の方法については他に譲るとして、私たちは何故に心理学を学ぼう とするのか、そしてその際どのようなことに留意しなければならないかを考 えてみましょう。心理学を学ぶ目的はまさに各人各様であると思います。人 間そのものに興味があり、人間を理解したいために心理学を学びたいと思っ ている人、仕事の関係で、人間の心理と行動の背景にある仕組みや法則性に ついて知りたいと思っている人など、いろいろだと思います。しかしそこで 注意しなければならないことは、知識欲にのみとらわれないようにするこ と、常に人のために"良かれ"と思う思いに動機づけられていることが必要 です。つまりは人間に対する温かい心に基づいているということです。一時 期、実験社会心理学的研究において、いわゆる「騙し」の実験が行われまし た。得られた知見は、人間の社会的行動を理解するうえに大変貴重なもので した。しかしこのような研究は、現在では倫理的観点から行われなくなりま した。研究上どうしてもこのような方法を用いざるを得なかった場合は、事 後に十分な説明とお詫びすることにより、被験者の心に残った不快感を完全 に払拭しなければなりません(これをデブリーフィングdebriefingといい ます)。

心理学は科学としての一面と、実学としてのもう一つの面を持ったユニークな性格の学問であると私は考えています。つまり心理学を学ぶことにより他者の理解とともに自己の理解をも深め、自己の向上を図るとともに他者の向上に寄与できるようでありたいと思っています。

心の成り立ち

佐藤俊昭

◆心 の 進 化

生命が誕生し、気が遠くなるような長い**進化**の果てに、人の身体と心が今日のような形にできあがりました。生命体の基礎は身体で、その目指すとこるは「生きる」ことです。ところが、生命が多様な環境で「生きる」ようになり、食べる、寝る、繁殖するなどの「生きる」過程が複雑化するにつれ、「よりうまく」生きるために、進化の過程で「心」をつくらなければなりませんでした。

例えば、目指す獲物をつかまえるには、獲物の位置を絶えず見定めなければならないし、自分のジャンプ能力をも常時把握しておかなければなりません。心は、環境や自分についての情報を絶えずキャッチし、自分の行動をより効果的に繰り出すための装置として誕生したと考えられます。

特に人類は、複雑なしくみをもった集団で暮らす種なので、他人の意図や感情を読み取る必要も切実でした。例えば、食物を独り占めにするためには相手を騙す方法を工夫しなければなりません。同時に、獲物をつかまえるためには協力も不可欠です。

このようにして、人は、心の多彩な働きと広大な心の世界をつくりあげたのです。特に「言葉」のおかげで、人は、いま目の前に存在しないものをも心のなかに持ち込むことができるので、心の世界は、目の前の状況をはるかにとびこえて、過去と未来、さらには架空の世界をも作りだすことができます。

こうして、芸術や宗教、後には学問も生まれましたが、同時に、現実とは 対応しない不安や葛藤や苦悩をも生み出しました。相手にとっては思いもよ らない感情を、相手の心の現実と思い込んで悩むこともあります。配偶者選 択という生物学的意味は全く消えうせても、人は恋をします。それが心の世 界です。

心の働きは、最初は、例えば、食物の在りかを知る、危険な情報を速やか

にキャッチする、配偶者として適切な異性を選択する、など、個々の特定領域に固有の心の働きが別々に進化しました。やがて、今から5~3万年前(後期石器時代)に、個々の領域を超える汎領域的な心の働きが発達しました。柔軟な知的働きです。そのおかげで人類史における「文化のビッグ・バン」が起きました。生活を向上させるための工夫が次々に開発されることになったのです。それを実現する上で特に重要な役割を果たしたのが言葉でした。

◆「わたくし」とは

心の世界に「わたくし」はなぜ、どのようにしてできたのでしょうか。人以外の動物に「わたくし」はあるのでしょうか。心理学では**自我の「芽生え」**とか、**自我の「覚醒」**といわれますが、日本語の「自我」は、難解で使いにくい言葉ですが、簡単にいえば、センテンス(文)の主語となる「私」のことです。

人は他者の行動を言葉で表現するとき、主語+述語の形で記述します。お 父さんが帰った、ママが行っちゃった、など。

次に、自分の行動を記述するのにも主語が必要であることに気づくはずです。最初は他人が自分を呼ぶ言葉、「Aちゃん」をそのまま使いますが、やがて「ボク、ワタシ」という言葉を使うようになります。これが使えるようになると、自分の身体、自分の物、自分の気持ちなどを次々にこの「わたくし」に帰属させるようになります。このような過程を経て、「わたくし」のこころの世界が「わたくし」以外の世界とは別のものとしてとらえられるようになります。

わたくしとあなたの心の世界は、細部では違います。けれども同じ人類であるかぎり、大筋では同じです。顔や体型が一人ひとり違いますが、顔や手足があるという点で変わりがないのと同じです。

◆人類はETとわかりあえるか

そのように考えると、ETと人類はわかりあえるかという大問題に遭遇します。ETとは宇宙からくる高等生物です。フィクションではETは苦もな

く地球人と交信できるように想定されていますが、私には、人類がETと出 会ったときに何が起きるのかについて少なからず心配しています。

というのは、ETがどんなに優れた能力と文明をもっていたとしても、われわれの地球とはまるで異質な状況に生きていると思われます。そのような生命体は人類と理解しあうのに必要な共通基盤をはたしてもちあわせているでしょうか。同じ地球の人類なら、コトバが違ってもコミュニケーションは難しいことではありません。「こころ」が共通なのは身体と生活が共通だからです。身体の構造も遺伝子の数も基本的にはみな同じです。

それにひきかえ、ETの「身体」と人類の身体に何らかの共通点があるでしょうか。ETの「身体」は形が自由に変化するアメーバのようなものかもしれません。いや、アメーバも細胞ですが、ETの「身体」は細胞からできているという保障もありません。もし、ETの身体がアメーバのように固定した形のないものなら、そこで発展した数学も、科学も技術も、心理的な仕組みも、一切がこの地上とは似ても似つかない代物かもしれないのです。そうであれば、人類とETはわかりあえないのではないでしょうか。それに比べれば、古代であれ現代であれ、西洋であれ東洋であれ、人間の「こころ」の元型は共通です。それは身体と生活が共通だからです。

こころの世界の成り立ちに身体が深く絡んでいることに気づかれたことと 思います。もっとも、太陽系や銀河系をはるかに超える宇宙共通の生命の元 型があるのなら、話は別ですが……。

「福祉心理学」の考え方

渡部 純夫

◆過去における福祉と福祉心理学の考え方

過去における福祉の思想は、弱者救済という大命題のもと、いかに平等な 生活を保証するかに目的のすべてがあったと言っても過言ではない。それ が、社会の変化にともなってその領域の拡大がはかられていくことになる。

家族をはじめ、医療や精神保健の領域も福祉はカバーするようになったのである。福祉心理学も当然のことながら、福祉に関する時代の流れや考え方に影響を受けることになる。

当初は福祉という限定された領域において役立つ応用心理学のひとつとして「福祉心理学」を考えればよかったのであるが、社会の変化は、「福祉心理学」に対し、社会のあらゆる場において役に立つ「心理学」を求めるようになってきた。そのため、生活の中に根付くための新しい「福祉心理学」が 渇望されるようになったのである。

「福祉心理学」は、その意味で人間の生活に役立つと思われるあらゆる学問や経験からもたらされる知見を、とりこまなければいけない宿命をもたらされたことになる。「心理学」の分野に限ってみても、臨床の場で悩みや不適応の問題に対応するためには、臨床心理学の知見が必要になってくる。関わり方や分析方法、各種心理療法に精通していることも大事になる。子どもの発達や、教育、しつけなどの問題には、発達心理学や教育心理学、家族療法などの知見が必要になってくる。また、社会情勢の問題として、リストラに対する自殺の予防や生き方、自己実現の問題に関して、産業心理学や社会心理学、カウンセリング等の学問の活用が必要になる。しかもそれらは、単独でクライエントに関与できるものではない以上、何らかの統合のもと、新しい創造されたものとして提供していかなければならないものでもある。「福祉心理学」には、人間尊重の観点と、統合の課題が絶えず付きまとうことになる。

◆人間尊重の観点

人は、個性を持った存在としての生き方を求める権利を有していると考えることができる。存在していることにその価値を見出すことができるのである。例えば、お年寄りのすごさがどこにあるかを考えてみると、何もしないところに価値があると言わざるを得ない。そこにいるだけで存在の大きさを知らしめることができるのは、長年の経験の中で生と死を見つめつづける姿勢に裏づけされたお年寄りではのことである。生の意味を深く知っているが故に、その短い一言にも深みを感じることができるのである。かつてオリンピックのバルセロナ(スペイン)大会で金メダルを取った岩崎恭子さんが、「今まで生きてきた中で最高の出来事です」といったニュアンスの発言をしたことがある。これを、80代のお年寄りの一人がしたときと比較してみれば、その重みの違いに愕然とすることだろう。Well-beingという考え方がある。いま言われている「生活の質」(QOL)を支える概念である。「福祉心理学」は、現在この「生活の質」を充実させ援助することができる学問として期待されているのである。

そのためには、心理学で言うところの「自我」についての理解が必要になってくる。自我は個(individual)によって、存在を支えられていると考えることができる。個の存在が明確になるためには、他と切り離されることによってであり、自分の外を客観視することができるということが前提条件となる。ここに自然科学的発想に立った西洋の自我の考え方が見てとれる。つまり、統合とは反対の性格をおびた自然科学的考えのもと、絶対化が進めば進むほど、Well-beingから遠ざかることになってしまうのである。

◆統 合

では、統合とは何を意味し、なぜ「福祉心理学」に必要なものなのであろうか。統合とは、ただ単純に2つのものを組み合わせることを意味してはいない。そこでは、新たなものを生み出す創造のプロセスが重要なのである。

デカルトは、2つのものを切断するという考えによって(物と心のように)、客観的見方の手法を提示することに成功した。この考え方は自然科学を発展させる大きな原動力になった。人間社会に物質的幸福を提供する大き

な貢献をしたことになる。しかし、それは反面では「こころ」あるいは「たましい」というものの存在を消すことにも手を貸すことになったのである。人間は「こころ」も身体も含んだ全存在として生きているはずである。人間の全存在に対して開かれた態度で接していくところに、変化や成長が生まれてくる。物質的幸福が必要ないというのではない。科学的思考は欠かせないながらも、統合という観点を常に持ち合わせていないと、個としての存在が根底から脅かされることになりかねない。「福祉心理学」は、一人一人に幸せを提供するための実践的学問である。そのためにも、「人間尊重の精神」と統合を通しての「創造」への考え方を抜きにしては考えられないのである。

レポートを書くにあたっては、このことを根底に置きながら自分なりの論を展開していただきたいと考えている。人を幸せにすることに貢献することは、そんなに簡単なことではないはずである。しっかりとした自分なりの考えに基づいて、深く悩みながら新たなものを創造しようとするもがきの中にヒントを見つけることができると思われるのである。皆さんの健闘を期待するものである。

福祉心理学のレポートを添削して

渡部 純夫

◆はじめに

「福祉心理学」のレポートを添削していて気づくことのひとつとして、「社会福祉」と「福祉心理」の関係をどのように扱ってよいのかに困っている方を時々見かけます。「福祉心理学」が「福祉」と「心理学」の2つの世界を取りこんでいるところからきているのかもしれません。今回は、「福祉心理学」のレポートを書くにあたって、「福祉」と「心理」をどのように考えていけばよいのかについて考え、「福祉心理学」の姿に少しでも近づければと思います。

◆社会福祉の二面性について

「福祉心理学」の構築を前提に、「福祉心理」を考えると必ず「社会福祉」の領域を考えなくてはならなくなります。「社会福祉」を詳しく語る資格も能力もあるわけではないのですが、大きく分けて考えてみると、2つに分かれるのではないかと思われます。

1つは、法律や制度の面から考えることができます。法律や制度を時代や文化・社会システムに適合するように整備・拡充を行い、それを適切に活用する「制度的福祉」の側面を考えることができます。

2つには、福祉の対象となる人・家族・地域などに直接かかわり、成果をあげる「臨床的福祉」の側面であります。

「福祉心理」は主として「臨床的福祉」に関する専門性を用い、高いレベルの心理学的な知識と技術を必要とするものであると考えられます。ですから、レポートを書くにあたっては「臨床的福祉」の視点をしっかり持って分析・考察を行っていただきたいと思います。

◆福祉心理の二面性について

「福祉心理」の活用という点から考えてみますと、ここにも二面性を見ることができます。

1つには、臨床心理の専門職が福祉の実践の場で、心理学(特に臨床心理学を中心に)の知識とスキルを用いることが考えられます。もう1つは、いわゆる社会福祉の専門職が福祉の実践の場で、対象となる人・家族・地域などの心理的側面に配慮して実践を進める場合が考えられます。

どの立場に立って「福祉心理」を考えるかで、おのずととらえ方が違ってきます。レポートを書くときに、どちらのスタンスで「福祉心理」を考えているのかを明確にしながら展開のまとめを行うようにしていただきたいと思います。

今後の方向性としては、この二面性を統合していくことで「福祉心理学」 の構築が進んでいくものと思われます。

ただ、社会福祉の実践の場では、大学などで社会福祉を学んだ人に限らず、心理学、教育学、社会学、保育学、看護学など様々な学問を学び仕事をしているという背景があります。したがって、心理学の知識とスキルのレベルは多用です。それは皆さん方も同じだと思います。目指すものとしては、当面「臨床心理に強い福祉専門職」か「社会福祉に強い心理専門職」を頭に描きながらレポートの作成を行っていただきたいと思います。

◆学問的関連性について

社会福祉の実践場面において、「福祉心理学」は関連領域の学問的知見の恩恵にあずかっています。「社会福祉学」をはじめ「医学」「介護学」「家政学」「看護学」「法学」など数え上げれば際限がないほどです。そのことは、皆さんがレポートを書くにあたって気づかれることだろうと思います。「福祉心理学」の基本である「心理学」について考えてみますと、最も核になるものは臨床心理学だろうと思います。学問として「臨床心理学」が、「福祉心理学」の領域を包む形になっており、さらに実践ということから、細かくいろいろな実践領域(「児童福祉」「障がい福祉」「高齢者福祉」など)に分かれていくものと考えられます。

「福祉心理学」の歴史は始まったばかりといっても過言ではないと思います。少しずつ理論と実践の統合をはかりながら前進していくものと考えられます。

レポートを書くにあたっては、将来の「福祉心理学」の姿を考えるという 視点もいれていただきたいと思います。教科書・専門書をただ写すだけのレ ポートではなく、理論的裏付けのもと自分の考えを入れたレポートにしてい ただきたいと思います。

最後に、皆さんの健康を祈り、がんばりに期待しています。

●引用・参考文献

園山繁樹「福祉心理の専門性としてのスキル」 第二回福祉心理学会シンポジウム

生涯発達心理学のレポートを添削して

木 村 進

◆59歳にして初めての経験

帰りがけに自分のレターボックスをのぞくと、「レポート添削のお願い」の 封筒が入っていました。通信制大学院のレポートでした。早速家に帰って読 んでみました。そして、妙に感動しました。

私は、この5月で59歳になりました(注:執筆の2002年時点)。多くの同級生たちは、定年を意識し、準備しなければならない年齢です。現に、大学の同級生が2人、「県庁をやめてお前と同じ商売になったよ」と便りをよこしました。一般的にはそういう時期なのに、私は、通信教育のレポート添削という初めての経験をしているという感動でした。妙なというのは、これを喜んでいいのか、悲しんで(?)いいのかという戸惑いがあったからです。

考えてみると、私の年齢は初老期に当たるので、老年期に近づいていくこと自体が初めての経験なのですが、これは誰もが経験することで、30年以上もやってきた仕事の上での初めての経験というのは、この時期には画期的なことなのでしょう。

そういう「初仕事」の感動を土台にして、感じたことを書いておきたいと 思います。

◆「私」が見えない

私の専門は、発達心理学です。これまで、発達心理学や障害児心理学の講義をしてきました。ゼミはもちろんですが、講義においても、「私の授業」という意識のもとで、自己主張を展開してきました。学部の授業ですから、基本的なことを教えなければならないという責任はありますが、例えば教科書に書いてあることを材料にして、それをいかに自分流に料理をするか、というのが自己主張なのです。

学生の側も、(実際は期待しているほどは反応してくれませんが)質問を

したり、調べたことをぶつけてきたり、発表したりして、自己主張をしています。それによって、その学生の学習の進み具合やわかっていない部分が明らかになり、指導のポイントが見えてきます。

ところが通信教育では、私の自己主張は、極めて限定されるか、あるいは、ほとんどできません。同時に、学生の側の自己主張も、レポートを通じて、かすかに伝わってくるだけです。少し専門的に言うと、長年やって来た「教授―学習過程」というスタイルがとれないということです。つまり、お互いの「私」が見えないままに学習が進んでいき、その中で指導していくことになるのです。

◆「私」へのこだわり

私が通常相手にしている学生の多くは、言うまでもありませんが、18歳から22歳までの若者です。一般的に言うと、青年期後期で、成人への一歩手前という時期にあたります。青年期の発達課題は、エリクソンによれば「自我同一性対拡散」です。つまり、「自分は何者か」という問いに対するとりあえずの答を見つけることが課題なのです。

人生の目的を見つけることが最大の課題ですが、私の立場でその課題に援助することは難しいので、もう少し具体的に、その学生なりの興味・関心を明確にするとか、研究テーマを見つけるとか、就職の方向性をはっきりさせるとかの課題にサポートすることに力を入れていますが、まとめて言えば、「私」を探し、「私」を育てることだということになります。別の角度から考えると、これからの人生を生きていく主役としての「自分」を尊重し、大切にする態度を養うということになります。

通信教育部に入学された皆さんは、年齢も立場もそれぞれで、また、入学の目的も多岐にわたっていると想像されますが、いずれにせよ、自分を育て、自分を充実させるということにおいては共通していると考えていいのではないかと思われます。職業生活や家庭生活を営みながらの学習は、想像以上に困難が伴うと思いますが、それだけに、その中で自分が育っていくという実感も大きいのではないでしょうか。

私は、先に「とりあえずの答」と書きました。なぜ「とりあえず」かというと、私自身の経験からして、「自分は何者か」に対する満足できる答がこ

れまで見つかっていないからです。59年も生きてきましたから、少しずつは わかってきましたが、やっと60%くらいでしょうか。残りの40%にまだ可能 性があると思っています。だから、通信教育への取り組みを通して、新しい 自分の発見があるのではないかと期待しているのです。

◆心理学は人間を対象とする学問ですから

私の主な関心は、乳幼児期の発達です。私がこの時期の発達を考える時、 右手に理論を左手に経験をもって考えています。経験というのは、(もうず いぶん昔のことになりましたが)自分が子どもだったということと自分が子 育てをしたということ、および保育所や幼稚園、あるいは小学校での子ども とのつきあいです。わが子を含めて子どもとのつきあいが特に勉強になった という実感を持っています。

心理学は人間を対象にする学問ですから、自分を含めて人とのかかわりの経験が学習に生きるという特徴を持っていると思います。そういう意味では、人とのかかわりの経験を豊富に持っているほど、学びやすい学問だと言っていいかもしれません。言い換えれば、その人らしい学び方ができる学問だとも言えます。しかし、経験は「両刃の剣」で、役に立つこともあれば邪魔になることもあります。だから、片方に、客観的な理論や知識を置いて考えることが必要になってくるわけです。

とはいうものの、自分の経験を生かさないで学習するのは非効率的だ、あるいは、まわりの人とのかかわりの経験と無関係に学習を進めるのはもったいない、と思います。また、学んだことを現実の生活に生かさないのでは、何のための学習なのかわからないということになります。心理学は、そういう学問なのです。

◆だから, レポートは

他の先生のレポートにも通用することかどうかはわかりませんが、私のレポートに関しては、課題にきちんと答えるだけでなく、その人らしさが感じられるものであってほしいと思っています。その人らしさというのは、上記のような経験が生かされた内容であるとか、私はこんなに勉強したよという

アピールとか、あるいは、一生懸命調べたけどここはわからなかったとか、 そういうことではないかと思っています。

授業に出て、ノートをとって、試験を受けて単位を得るというスタイルでない、正解を一生懸命覚えて試験に答えるというやり方でない学習の仕方に、通信教育の真髄があります。その課題に取り組むことによって何を学んだか、何を考えたか、何が整理できたか、そして、それが自分にとってどんな意味を持っているか、そういうレポートを期待するのは期待のしすぎでしょうか?

「添削」というのは私にとって新しい課題です。私らしい添削ができるよう,新しい自分を発見できるよう頑張りたいと思っています。

生涯発達心理学のスクーリングを終えて

木 村 進

◆初めてスクーリングを体験しました

2003(平成15)年4月26日出・27日间と29日(みどりの日)の3日間にわたって「生涯発達心理学」のスクーリングを行いました。スクーリングは昨年通信制大学院の授業で経験済でしたが、大学院の授業は「演習」ということもあり、受講生の主体的な学習に任せる部分が多かったので、「集中講義」形式のスクーリングは、初体験でした。おまけに、小山会場にパソコンを使って中継するという初の試みも加わっており、それがうまくいくかどうか、何となく責任を感じる部分もありました。また、中継がなければ、時間の区切りも自由にできるのですが小山で受講している人のことを考えるとそうもいかず、できるだけ決められた時間内で授業を区切るという努力も必要でした。結果として、講義の出来がどうだったかについては、受講生の判断にまつしかないわけですが、終わってみると、私なりには充実した3日間だったと振り返っています。

通学課程の学生と違って、普段講義を聴くということに慣れていない(だろう)人々を相手にするということで、いくつか気をつけたことがあります。第一は、言うまでもないことですができるだけ平易な表現を使って、わかりやすく……ということです。第二は、具体的な例を多く使って、理解を促進すること。第三は、内容にメリハリをつけて飽きさせないようにすることでした。私が予想していたよりは反応がよく、一生懸命話を聴こうとする態度が伝わってきました。とは言うものの、一定時間内に必要なだけの内容を伝えようとすると、どうしても盛り沢山になってしまい、予め教科書の該当部分を読んでくるように指示はしておいたものの、現実には消化不良になった部分が多かったのではないかと懸念しています。毎年スクーリングがあるので、経験を踏まえて改善していこうとは思っていますが……。

◆スクーリング・テストの結果について

最後の時間にテストを行いましたが、通学課程で行うテストと全く同じ形式だったので、ちょっと難しかったかもしれません。解答のポイントを書いておきますので、自分が書いた内容と照らし合わせてみてください。

- [問題 1]「生涯発達」とはどういうことかについて、いろいろな角度から説明しなさい。(30点)
 - *「牛涯発達」とはどういうことか
 - *なぜ「牛涯発達」という考えになったのか
 - ・高齢化社会の到来, 長寿化に伴って老年期の研究が盛んになり, その 前段階である成人期にも目が向けられるようになった
 - ・ハヴィガーストの発達課題
 - ・エリクソンの心理社会的危機説

「問題2] 大脳の機能の発達について説明しなさい。(30点)

- *大脳の機能とは、大脳の構造(神経細胞の図)
- *シナプスの形成、ミエリン鞘(髄鞘)の形成(ランビエの絞輪)などにより、情報が正確に速く伝達されることによって、脳の働きが飛躍的によくなる
- *脳を刺激すること(使うこと)によって、上記のことが促進される [問題3] **以下の事項について、キーワードを書きなさい。**(キーワード1つ につき3点。間違った場合は、-3点)
 - ①ダウン症:常染色体異常,21トリソミー,知的障害(精神遅滞),心臓 奇形。ラングドーン・ダウン
 - ②遺伝に関する研究:家系研究法,双生児法,カリカック家,ゴダード,ジェンセン
 - ③言語の機能:自己表現、コミュニケーション、思考、自己統制
 - ④ホスピタリズム:マターナル・ディプリベーション,施設病,長期入院,アタッチメント理論,ボウルビー,スピッツ,知 的障害、パーソナリティ障害、言語障害

このうち、「キーワード」を答える設問では、単語で答えるようにという 指示を出したにもかかわらず、例えば「思考の道具」というようにのを入れ たために不正解になった解答が多くありました。この場合は、3点マイナス にするには忍びないので、-1ということで処理しました。また、すべて文章で説明したために、この問題で相当マイナスを稼いで不合格になってしまった受講生もいます。試験までに $2 \sim 3$ 度は指摘したはずなのですが、やはり試験というものに不慣れなせいでしょうか?

◆充実したスクーリング受講のために

目下のところ、受講生からのフィードバックについて知らされていないので、私のスクーリングがうまくいったのかどうか判断する材料はありませんが、私の何倍も、受講生が疲れたことは確かだと思います。疲れても理解が進んだのなら言うことはありませんが、3日間の「詰め込み授業」でしたので、聴いてノートをとるので精一杯という受講生も多かったのではないかと推測しています。

別に通信教育だからというのではなく、こういう集中講義形式の授業は講義をする方も大変だけれど、聴く方はもっと大変ということになりがちです。それをできるだけ緩和しようとして、私としてもいるいろ努力はしましたが、理解度ということにポイントをおいて考えると、結局は、受講生が、スクーリングに来る以前に、どれだけ教科書を読んできたかということが重大な意味をもっているように思われます。スクーリング中に教科書の予習をしようと思っても、ノートの整理はしなくちゃならないし身体を休めて翌日に備えなくちゃならないし……で、思うようにできなかったことと思います。

試験が終わってから、私のところに何人かの人が話しに来てくれましたが、そういう機会を積極的に作る必要もあったかな、と思いました。もっともお互いに疲れているので、なかなか難しいことだったかもしれませんが。とにかくお疲れ様でした。

臨床心理学のレポートに取り組むにあたって

佐々木千鶴子

◆面白さとの出会い

2003 (平成15) 年大ヒットした新書に養老孟司氏の『バカの壁』がありました。私は立ち読みですませてしまいましたが、これは、著者のネームバリューと本のタイトルとの絶妙な組み合わせによるヒットでしょう。「買ってみよう」と思った人たちの多くは、おそらく「バカ」というのは自分以外の誰か(あるいは何か)のことをイメージしながら買ったのではないかと推測しています。「自分はバカだからその正体を功名な養老先生が教えてくれるかもしれない」と思って買った人は、少数派ではないでしょうか。買い求めた人たちに尋ねてみたいところです。

ところで、『バカの壁』を読んだ前と後でいくらかでも私が賢くなったかというと、正直なところ変化なし」というのが現実です。しかし、読んだことが全て無駄だったわけではありません。そこで私はいくつかの疑問を感じ、その疑問について推論することを楽しみました。

こんなふうに、身近な出来事のなかにも、さまざまな面白さを見いだすことができます。多くの物を所有する満足感は物を手に入れることができなくなれば、手放さなくてはなりませんが、周囲を見渡しあれこれ考えを巡らせるために必要なのは、時間と少しのお金だけです。現在は、図書館も整備され、大きな古本屋も増えました。疑問を感じたことを自分で調べて、自分で考える、それが以前に比べて容易にできる時代になっています。ひとつのテーマに取り組みながら、テーマとは直接関係のない思いがけない問題や事実に出合うことも楽しみの一つです。また、同じテーマに興味をもつ知人、友人を見つけるとその楽しさは倍増していきます。

◆とりあえず本を読もう

居酒屋へ行くと、「とりあえず、ビール!」という方も多いと思います。

ビールは大人の味の代表のひとつですが、大学での学びでは「とりあえず、 関連テーマの文献!」とでも言えるかもしれません。借りた本に書き込みを するわけには行きませんが、付箋紙を張り付け、要点をノートやカードに書 き写し、あるいは、一部分コピーをとる、関連文献の一覧表を作るなどな ど、こうした作業が必要となります。しかし、この手間暇を惜しんでは学ぶ 面白さと出合うことはできません。

レポートを書くためには約束事も身につけなければなりません。なんだかめんどうな話ですが、やっているうちにしだいに慣れてきます。わけのわからなかった抽象概念とのつきあい方もしだいに身についてきます。

面白さと出合うために、ここは省エネできない部分です。一見、役にたつ保障のないことに人生の大事な時間とお金を費やすには勇気が要ります。しかし、高齢になってからも有意義に使える健全な楽しみ方を身に付けると思えば、エネルギーの注ぎがいもあるというものでしょう。わからなかったことが、あるとき「ぽっ」と小さな花が咲くように理解できる時があります。そのとき脳内に達成感を伝えてくれる物質が走ります。運動も体を動かしはじめてから15分くらいたたないと、爽快感が出てこないのと同じで、レポートを書くための作業も、取り組んでしばらくは面白くはならないのです。

◆脳の話より面白い虫の話?

後日『バカの壁』をテーマにしたテレビのドキュメントを見ました。そのときはそのときで「ほほう」と感心して見ていたはずですが、私は元々虫好きの養老氏に関心があったので、虫取りに興じる「孟司少年」の姿が一番強く印象に残りました。ちなみに養老氏の著作よりも、彼を含めた虫好き三人の座談会を本にした『三人寄れば虫の知恵』(洋泉社、1996)が、あまり売れていた様子はありませんが、非常に面白かったです。

さて、『バカの壁』に話を戻しますが、番組では先入観や思い込みが「バカの壁」になる、と言っていたようです。臨床心理学のある立場では、その先入観のある面を「自我防衛機制」という概念で説明しています。使われている言葉は違いますが、そこに共通する何かを見つけるのも一興です。さらに「どうして養老氏の本は虫の話の方が面白いと感じるのだろう」と疑問を感じ、あれこれと考えていくと、面白さは増々広がります。

◆先入観という「バカの壁」

レポート課題に取り組まないのは、そこにある意味「バカの壁」があるからかもしれません。「課題が難しい」「興味のない課題だ」「関連図書が手に入らない」「時間が作れない」などなどを理由にレポートが遅々として進まなかったり、あるいはテキストまるごと書き写し作戦を遂行したり。

今一度、皆さんはご自分がどんなことを前提としてレポート課題に取り組んでいるか振り返ってみてください。そこには根拠のない「思い込み」が潜んではいませんか。もしかしたら、そこにあなたがレポートに取り組めない理由、1冊のテキストからほとんど丸写しのレポートを書いてしまう「謎」を解く鍵が眠っているかもしれません。

その謎を解くことにしる、レポート課題に取り組むにしる、とにかく「やってみたい」と思ってチャレンジしたのであれば、そのときの気持ちを忘れずに、続ける努力を惜しまないでください。続けてこそ「やってみたいこと」が「できること」に変化し、面白くなってくるのだと思います。どうしても続かないときは、もう一度入学の動機を自問自答してみてはいかがでしょうか。

「臨床心理学」スクーリングを終えて

佐々木千鶴子

今年度(注:執筆の2005年)の「臨床心理学」の春期(5月)・夏期(8月)スクーリング受講生は合わせて約250名でした。今年度入学者から4年生まで、また、学科もさまざまです。そして、受講生の年齢、職業、心身の健康状態もさまざまです。こうした条件で「臨床心理学」の講義を集中で行い、試験をし、採点をすることは、私にとっては正直なところ大仕事です。時代の大きな変化のなかで、「心について学びたい」と意欲を持ってスクーリングに参加している皆さんの気持ちがひしひしと伝わってきますから、気が抜けません。

臨床心理学は、発達心理学、人格心理学、心理アセスメント、心理療法などから構成され、また、精神医学に関連する部分もあります。ですから、福祉心理学科ではそれぞれが別に開講されています。必修のこの授業では基本的な考え方を中心にできるだけ初学者向けに概論的なものとして準備することにしています。

春期の感想に「通信教育の内容は通学部と同レベルではないのか」という質問がありました。講義内容は「同レベル」ですが、週1回4カ月かけて行う授業と集中講義のスタイルは、いくぶん変えた方がよいと思っています。 集中講義には集中講義のよさと限界があるでしょう。その点は、いろいろ工夫をしているところです。

スクーリングの授業の冒頭でも説明しましたが、誰もが心に関してはすでにいるいろな考えを持っていることが多いため、こちらが伝えようとしたことがなかなか伝わらないのは、通学も通信も同じです。価値観の問題も入ってくるので、私自身が学んできたプロセスを振り返っても、臨床心理学特有の学びにくさは痛感してきており、教える立場になってなおのこと、臨床心理学のむずかしさを感じています。

また, できるだけ心の負担にならないようにと配慮しながら内容を決めています。たとえば, スクーリングでは少しでも体験過程を重視して授業を構

成しようと昨年まではコラージュを実施していましたが、作成に参加しない方が10名ほどいらっしゃったため、今年はやめました。しかし、わずかばかりの時間であっても「交流」することを重視した授業にしているつもりです。効率ばかり追いかけるのは、私の本意ではありません。実に個人差の多い、多様な方々の集団としての大学の通信教育部のよさを大事にしつつ、できるだけ受講生全体のニーズを考えているつもりです。こうした限界や条件のなかで「ほどよさ」や「お互いさま」をスクーリングを通じて実感しながら、卒業していただけたらと考えます。

また、授業で「期待した内容が聴けなかった」という声もありました。その点は、これからの授業でもっと工夫をしていこうと思いますが、年齢等々の異なる多彩な受講生のニーズに個々に応じることは不可能です。冒頭で示した他の科目に期待していただきたいですし、また、さまざまな文献を手がかりにぜひご自身の関心を深めて行ってもらいたいと思います。

それでは、皆さん、テキストを読んでください。参考文献を読んでください。少なくともレポートの書き方を読んで理解してから取り組んでください。スクーリング受講生だけでも、4課題×250人=1000課題です。読みやすい字で、書き方のルールを守るようお願いします。テーマにそって、調べて、考えて、まとめあげられたレポートを待っています。

人格心理学のレポートにおける「事例研究」

皆川州正

◆事例研究の意義

レポートを添削して、人格心理学の課題の中の「ある物語の登場人物について記述」(1単位め)、「具体例もあげながら」(2単位め)、「観察を行い、考察」(3単位め)、「自己分析を実施」(4単位め)とある部分について、苦労しているようすが感じ取れます。そこで、この部分について述べ、参考にしていただければと思います。

これらの課題は、「事例研究」を念頭において出しているものです。事例研究は心理学研究法の一つとして活用されてきました³)。その基本的な考えは、一事例であってもそこで見いだされた心理学的な法則や理論は他の生体にもあてはまると考えられるということです。たとえば、フロイト(Freud, S.)は、事例を示して考察することにより、神経症に関する精神分析の理論と治療法を提起しました⁴)。ロジャース(Rogers, C.R.)もまた、事例によりクライエントの変化を示すことによって来談者中心療法の有効性を示しました²)。臨床心理学のみならず、学習心理学ではパブロフ(Pavlov, I. P.) やスキナー(Skinner, B. F.)が、発達心理学ではピアジェ(Piaget, J.)が、事例研究によって自らの理論を提起しています。このように、個別的な事例を研究することによって、そこから普遍的な法則や理論を引き出そうとするところに事例研究の眼目があります。

◆レポートとしての事例研究

しかしながら、心理学を学び始めたものが一から事例研究をして新たな法 則や理論を発見することはとうてい望めません。レポートでは、すでにある 理論やモデルを検証する方法をとっています。

そこで、まず**先行研究を調べる**ことから始まります。ある類型論について 調べる、力動的人格理論における心理的適応・不適応のとらえ方について調 べる、愛他性と攻撃性の発達の理論やモデルについて調べる、自我・自己および自己分析の限界となる事柄について調べるなど。いわば、これは料理の食材集めのようなものです。レポートを添削していると、調べたことを列挙しているものに出会うことがあります。確かに集める苦労やキラリと光る説明には感心もさせられるのですが、それが中心になると食材を並べて見てくださいというのと同じになります。

そこで、次に、調べたことに適した「物語」「具体例」「観察場面」「自己分析」を選びます。それは、確かめようとする理論やモデルの"典型例"であることが説得力も増します。その際、先に調べたことにもとづいてなぜ典型例なのかを示す必要があります。

次に、考察を行います。1単位めですと、たとえば、その類型が持つ長所・短所あるいは課題をみていきます。そして、その人物の人生にその類型がどうかかわっているか、あるいはその人物や周囲はその類型をどう生かせたか、生かせなかったのか。複数の類型についてであれば、どうかかわりあっているか。2単位めですと、たとえば、具体例の心理的不適応がその力動的人格理論によってどのように説明されるのか、そして、心理的適応に向かうにはどんなことが必要とされるのか。3単位めですと、たとえば、観察された事柄が理論やモデルとどう対応しているのか、攻撃性や愛他性はどういう人がどういうときに高まり、どうなっていくのか、個人および集団において心理的にはどういう機能(働きや役割)を持つのか、それを適切なものとするにはどういうことが考えられるのか。4単位めですと、たとえば、自己分析のときに湧いてきた感情(葛藤など)、自由連想の効用、実際行動に移す際の心の動き(抵抗など)など。これらは個人的なことでありながら、多くの人に共通することも十分に予想されます。なお、考察でも、先に調べたことがおおいに役立つと思います。

◆おわりに――「事例研究」の感動

河合¹⁾ は、事例研究について、「明確な形での新しい技法や概念を提示するものではなくても、じっくりと取り組んだ事例報告に接したものが、新たな意欲をかきたてられたり、多くの新しいヒントを得たり、新しい感動を与えられたりするときは、それは芸術作品の評価の場合と同じく、高く評価さ

れるべきではないだろうか」と述べています。レポートを添削していて、それと全く同じことを経験することもあり、レポートを読むものにとっての楽しみになっています。ぜひ、そのようなレポートを書いてくださるよう希望します。

●参考文献

- 1)河合隼雄 「事例研究の意義」『臨床心理学』 1 (1), 4-9, 2001.
- 2) 村瀬孝雄(編) 『こころの科学――ロジャーズ クライアント中心療法 の現在』 日本評論社、1997.
- 3) 下山晴彦(編) 『臨床心理学研究の技法』 福村出版, 2000.
- 4) 牛島定信(編) 『こころの科学——フロイト入門』日本評論社, 1995.

学習心理学のレポートを添削して

村井 則子

◆レポート添削者になっての正直な気持ち

学習心理学は、3年生以上を対象にした科目です。

新学期が始まって、通学生のオリエンテーションがまだ終わらないうちに、早速レポートが出てきたのには、チョットびっくりしました。さすがに3年生ともなればレポートを書き慣れていらっしゃる感じで、一見して「これはひどい」というのはなかったように思いました。むしろ要領よくまとまりすぎている印象でした。しかし、ここで私としては複雑な思いに駆られてしまい、レポートを前に考え込んでしまいました。

学習心理学は、通学生の場合毎週一コマ80分で半期の授業に出席してから 試験となるわけです。学生のなかには、講義をさぼったり、体だけ出席して も居眠りなどしているのがいるのは事実ですが、教員は休講にしない限り、 毎回少しでも理解してもらえるようにと授業をしています。

「通信と通学とは全然システムが別である」と割り切ってしまえばよいのでしょうが、何だか頑張って毎週講義をしている自分が空しく思えて気が重くなってしまいました。

そんなわけで早々とレポートを提出した方には少しきつめな評価になって しまったようです。その後は、毎回それほど数は多いとは言えないのです が、添削から解放されて「ヤレヤレ」と思う間もなく、あまり切れ目なくレ ポートが続いています。だんだん甘くなってきているように自分でも思いま す。ただそうなると「はたして添削の対象になるのか」と考えさせられるよ うな、試験を受ける資格取得のために形式的にレポートを提出しているとし か思われないようなものも混じっていて、ため息が思わず出てしまいます。

通信の場合、はたして本当に勉強したのかどうかは、試験とレポートしかないわけですが、あまりその辺の所を考えずに試験問題を作成してしまったのではないかと、悔やまれて少し落ち込んでしまいました。

◆レポートを添削して気がついたこと

レポート課題の1単位めは、基礎的な勉強をしてもらいたいと思っていたわけですが、要領よく課題に直接関係する部分だけを、教科書や参考書の索引で引いたり、インターネットで探してそのまま順番に並べただけではないかと疑われるレポートがあります。少なくとも教科書全体に目を通して、特に課題に関係する章をよく読んで、全体の中での位置づけに従って書く順番を決めて欲しいと思います。

レポート課題の2単位めは、それまでの経験を学習理論的に考え直してみることをねらった応用問題ということになっています。経験豊かな方が多くて感心しながら楽しく読ませてもらっております。ただし、なかには単なる体験談になってしまって、学習理論との結びつきがほとんど書いていない残念なレポートもあります。これは課題1についても言えることですが、レポートでは、勉強したことと自分なりの考えとをバランスよく書くことが大切だと思います。

レポート全体として言えることは、お習字の単位ではないので、字の上手下手は評価の対象ではありませんが、丁寧に読みやすい字で書いてください。なかには私の下手な字で添削するのは気が引けるように「水茎のあと麗しい」のもありますが、あまりにも達筆で判読できにくいのや大急ぎで書いたのか修正液や二本線で消しただけというのもあってガッカリさせられます。せめて提出する前にはもう一度見直してください。それから、できるだけ国語辞典などを手元に置いて、基本的な用語は、「ひらがな」だけではなく漢字で書くように心がけてください。

また、だらだらと同じ事の繰り返しでは困りますが、あまりにも短いレポートは、本気で勉強したのかと疑いたくなります。原稿用紙の穴埋め問題ではありませんので、少し短かったり、はみ出したりは仕方ありませんが、やはり、用紙全部を使って書いた方が良い印象になると思います。

教員も、特に通学生を相手に長年やってきた教員は、勝手が違って気持ちの切り替えが必ずしもうまく行かずに悩んだり、とまどったりしながらなんとかガンバッテおります。学生の方々もあまり焦らずに身体に気をつけながら、そして楽しみながら学習を続けていくようにしてください。

教育心理学のスクーリングを終えて

白井秀明

スクーリング、本当にお疲れさまでした。

今回のスクーリングは、私にとって大学教員となって初めての経験でした。「今回は短期決戦だ! 内容をどう絞ろうか?」「頭をフル回転してもらうには?」「資料は何を用意しよう?」「ビデオを見せた方がわかりやすいかな?」「何か手足を動かしてもらおうか?」……などと考えながら準備を進めました。その一方で、「でも、せっかく時間をつくってしかも遠くから来ていただいたのに、これで反応なし、来た甲斐なし……なんてことにならないだろうか……」と、心配と不安を抱えながら、ちょっぴり緊張して当日の授業に臨んだのでした。

でも、そんな心配は杞憂でした。耳を傾けている真剣な顔、うんうんと頷いている顔、わからなくなったぞという困惑した顔、笑い声、課題に取り組んだ後のどよめき、シンプルチャルメラを吹いている真っ赤な顔、ビデオを見た時のおおっ!? という驚きの顔……頭・手・足をフル活動して授業を楽しんでいただけたのではないかという様子が、今でも目に浮かびます。

さて、今回の授業の目的は、各自が持つ「教育観」を見つめ直していただくことでした。

授業の様子からはもちろんのこと、みなさんから講義後にお書きいただい たテストの回答、授業の感想からも、この目的は概ね達成できたのではない かと考えています。授業の感想を少し紹介しましょう。

仕事がら、常に子どもたちの学習について考えているので、とても興味深かったです。特に「発達の最近接領域」と「好奇心」の話は、今後子どもたちを指導していく上で生かしていきたい内容でした。子どもたちが常に好奇心を持てるようなレッスンをするというのは口で言うほど簡単ではありませんが、今回の授業を受けて、努力不足だった点について反省しました。自分自身が点数で判断される教育を受けてきたために、目に見えるものだけで子どもたちを判断しがちですが、子どもたちは目に見えない可能性をたくさん秘めていること、そしてそれを引き出してあげられるかどうかは、こちら側にかかっていると

いうことを常に頭に置いて、子どもたちに接していきたいと思います。

教育とは、「甲と乙」の関係でしかないと考えていた。どちらかというと先生から生徒への一方的な教示であると考えていた。しかし、その様なことではなくて、先生と生徒の相互関係で成立するものであると感じた。最後に「先生が与えた問題を生徒自身の問題として捉え、入替りの促進が課題である」という点について、「教える」ということは知識のみ教えるということだけでは不足しているのと同時に、大変難しい行為だと感じた。

私は「教育」という言葉を嫌っていました。それは、無意識に「教育とは教師が子どもに知識を教えてやるものだ」という考えを持ってしまっていたからだと、講義を受けて気づきました。また、先生の障害のある方々への考え方も、自分の考えていることと重なる部分が大きく、大変興味深かったです。障害は、その人が持っているのではなく、その人が今この社会で生きるときに何らかの不都合が生まれ、その間に障害があるのだと思っています。

これら以外にも、いや全員分お載せしたいところではありますが、そうもいかない。それにしても、「以前とは異なり、今ではこう考えられるようになった」、「自分にとっての新しい課題ができた」という感想の多いこと!感動しました。授業が不十分なものだったにもかかわらず、講義内容に基づいてご自分の日頃の教育に対する考えや教育的な経験について、真剣に見つめ直してある感想をたくさん読んで、講義の疲れが一気に元気に変わりました。心から感謝いたします。これからも、わかり終えることなく実践をお続け下さることを期待しています。

最後に、授業で言い残したこと。 夢をあきらめないで! またお会いする日を楽しみにしています!

社会心理学を学習するにあたって(1)

佐藤俊人

レポート課題集にも紹介していますが、社会心理学は「なぜ、その場面である人がそのように行動したり、判断したりするのか」を解明しようとする心理学の一分野です。私たちは常に、その場その場で何らかの行動や考えを持ち続けているわけですから、人間が生活している限り、そこには社会心理学がかかわっていることになります。

そのような社会心理学の学習にあたり、いくつかの提案をしてみたいと思います。

◆自分の中にもある社会心理学

まずは、自分自身の毎日の行動や判断を少しでも振り返ってみよう、ということです。自由に振る舞っているように感じても、実際は周囲の人に気兼ねしたり、他の人の意見に左右されたり、店で店員の方に勧められてつい不要なものまで買ってしまったり、と後で振り返ると「どうしてだったんだろう?」と思うことがたくさん思い出されるのではないでしょうか? そんな時、自分の行動や考え方が「他の人の表情、意見や態度などに影響されていた」と少しでも感じたのであれば、そこにはきっと社会心理学の重要な研究対象が潜んでいると思います。ですから、社会心理学のレポート作成にあたっては、テキストや参考書に記述されている例だけではなく、できるだけ自分自身が体験した具体的な例を挙げていただければと思います。

社会心理学に限らず、人間を考える場合の姿勢として、私は「まず自分のことを考える」ことを大切にしたいと思っています。他の人の行動を客観的に観察・分析することも大切ですが、自分がその時どうだったのかを振り返ってみることにより、社会心理学をより身近な学問として考えられると思います。

◆自分のことばで説明してみよう

このように本来身近な社会心理学ですから、あまり難しい専門用語を使わなくても説明できる現象がほとんどです。テキストや参考書には、かなり多くの理論や専門用語が使われていますが、それを「自分のことばで置き換えて説明」していただければうれしいです。

今回のレポートは、テキストに書かれているものをまとめただけでも、その最低限の課題はクリアできるものです。しかし、せっかく理論や専門用語がレポートに書かれていても、本当に自分のものとして理解されているのか、それともテキストからピックアップして並べただけなのか(失礼!)の判断が迷うレポートもあります。その時、ある程度自分のことばに置き換えて記述してあれば、きちんと理解されているかどうかが伝わってくるものです。

レポートはある意味,自分の理解度を科目担当者に伝えるプレゼンテーションです。「自分はきちんと理解できている」と、私を「説得」してもらえたら、私の「態度」にも影響すると思います。

◆他の研究分野との関連

次に、今回の社会心理学の研究をここで終わらせず、将来的に他の心理系科目と関連づけて考えることを目指してください。はじめに書いたとおり、社会心理学は「その場、その時の心理学」です。人間の心にはもっと安定した部分がたくさんあります。信頼している人に同じように説得されて、意見を変える人も変えにくい人もいます。すると「人格」も考えなければなりません。その人がなぜそのような「人格」になっているかを考えるためには「発達心理学」も大切です。また、他者を断片的な情報から判断することの危険性に興味を持った方は、相手をそのまま受け入れることを大切にする「カウンセリング」も研究していただければと思います。このように他の研究分野と関連づけることにより、人間についての興味がますます広がっていくと思います。

◆さいごに -

社会心理学の科目修了試験では、レポート課題がどれだけ自分のものとして理解されているか、という確認を中心に考えたいと思っています。理論や専門用語をそのまま覚えることも大切ですが、それらをきちんと理解した上で、どのような反論や限界を感じたのかなども考えてみてください。情報を得た上で、その情報に対して自分なりに積極的に考えてみるという姿勢は、みなさんの今後の活動に大きな味方になるのではないでしょうか。

(注) 社会心理学は2006年4月より担当教員が吉田綾乃先生に変更になりました。 吉田先生からのメッセージは次の20です。

早 心理学の幅広い世界

社会心理学を学習するにあたって (2)

吉田綾乃

◆社会心理学の特徴

殺人事件など大きな社会的事件がワイドショーを騒がせない日はありません。何か社会的事件が生じた時、私たちは、その事件にかかわった人たちがどのような性格なのか、またどのような生育暦や家庭環境のもとで育ったのかを想像することが多いと思います。つまり、行動の原因が個人のパーソナリティや動機にあると考えるわけです。しかしながら、人の行動は、個人の内面的な特徴によってのみ決まるわけではありません。社会心理学では、何か行動が起こった場合、その場の"状況"に着目します。状況が違えば、同じ人間でも違う行動を取ったかもしれないと考えるのか、社会心理学の考え方の特徴です。

たとえば、昨年ドイツワールドカップが開催されましたが、その際、ヨーロッパ各国で勝敗に絡んでけが人や死者が出たことが報道されました。普段の生活の中では必ずしも暴力的ではない人たちが、一旦、集団を形成し、集団の一部に組み込まれると、ひとりの時とはまったく異なる行動をするようになることを端的に現した事例だと思います。4年に1度のワールドカップ、国を背負って皆で応援、相手国のサポーターからの挑発(?)……といった社会的状況が、個人の行動に大きな影響を与えるのです。

人は、社会的な状況がもつ影響力に気がつきにくいという特徴をもつています。私たちは、誰かが何か行動を起こした時、それが他者の命令によって引き起こされていたとしても、そこには本人の性格が現れていると判断し、なかなかその場の状況が、行動を引き起こしたと考えることができません。たとえば、予想外かもしれませんが、人を助けるという援助行動に関する研究では、援助行動の起こりやすさは、「やさしさ」や「思いやり」といった性格特徴をもっているかどうかよりも、「その時、周囲の人がどのように行動しているか」という状況によって決まることがわかっています。皆さんも、社会心理学を学ぶことによって、今まで気がつかなかった"状況の力"

◆社会心理学が目指すもの

レポート課題集にも紹介されていますが、社会心理学は「人は、なぜ、その場面でそのように行動したり、判断したりするのか」を解明する学問です。行動のメカニズムを解明、予測し、さらにはコントロールすることを目指しています。行動の解明⇒予測⇒コントロールという3点の中で、社会心理学が最も重視していることは、「なぜかを説明すること(解明)」です。

たとえば、問題行動の場合、どのような状況でどのようなタイプの人が問題行動を起こすのかがわかれば、将来、いつ問題行動が起きるのか予測することができるようになります。また、原因が特定できるということは、原因となる要因を排除すれば、問題行動が起きないように行動をコントロールすることも可能となります。世間では相変わらず振り込め詐欺が多発していますが、「なぜ騙されるのか」がわかれば、騙されないように対処することが可能になる、というわけです。社会心理学は、非常に"使える"心理学であると言えるかもしれません。

◆レポートについて

レポート課題では、対人認知と態度形成・態度変容の特徴とともに"各自のこれまでの経験や具体的事例などを挙げながら論じる"ことを求めています。レポートを作成する際には、それぞれの特徴に関する記述と具体例のバランスを考えてまとめてください。

レポートを作成する際、これまでに自分が学んだことは、もらさずすべて書きたい!と思う気持ちは非常によくわかります。しかしながら、内容をまとめることに重点を置きすぎており、評価する側から見ると、まるで教科書の要約を読まされているような印象を抱くレポートがあります。このようなレポートの場合、書き手の理解度を評価することは非常に難しくなります。その一方で、ご自身の経験や意見のみをまとめる方もいらっしゃいます。このような場合も理解度を評価することは困難です。

通信教育の場合は、残念ながら、皆さんが一生懸命に勉強し、レポートを

まとめている姿を直接見ることはできません。文字数の限られたレポートの中で、自分自身の"理解度"をアピールすることは非常に難しいことだと思いますが、できるだけ"自分の言葉で自分の考えをまとめる"ことを心がけてください。そして、欲を言えば、自分自身が経験した事象について、理論に基づいて自分なりの解釈や考察を試みてください。このような記述がある場合には、特徴を十分に理解し、また社会心理学の知識を自分のものにしていると判断することができます。

誰かを○○な人だなぁ、と判断したことがない人はいないと思います。また、生まれてから今まですべての事柄に対して一貫した態度を持ち続けている人もまたいないでしょう。対人認知や態度形成・態度変容は、私たちが日々の生活の中で体験していることです。自分自身の経験を客観的に見つめ、社会心理学の理論を使って、上手に解釈、説明をしてみてください。

◆最後に

私は社会心理学を学ぶ楽しさは、学んだ直後から自分の生活の質を改善できることにあると思っています。社会心理学の研究テーマは日常生活に密接に関連していますから、学んだことをすぐに実生活に生かすことができます。教科書にはいろいろな概念、理論やモデルが出てきますが、それらは難しい言葉の遊びではなく、現象を客観的に記述し、説明を試みた研究者達の努力の結晶(?)でもあります。ぜひ、さまざまな研究知見を楽しみながら、自分自身の行動を振り返ってみてください。

家族心理学のスクーリングを終えて

西野美佐子

◆はじめに――スクーリングで意図したこと

「いえの者」と言えば、妻や子どもを指していました。家庭はhomeの訳で、そのメンバーは家族と呼ばれますが、実はfamilyの訳です。しかし、本来、家とは「同じ屋根の下に住み、食を共にすること」を言います。少子高齢化社会の日本においては、もうすでにペットも大事な家族の一員となりつつあるようです。会話をするロボットも、そのうち私の家族と思い始める人がいても不思議ではありませんね。

家族心理学は、「行動科学的方法論に準拠して家族関係にかかわる心理的諸現象を研究する科学」です。家族心理学の対象のひとつである「家族」は、今では小規模化し、家族の姿も多様化してきています。昨今の離婚の増加などを考えると、成員同士の間で結ばれているはずの「深い情緒的な絆」ももろいものとなっています。福祉追求の第一次的集団であるべき家族への社会的支援がいろんな形で求められています。

誰もが、"誕生"と同時に所属する最初の集団ですから、自分の経験と重ね合わせながら、しかし、広くかつ客観的に、家族の形成・発達と崩壊などのファミリー・プロセスや家族内成員の関係、コミュニケーションのあり方などの理解に努めてもらいたいと期待しています。講義の内容も、①家族心理学の課題と方法、②システム論的アプローチ、③家族のライフコース、④家族内心理構造とコミュニケーション、⑤家族病理——児童虐待・不登校など、⑥家族への介入——アセスメントと家族カウンセリングの方法などを予定していましたが、時間の都合で十分述べられなかったこともありました。

◆家族心理学の基礎用語を理解するために

家族心理学で講義する家族力動の主なる基礎用語は、連合、境界、パワーです。

家族の中で中心となるのは、核家族であれば夫と妻の夫婦連合であり、信 頼関係に満ちて確固としていることが大事であることは言うまでもありませ ん。しかし、家族の発達過程の中で、家庭内メンバーの結びつきは変化して いきます。例えば、子どもが乳児期であれば、母子密着のてんめん状態であ ることはごく自然のことです。ムズムズからだを動かし今にも泣きそうに顔 をゆがめ始めただけで、母親は「おっぱいかな?」「おしめかな?」と赤 ちゃんの枕もとに駆けつけることが多いでしょう。しかし、子どもが大きく なって学童期になると、お父さんは息子のサッカーのコーチをかってでた り、野球の相手をし始めます。また、高校牛の娘が父親の仕事の分野に進路 を希望し、関心領域を共有している父親に相談するとき、父親と娘の連合が 一時強まることでしょう。青年期の娘は母親と意気投合してショッピングに でかける姿も多く見受けられます。このように得意領域や趣味・関心をきっ かけとした連合が、そのときどきに応じて柔軟に形成され変容していくのが 健康な家族の姿といえましょう。また、夏休みの家族旅行の行き先を、母親 が財布と相談しながら子どもの意見を取り入れ決めることが多かったりしま す。母親と子どものパワーが、留守がちな父親のパワーに勝る良い例です。 いつでも、どこでも、固着した連合が幅を利かしていたり、夫を中心とし

いつでも、どこでも、固着した連合が幅を利かしていたり、夫を中心とした嫁と姑などの2世代にまたがる境界の曖昧な入り組んだ三角関係が見られる場合は、家族の心理的自由度は減少し、緊張をもたらすことでしょう。

最近では父親の単身赴任が増加しています。こうした単身赴任家族では、 地理的・時間的空間で父親は他の家族から遊離していますが、心理的空間で は家族の絆によって、その物理的遊離を埋め合わせている家族も多いことで しょう。そのような場合、家族メンバーはきっと、今までとは異なる家族の コミュニケーションの手立てを見つけ、努力していることがあるはずです。 このように身近な家族の日常生活のありようを、家族心理学の用語で見直し 記述することもひとつの勉強方法です。

◆スクーリングを終えたら早目にノート作りを!

配布された資料を見ながら、講義を聴き納得したつもりでも、正確な知識を身につけるためにもう一度ノート作りをすることをお勧めします。わかったつもりでいることでも、一箇所くらいはもっと詳細に知りたいと思うこと

は必ずあるものです。講義で参考書としてご紹介しなかった本は、配布して あるテキストの各章の参考文献に書き出されている本を参考にしています。 ですから、もっと詳しく知りたいという方は、その参考書にあたりノート作 りをしながら読むことです。今では、パソコンなどをノート代わりに利用している方も多いでしょうが、その日勉強した要約をパソコンに記録しておく のはいいでしょうが、その前に、まずは自由に、自分に合うラフなスタイルで自らの手で書きだすことです。

少し大きめのノートを準備し、日付と見出し(大抵は本の題名と章を書き出す)を書き、その後は自由に基礎的な概念の定義を書き出したり、内容の関連を図示してみたり、大事な項目の要約を自分なりにまとめたり、それに対する自分の意見を赤ペンで書いたり、頭に叩き込むつもりで書き出してみることです。そうするうちに正確な知識を身につけることができるでしょう。情報過多の現代、多くのあいまいな情報よりも、その時点で、少しでも正確な知識を毎日少しずつでも身につけていくことはとても大切なことです。

"塵も積もれば、山となる"です。

◆家族問題をもっと深く理解するために

最近は、家族問題の事例を掲載された出版物も多く出回るようになり、そうした事例に出会う機会も容易になりました。倫理問題などで、個人が特定されないように加工されておりますので、安心して出典さえ明記すれば引用できます。そうした家族問題について家族心理学的アプローチで、家族内力動を捉え、家族の心理構造を捉え直してみるといいでしょう。

読む際に、事例の客観的な事実とその事例に対する著者の解釈を区別して 読み進めていくことです。事実に対する解釈は、立場が異なると変わりうる 場合があるからです。自分だったらどのように解釈するか、書き出してみて ください。そうした上で自分の意見と著者の解釈と比較してみるといいで しょう。

家族問題を理解する上で、個人や家族的文脈にさらに加えてほしい視点としては、家族の置かれた地理的・歴史的・社会経済的視点です。個人や家族的文脈は、家族を見る微視的視点とすると、地理的・歴史的視点もしくは社

会経済的視点は、家族をみる巨視的視点ということになります。家族力動を 理解するには、微視的視点と巨視的視点を両方加味して初めて、より深く個 人や家族を理解することができるでしょう。

◆生活を科学化することへの挑戦

家族心理学の講義を聞きながら、学生自身の家族や、自分がさまざまな場で対面している家族に思いをはせながら、講義の内容と重ね合わせて聞いてくださった方も多いようです。今、社会問題となっている児童虐待やACなどへの関心の高さも伺うことができました。また、仕事の立場から家族への援助方法について知りたいという希望も多く出されておりました。家族形態の多様化が進行する中で、典型パターンと異なる家族の発達段階についての研究情報を知りたいというご意見もありました。

スクーリングに参加した学生の方々の講義の感想から、皆さんの関心や私 と皆さんの双方に課せられた今後の課題が見えてきました。

今学生の皆さんが家庭・職場・地域等で直面している問題について考えることは、まさに「生活を科学化する」ことそのものです。本学が追求している実践科学への第一歩だと思います。カリキュラムの発展として事例の解釈や援助の実際を検討しあうことができれば、私にとっても援助スキルの実践研究にふれられるのにと思いますが、現段階ではそういった指導や演習の機会はありません。学生諸君のご健闘とご活躍に期待しています。

心理アセスメントのスクーリングで学んでほしかったこと

渡部 純夫

◆スクーリングを振り返ってみて

「心理アセスメント」のスクーリングを行わせていただきました。非常に有意義な3日間でした。常日ごろは受講生の方とレポートに記された文章の中でしかお会いすることができないのですが、スクーリングではお互いに顔を付き合わせて生の声を聞くことができるということで、受講生の方々のほとばしるエネルギーの強さを感じることができました。毎日座られる席も、普通だったらテリトリーの関係で決まってしまうのですが、積極的に前の方で受講し学びたいという姿勢のため、日々座る位置が変わっていました。通学生の講義ではあまり見られないことだと思います。それから、授業中の態度にも感心しておりました。私語はなく寝る方もなく、受講生の目が一同にこちらを追いかけてくる光景は、講義を行う立場としてうれしくもあり、やる気もおこるものです。私としては心地好く、心に張りのある3日間を過ごさせていただきました。ありがとうございました。

◆講義の内容について

今回講義を受講された方には復習の意味で、次回受講される方には講義の イメージを作って授業にのぞんでいただくために、講義内容をまとめてみた いと思います。

「心理アセスメント」のテキストでは、一般的なアセスメントの考えと方法について書かれています。是非スクーリングまでに一度目を通しておいてください。アセスメントのイメージを作っておいてスクーリングに参加していただきたいと思います。それは、スクーリングの講義では臨床の場で行う「心理アセスメント」についてお話しすることにしているからです。一般的なアセスメントのイメージがあることで、臨床におけるアセスメントの考え方と方法がより深められるからです。その意味でもテキストを一度くらいは

ざっとでよいですので、読んでおいてください。

(1) 「正常と異常」

講義では、まず「正常と異常」について考えていくことにします。私たちは、よく「あの人は正常で、あの人は異常だよね」といったりします。そこで、よくよく注意して考えなければならないのが、判断方法と基準がどうなっているかということになります。どんな方法を使って判断をしているのか、今までの判断方法はどうだったのかについて、考えていただこうと思っています。ここでは、判断基準のいくつかを覚えてもらうと同時に、絶対的な基準はないということも知っていただこうと考えています。

(2) 「心理臨床家の視点」

心理臨床家はどのように問題を考えていくのかについて、お話をすることにしています。しっかりとしたアセスメントだと思っていても、意外と大事なことを聞き忘れたり、心理臨床家の独断が入り込んだ解釈になっていたりするものです。そのような危険性を少しでも防ぐために、心理臨床家の視点をしっかりと自分のものにしていただきたいと思います。

(3) アセスメントの方法

アセスメントでは、言語的なもの・非言語的なものを通して情報を収集します。また、客観的な資料を集めるために心理査定法(心理テスト)を使うことがあります。アセスメントを行うにあたって一番重要なことは何かと申しますと、クライエントの福祉や幸せに必ず貢献できるということであります。その保証がない状況では、アセスメントも意味がなくなってしまいます。この事を、心理臨床家は肝に銘じておかなければなりません。

(4) 心理面接によるアセスメント

心理面接を通してどのようなことをアセスメントするかについて説明 したいと思います。言葉を媒介にして、いろいろな情報を集めることに なります。その中に、クライエントの悩みの原点や自我形成・発達など の問題点が表現されてくることになります。

(5) 心理査定法

心理テストにはたくさんの種類があります。それぞれが、とらえるべ

きポイントが違っています。どのように違うのか、どのような使え方を すればよいのかについてお話したいと思います。また、心理テストの危 険性と倫理について、実際臨床の場ではどのように使われるのかについ て説明したいと思います。

(6) 行動観察によるアセスメント

無意識の心の動きが、何気ないしぐさや行動に出ることがあります。 行動を観察するとはどういうことか、どのように行えばよいのかについ てお話したいと思います。行動を見ていくと、人間関係の一部がわかる くらいに行動の観察は重要なものになります。

◆総合的・個人的なアセスメント -

いろいろなアセスメントの方法を学びながら、クライエントを総合的にとらえる試みをしていくことはとても大事なことです。そして、もう一つクライエントはこの世で一人しかいない個としての存在でもあります。このことをいつも頭において、アセスメントをしていくことが重要です。これらのことを3日間で学んでいくことになります。一緒に人間理解の方法を深めていきましょう。

スクーリングで学ばれた方は、ぜひ今後に生かしていっていただきたいと 思います。次回受講される方は、心よりお待ちしております。

心理療法のレポートを添削して

秋田 恭子

◆はじめに

今年度から心理療法を担当する秋田恭子です。よろしくお願いします。レポートを拝見させていただき、気がついたことについて、述べたいと思います。

◆「心理療法」のレポートで「再提出にならない」ために –

1. レポート課題のテーマをよく理解しましょう!

そのためには、「レポート課題集」にのっている、各単位の解説をよく読んでから始めてください。

この解説の中で4単位めの「発達的カウンセリング」についての説明が少ないのでそのことについてお伝えします。

この事例は、中学2年の男子です。中学2年という年代は一般的には、どんな年代でしょうか? この時期は、子どもから大人になる時期で、たとえば、身体的変化に対する心の状態、親との問題、人との関係、自分のとらえ方など、さまざまな変化があります。このことは、すでに多くの研究者が指摘していますので、それを参考にして、まずはその年代の発達的特徴をとらえてください。

その上で、その特徴と比較してこの事例の中学生はどうかを考えてください。事例の文中には「ひとりで留守番できない」「一人では自分の部屋に行かれない」など、他にもこの中学生の状態について書かれた部分はありますが、その状態と一般的な中学生の状態と比較して、この事例の中学生はどんな成長を遂げており、あるいは遂げていないでしょうか? その視点を織り交ぜてこの事例を考察してください。これが、発達的視点ということです。

2. 参考文献は教科書だけでは不十分です。

教科書は、確かによくまとまっており、自分の知りたいことが、すべて書

かれているように思われ、教科書の記述をまとめるだけで見栄えのよいレポートが仕上がると思われるかもしれません。しかし、レポートで要求されていることを書くには、教科書に書かれてある内容だけでは、とても難しい場合が多いと思います。教科書はまとまって書いてある分、解説も少ないので、わかりにくいところも多いと思いますので、時間がないとは思いますが、ぜひ他の本にも目を通してください。

3. 参考文献としてのインターネットの利用について

インターネットは、調べたいことを24時間、しかも自宅で調べられる便利なものです。しかし、他の先生もすでに書かれていますように、文部科学省とか、厚生労働省や大学の研究者のサイトや研究者の論文などはともかく、匿名やあだ名などのサイトもたくさんあります。そういう個人的な意見をそのまま鵜呑みにして、それをレポートに書き写す方もいらっしゃいます。インターネット上の意見は正しい知識に基づいたものである場合もありますが、時には全くでたらめなことがあります。

忙しい中, なかなか図書館に通うことは難しいでしょうが, ぜひ, きちんと書かれた本を同時に参考にし, ネットからの引用には十分に気をつけてください。

4. 引用した箇所はきちんと明記

『学習の手引き』にもありますが、引用箇所は明記してください。そうしないとご自分の意見なのか、他の人の意見なのかわからない上に、他の人の意見を自分の意見として書かれるとそれは盗作になります。なお、引用箇所を明記することによって、時にはいかに引用が多く、自分の意見が少ないかにも気がつくきっかけにもなります。

5. 誤字・脱字の確認・自分の文章を読み直しましょう!

このごろは大きな辞書を調べなくても携帯電話などでも簡単に漢字は調べられます。レポートを提出する前に、漢字を今一度調べてください。また、レポートの中には、文章が途中で急に終わってしまったり、文字が抜けていたり、主語と述語があわないものがみられます。せっかくの力作も何を伝えたいのかわからないこともありますので、ご自分が書かれたレポートを、完

成されたら、声を出して読まれることをおすすめします。

6. 自分の意見を中心にまとめる

レポートの課題に求められる知識をいったんは自分の中でかみくだいて、 そこから考えられたことを中心にまとめてください。いろいろと勉強されて 書きたくなってしまう気持ちはわかりますが、そうなってしまうと、レポー トには、字数制限がありますので、蓄えた知識から考え、導き出されたもの を書くスペースがなくなってしまいます。

7. 余談ですが――レポート課題は単位修得のためだけにあらず!

もし、単位の修得だけのために、レポート課題をこなすのだとしたら、それは時には苦痛を伴うものだと思います。ですから、皆さん、このせっかくの機会を利用して心理療法の知識や考え方をできるだけたくさん習得しようという気持ちで臨んでみてください。

◆おわりに

スクーリングでも短い時間ではありますが、ロールプレイを通して、心理療法をみなさまに少し体験していただく予定でおります。心理療法は、とても難しいものだと思います。理論がわかったからといって、できるものではありません。しかし、理論はフロイトを始め多くのセラピスト(面接者)が、人間の心をよりよく理解したい一心で日々の臨床を通して、築き上げてきたものです。その理論をできるだけ理解することから心理療法は始まります。

とは言え、心理療法は、本で勉強するだけでは、身に付くものではありません。自分自身が道具となって来談される方とかかわるわけですから、自分の心の状態にも健康にも気を配らなければならないものです。また、人間の心を扱うこの学問は、文化や時代の影響もうけるものですし、奥が深く、きりがなくて、とても魅力的な学問です。教える私自身も一生勉強です。どうぞ、ご一緒にこの「一生勉強の旅」にご参加ください。

心理療法のスクーリングを終えて

宇田川一夫

◆スクーリングを終えて

「心理療法」という学問は基本的には「事例研究」にたどり着きますが、ほとんどの方は「心理療法」の経験がない方が聞いていたのではないかと推察いたします。実際の心理療法は、クライエントの人権の尊重ということもあり、「ブラックボックス」の中にあります。したがいまして、「泳いだ経験のない人」に「泳ぎ方」を根ほり葉ほり3日間、説明したのと等しいのではないかと思います。感想文の中にも「何を講義しているのかわからない」と言う感想を書いた方もいらしゃいましたが、私も「そうだろう」と思います。

ただ、私のスクーリングの方向性は、皆さんが、日々「本」を中心に学んでいるので、スクーリングでしかできないより実践的な講義と体験学習を取り入れました。

受講生が多数でしたので、マイクを使うこととなりましたが、私の話し方やマイクを離すクセがあるようで聞きづらかったことをお詫びいたします。スクーリングの感想にも多くの方がそのことを書いているので自分でもどうしてなのか考えましたが、「教室の反響音により、コンマ何秒後に自分の声が聞こえてくること」もひとつの原因ではないかと考えました。つまり、行動療法で「吃音」の治療に使う方法が、あの教室において「条件刺激」が整っていたことを見落としていました。「吃音」を治す方法は、「吃音」も発生させることができしますが、あの教室自体が、「治療効果(?)がある部屋であること」に気づきませんでした。

なお、心理療法という名称が示すように、現在心理療法を受けている方や深刻に悩んでいる方には受講することをあまりお勧めしません。なぜなら、自分の問題と絡むところだけを「断片的理解」してしまう危険があるからです。

◆ノートを取ることの大切さ

試験の答案を見ると、「暗記」することが「勉強である」と理解している傾向が見られます。確かに「暗記」することは大切な作業ですが、ただし、そこに留まってしまうとそれは「丸暗記」や「棒暗記」の域をでません。暗記したものを次にその「意味すること」を理解し、わからない点を考えたり、ハッと新たな考えが出てきたりすることが大学の「勉強」と思われます。

答案用紙を見ると、「記憶」をたどりたどり書いている答案が見られますが、読む方からすると文意が飛んでしまいます。その要因は、教員が板書に書いたことしかノートに書いていないからだと思います。大学の授業は、時間との関係から、板書には要点だけしか書きません。それに関することは、口頭で説明します。もし、その説明をノートに書き込まず、板書に書いてあることだけしか書いていないとしたならば、ノートを振り返って見直しても、その意味することがわからず、結果的にただ「丸暗記」することになってしまいます。

大学では、先生の話すことを自分のノートに「口述筆記」することで、は じめてその意味することが理解でき、学ぶことができます。このように作成 したノートは、講義後、自分で読み直しても「意味を把握しながら理解する こと」ができ、自分の「宝」となります。

最終日の試験に対して、「勉強方法がわからない」、「明日の試験準備をどうしたらら良いのかわからない」、「参考書を指示して欲しい」等の意見がありましたが、それは自分で理解しやすいような講義のノートを作成しなかったからであろうと思います。板書以外に講義の重要点を筆記し、まとめた「マイ・ノート」ほどすぐれた「参考書」はありません。

せっかくのスクーリングですので、講義のノートを取るよう心掛けて受講 することをお勧めいたします。

◆レポートの作成

レポートの全体の傾向は、「引用」と「要約」が多い傾向にあります。 「引用」は、自分の文章をより意味づけしたり、明確にするために使いま す。しかし、引用が、主文になっているレポートが見られます。インターネットの発達により、情報が受け取りやすくなりましたが、情報の羅列は、 レポートではありません。受け取った情報をいかにかみ砕き、自分の考えに 取り入れて文章化するかが、勉強と思われます。

また、課題を書くあたり、参考文献に書かれてある内容を「要約」するだけのレポートも見られます。確かにある理論を把握するには、重要なことを要約して理解することが必要です。ただし、この段階では、レポートの作成には至っておりません。重要な要点を理解した上でレポート課題にどのように論理的展開をしていけばよいのか、自分なりにまとめた「要約」を活用してレポートを作成します。うまくレポートが展開しない場合は、与えられた課題に関して重要なところを再び調べ、要約する作業が必要となります。つまり、勉強とは、「結果」ではなくその「過程」といえます。

別な表現をすれば、勉強の苦しさや楽しさは、ちょうど「ウナギをつかまえる」ことと似ているかもしれません。つかまえた(理解した)と思ったら、スルリと逃げられ、その悔しさから今度こそはとファイトがでてくる、その過程をイライラしたり、投げ出すことなく、忍耐強くチャレンジすることが大切と思います。「引用」や「要約」のみのレポートは、「標本になったウナギ」(結果)の提示と同じです。自分なりのウナギをつかまえるまでの苦しさと楽しさを体験してください。

※心理療法は2007年4月より担当教員が秋田恭子先生に変更になりました。

児童青年心理学のレポートを添削して

西野美佐子

◆はじめに

児童青年心理学(4単位)の単位取得には、4つの課題に対して所定の枚数のレポートを提出し合格しなければなりません。この科目は、3年次以降の履修科目であり、発達心理学の各論として位置づけられております。

さて、「児童青年心理学」は心理学の本の題名でも、あまり聞いたことがない名称だな?と思われたことでしょう。実際、皆さんが児童青年心理学の参考書を探すとき、この題名で検索しても1冊の書物は見つけることはむずかしいはずです。なぜなら、児童心理学と青年心理学の2つを操作的に合体した科目名称ですから……。そのような理由で、テキストも2冊配られています。

科目の名称が示すように児童期と青年期を対象としていますので、レポート課題の選定で配慮したことは、3つあります。まず第1は、児童期と青年期からそれぞれ2問出すこと、第2は、その時期の重要課題に関連する領域から出題すること、そして第3に、その時期の重要課題であると同時に、「現代的意味」を加味して論じられるような問題とすること、以上3点です。

◆課題が要求すること

課題のレポート作成を通して学んでほしいことは、今年度の科目の課題の解説のところで詳しく説明していますが、要約すると以下のようになります。

課題1では、児童期の発達課題である「勤勉性」を「遊び」と「学び」から論じること、課題2では、疾風怒濤の思春期をとくに性の問題に焦点化して論じること、課題3では青年と親の関わり方の発達的変化を論じること、課題4では青年期の進路選択におけるアルバイト経験の役立て方について具

体的に考えることです。

内容がはっきりしているので、基礎的な概念の理解を前提とした上で、必要事項を整理し、今日の日本の児童・青年の実態を踏まえたうえでレポートを作成することになります。そうすると、レポートの中に、自然とそれらを見る自分の視点や意見などが盛り込まれることになります。私のレポート添削の楽しみは、今日の児童青年が成長・発達する中で、環境からの影響をどのように受けながら育っているのかを理解し、課題を論じているかをチュックしながら読むことです。

◆単位をとるためのレポートから、自分の思考の枠組みを作るレポートに

今年からレポート添削に従事して気づいたことを述べてみたいと思います。通信制が開始されてから3年目、3年次からの履修科目ですので、編入生の方も、「待ってました」とばかりに、いかにも急いで提出されたと思われるレポートに出会うと、その意気込みは認めますが、「単位をとる」ってどういうことなのだろうと疑問を抱いてしまいます。その科目を「学習する」ことで、日頃の「子どもを見る目が変わった」「青年の行動に関心を抱くようになった」などの行動変容と結びつかなければ本物ではありません。そこまではいかなくても、レポートは、通信制の学生にとっては、学習のプロセスであり、その時点での学習の成果を示す大切なものです。

話は変わりますが、この地球上の人間の発達過程を考えるとき、児童期(一般的に言うと子ども時代)はどの文化圏でも必ず存在しますが、青年期はそうとは限りません。南米やインドなどの貧しい文化圏のストリートチルドレンは、自分で食い扶持を稼いで家族とは独立して生活し、そのうえ家族に経済的援助をしていたりするので、その意味からいったら立派な「大人」です。ところが、日本のような工業先進国では、一般に進学率が高く高学歴化が進んでおり、子どもと大人の間に長く引き伸ばされた青年期が存在します。このような社会文化的要因が、人間の発達過程の諸相に相違をもたらしているのです。一般的な発達過程(段階)は、どのよう文化圏の研究から生まれてきたかを自覚して、児童期・青年期の課題に取り組んでほしいと思います。

◆基礎的知識の整理と現代社会の中での児童・青年の実態

最近拝見したレポートの中で、面白かった(正しいとは異なる)箇所を書きだしてみました。あなたは、どのように思いますか? 考えてみてください。

- ・現代の若者は、「ブランド志向」である。(?)~の人もいるなら 🥹
- ・「コミュニケーション」とは、孤独な心の寂しさからの開放ともいうべきものであり、メールなどの会話が、安心感となり、自己満足を得ることとなるのである。 (?)
- ・「ニート」(Not in Employment & Educational Training) は、大人社会への反抗と独自の価値や規範をアピールしているものである。 (?)
 - : 同感 (?): そうかな~? そうだといいけど~。

◆発展した理論の理解も踏まえること

レポートは紙面が限られておりますので、自分の書きたいことが書ききれないことも多いかと思います。レポートを読む側に立つと、「書かれていないこと」をどのように理解しているかレポートから推測することは難しいことです。

例えば、青年心理学の分野で大切な「アイデンティティ」とは、エリクソンの用語で、「自分が連続性と類似性を持ったものであることを経験し、それに応じた行為をなしうること」をいいます。第2の誕生といわれる思春期は、この自我同一性の危機の時期にあたります。この時期、衝動性が増大し、社会から期待される役割変化の中で、役割葛藤を抱き自分を見失う危険にさらされているからです。

マーシャは、エリクソンの理論を発展させてアイデンティティ・ステイタス理論を提唱しました。つまり、アイデンティティが形成されていく状態を、「アイデンティティ達成」「モラトリアム」「フォークロージャー」「アイデンティティ拡散」の4つのステイタスで説明したのです。このことをレポートにまとめる際に、モラトリアムとアイデンティティ拡散だけではな

く、その他の2つも忘れずに理解しておいてほしいと思います。

◆さいごに——「文は人なり」と言うことわざ

書くことは、"自分"を書き表すことです。複数の文からなるレポートは、レポートを書いている人のものの考え方・感じ方が表現されます。願わくは、自分の体を介した言葉で、"自分"を書き表してほしいです。

もうひとつ些細なお願いですが、字はうまくとは言いませんが、心をこめて書いて欲しいと思います。急いで書いた乱雑な字、升目からはみ出さないように丁寧に書いた字、几帳面さがにじみ出ている字、など、など。通信添削をする教員にとって、やはりその人らしく心をこめて書かれた字は、上手下手ではなく、読みやすく好感がもてます。

最後に老婆心ながら、言わせていただきますと、文はあまり長くなったら、2つの文にしたほうがわかりやすい。述語は忘れる人はいませんが、主語がはっきりしない文に出会う場合がありますので、主語をお忘れなく!

◆「無意識」の正体を考える

「無意識」とは一体何物なのであろうか。いくら「無意識」が存在すると言われても、見ることもできないし、触れることもできなければ、今すぐその存在を信じろと言われても、「はい信じます」とはいかないものである。そもそも、よく考えてみれば人間が意識できないものであるからこそ「無意識」なのではないか。意識し理解できたとしたら、それは「無意識」ではないのではないか。ごもっともと言いたくなる。果ては、「無意識」という言葉さえ必要ないのではないかと言うことにもなりかねなくなる。

◆「無意識」は存在しないか

人は不安な状況に置かれたときに、「何かわからないが何者かが内側から襲ってきて、そら恐ろしい気持ちに取りこまれることがある」。自分の内側から突き上げてくるものの正体を見ることはできない。でもそれは確かに存在していると感じることができるし、「私」とは違うものであることも了解できるのである。フロイトは、その存在に「無意識」という名前をつけたのである。

◆臨床と「無意識」

臨床の場面で、臨床家がクライエントの内面を分析しようとするとき、深層心理学の客観的知識をそのまま適用しているわけではない。あくまでも、クライエントの主観的体験を基礎に、クライエントが自分自身をどのように理解していくかという点に重きを置いてそのプロセスにつきあうわけである。つまり、臨床家が扱う無意識は、「自然科学」の方法とは違い、クライエントの問題解決のために使われ、人間が自分自身について了解するのに効

◆一般的な意味での「無意識」とフロイトの考えた「無意識」

一般的な意味での「無意識」とは、個人の行動を左右し、思考や感情の方向づけに大きな影響を与えながらも、本人には自覚されない心的過程を 言う。

フロイトは、「無意識」を二通りに分けて使用している。形容詞的に使われる場合は、現実的には認めがたい欲望や感情、思考の性質ゆえに強く抑圧されて、意識にはあがってこないものを言う。つまり、防衛機制が働き意識の外に押し出されたものをさしている。一方、名詞的に用いられた場合は、局所論的視点から見たもので、意識、前意識と共に人間の精神構造を作っている一部としてとらえることができる。なお、1920年代にフロイトは、呼び方を変え、無意識をイドと、意識を自我と呼んでいる。

◆ユングの考えた「無意識」

ユングもフロイトと同じように「無意識」を二通りに使っている。一つは、自我が及ばないこころの内容を描くためで、もう一つは、それ自身の特徴や法則、機能を持ったこころの場を書き表すためである。ユングは無意識を、抑圧された、幼児的、個人的経験が蓄えられているだけの場とは見ないで、個人的な経験とは異なるより客体的なこころの活動の場であるとも考え、個人的無意識と集合的無意識を考えついたのである。

◆「無意識」への接近

では、無意識に接近するための方法としてどのようなものがあるかあげて みることにする。人間が無意識の働きを意識するのは自我の安定を欠くよう な不安な状況に追いこまれたときが圧倒的に多いと考えられるが、無意識は 創造的な面も持ち合わせていると考えることができる。そこで、無意識への 接近方法の重要なものとしてとしてイメージをあげることができる。

例えば、波の音を聞きながら砂浜を歩いている自分をイメージしてみよ

う。時間と共にイメージに変化が生じてくる。こころのエネルギーが流れて無意識の内容が意識の方に近づいてくる感じが自我の働きにより把握されるようになる。このように、イメージを通して「無意識」への接近がはかられると考えることができる。夢やファンタジーがイメージとしてとらえられることから、夢やファンタジーを利用しながら「無意識」の創造的エネルギーを臨床の場面で活用しているのが心理療法と言えなくもない。

●引用・参考文献

河合隼雄 1977 無意識の構造 中公新書

B.E.ムーア B.D.ファイン(福島章監訳) 1995 精神分析事典 新曜社 チャールド・ライクロフト(山口泰司訳) 1992 精神分析学辞典 河出 書房新社

ラプランシュ・ポンタリス(村上仁監訳) 1977 精神分析用語辞典 み すず書房

アンドリュー・サミュエルズ(山中康裕監訳) 1993 ユング心理学辞典 創元社

中島義明ほか編集 1999 心理学辞典 有斐閣

フランク・J・ブルノー (安田一郎訳) 1996 心理学事典 青土社

佐々木千鶴子

非常に過酷な状態におかれると、私たちの身心にはさまざまなストレス反応が現れます。いくつかの症状を併発し、それが約1カ月以上続く場合PTSD(心的外傷後ストレス障害: Post Traumatic Stress Disorder)と診断されることがあります。今回は、知名度の高いPTSDではなく、急性ストレス反応について簡単に説明します。PTSDは誰もが発症するわけではありませんが、急性ストレス反応は誰にでも起こります。

たとえば、惨状の目撃は、マスコミを通じた映像に触れるだけでも私たちの気分を重くします。尋常ならざる場面は私たちの身体に「緊急事態発生!」と信号を発します。すると交感神経系が活発に動きだし、不眠、イライラ、食欲不振、過食、酒量の増加、感覚の麻痺など、さまざまな変化が起こります。

そうした体験の後、その直後からどう対処するか、これが重要な課題となります。しかし、そのときはすでにさまざまなストレス反応が起こっているわけです。出来事の体験中から急性ストレス反応が起こり、私たちはその影響下におかれます。この点を十分配慮して、課題に取り組まなくてはなりません。その配慮に欠けると判断を誤り、さまざまな誤解やトラブルの種がまかれることになります。

それでは急性ストレス障害を参考に急性ストレス反応の特徴を見てみましょう。アメリカ精神医学会が作成した『精神障害の診断基準マニュアル (DSM-IV)』を元に簡単にまとめてみると、急性ストレス障害 (Acute Stress Disorder)は「重篤な惨事への暴露によって、解離症状、再体験症状、回避症状、覚醒亢進など諸症状によって、社会適応が困難な状態が2日以上最大4週間持続したもの」と定義されます。中でも誰にでも起こりやすい急性ストレス反応として覚醒亢進があげられます。具体的には、睡眠障害(寝付きが悪くなる、熟睡感がない、悪夢を見る、夜中に目が醒める、早朝の目が醒めるなど)、易刺激性(いつもなら気にかけない程度のことでイライラする、ちょっとしたことで怒りっぽくなるなど)、集中困難(何かを考

えてもまとまりがつかなくなる、考えが堂々めぐりになる、持続的に作業に取り組めないなど)、過度の警戒心(過剰に用心深くなるなど)、過剰な驚愕反応(ちょっとした物音にも敏感になったり極端に驚いてしまうなど)、運動性不安(そわそわして落ち着かずつい動きまわってしまうなど)といった症状があげられます。

こうした誰にでも起こり得るストレス反応が、私たちの視野を狭め、課題解決能力を低下させるのは明らかでしょう。そんなときには、一呼吸おきましょう。「急がば回れ」というわけです。緊急事態に際し、ともすると根性論がかっこよく見られ、問題が間違った方向へと動いていくことがあります。無自覚なままに放置すると思わぬ悪さをするのが「急性ストレス反応」です。誰にでも起こるものだからこそ、あなどれないのです。

白井秀明

先生 「みなさん、先生のいったことわかりましたか?」 子どもたち 「はぁーーーい!」

だれでも経験したことのありそうな会話です。子どもたちがちゃんとわかったかを確認するため、よく先生が口にしてしまう台詞です。気が小さい私も、講義中、表情を変えてくれない学生たちにおどおどしながら、これに類した発言をしてしまうことがあります。

「わかる」とは、本来、その子どもの心の中で生じる出来事です。だから、第三者である先生は直接見ることはできないので、本人の内省報告を手がかりに、その子どもの心の中を推測しようとしているのです。でも、これだけでその推測が正しいと判断してしまう(=「ああ、わかってくれたんだな」)わけにはいきませんよね。そうです。いくつか問題を与えてみて、それらに子どもたちが正しく答えられるかどうかによって判断するやり方があります。どちらも、心理学の言葉で表せば、"「刺激」を与えてそれに対する「反応」から「心の中」を推測している"ことになりますが、後者の方が断然うまいやり方なのは言うまでもないでしょう。

それでは、ある人が「概念」を「わかっている」かどうかを判断するのは、どうすればいいでしょう? やっぱりある人に「刺激」を与えて得られた「反応」から「わかっている」かどうかを推測する、という点は同じなのです。では、どんな「刺激」にどんな「反応」をしたらそのように推測していいのでしょうか? ちょっと辞典で「概念」を引いてみましょう。

「…人間などの生活体は、外的環境との間の平衡状態を定立ないし再定立するために、入力された事物ないし事象の一群の刺激効果を、弁別可能にもかかわらず同一の反応と結びつけることがしばしばある。この際、生活体は、一群の事物・事象についてのカテゴリーを形成したと推定される。…」(『新・教育心理学辞典』金子書房 1979 p.69 より;傍点、白井)

これ以上引くと、以降の話におつきあいくださる読者が激減すると思われるのでここで止めておきますが、ヒントは傍点部分です。私流に翻訳すれば、「ひとまとまりの刺激たちを、それぞれ違うものだと区別できるんだけど、同じ仲間だとみなす反応をする」とでもなりましょうか。具体例を出しましょう。それがいい。

例えば、筆箱(なければ、鉛筆立て)から、「ボールペン」だとお考えになるものすべてを取り出してみてください……ほら、手の中にあるいくつかのものは、それぞれ違うものだ(太さ、色、フックの有無などからすれば)と区別できるけど、すべて同じ「ボールペン」ですよね。こういうことができる人を見ると、心理学者は、「この人はボールペンという概念がわかっているな」と推測するのです。……えっ、まだピンと来ない??

では、もう一例。東北福祉大学のある仙台の年中行事(?)のひとつに、 秋に行われる「芋煮会」なる行事があります。要は、芋煮鍋を囲んで一杯や るわけですが、この芋煮鍋には、大きく分けて「仙台芋煮」と「山形芋煮」 があるのです。仙台の河原で山形芋煮を作るグループもたくさんいます。 「仙台芋煮」「山形芋煮」とは、いったい何なんでしょうか??

混乱する前に下の表をみて下さい。簡単なことです。材料や味付けが、それぞれの鍋で決まっているのです。どんな芋煮かを決定する性質(心理学では「属性」と呼びます)には、「肉」「芋」から「根野菜」「だし」までといるいるありますが、そのうち「肉」「芋」「味付け」「コンニャク」という属性たちが、それぞれ(豚肉)(ジャガイモ)(味噌)(ちぎりコンニャク)と

		仙台芋煮	山形芋煮					
		(値)	(値)					
関連属性	肉	(豚肉)	(牛肉)					
	芋	(ジャガイモ)	(サトイモ)					
	味付け	(味噌)	(醤油)					
	コンニャク	(ちぎりコンニャク)	(玉コンニャク)					
無関連属性	キノコ	(マイタケ, シメジ…なんでもいい)						
	葉野菜	(シュンギク,ハクサイ…なんでもいい)						
	根野菜	(ダイコン, ニンジン…なんでもいい)						
	だし	(カツオ, コンブ…なんでもいい)						
		:						

表 1 仙台芋煮と山形芋煮の属性および値

^{*}白井が、独断と偏見に基づいて作りました。「仙台芋煮」でも隠し味に醤油を使うけど…というような問い合わせには一切応じられません。

いう特定の種類(心理学では、各属性の(「値」)と呼びます)の組み合わせになっているものを「仙台芋煮」と呼んでいるのです。ですから、目の前にある芋煮が、「仙台芋煮」かどうかを判断するには、これらの属性及び値を共通点として注目しなくてはいけないわけです。一方、表の下の方の属性は、判断の際にいわば無視する属性たちです。キノコや葉野菜がどんな種類であれ、「仙台芋煮」かどうかの判断には無関係です。

この表さえあれば、ご存知ない方も河原に行って、この鍋は、キノコのや葉野菜の種類が異なるといった多少の違いがあるけれどそれらは無視して、「仙台芋煮」の仲間だな、あれはちがうな、などと指摘できます。こうなれば、心理学者も「ああ、この人は「仙台芋煮」という概念をわかったな」と判断することになるわけです。

これらの例からおわかりいただきたいことは.

- (1) ある「概念」をわかるとは、「違うものだと区別できるものたちを、同じ仲間とみなす反応をする」ということから推測する。
- (2) ある「概念」をわかるとは、「共通点である属性たちに注目」し、同時に「それ以外の属性たちを無視する」という両方の心のはたらきが必要である。

ということです。はじめに挙げたボールペンだって、共通点であるペン先(ボール付)という属性・値に注目し(英語ではball-point pen=先端にボールが付いているペン)、太さだのフックだのといった属性たちは無視している、だからこそ、同じボールペンの仲間だってみなせる、ということは、もうおわかりいただけましたよね(あ、禁句だった)。

なんだか普段何気なくやっている判断を、えらく難しく説明してくれたもんだな、という感想を持たれた方もいらっしゃるかと思います。でも、(1)や(2)のような観点で人の行動を考えられるということは、非常に大切だと私は考えています。なぜ大切なのでしょうか?

最後の例。小さな子どもが、図1の(あ)の形を指さして「三角形だ!」と言ったことだけで、この子は「三角形」とは何かわかったと判断していいのでしょうか?



(1)と(2)からすれば、疑ってみる必要があります。例えば、(い)や(う)の形も「三角形」だと認めてくれるでしょうか? これら3つの形を「三角形」だと言えるには、そうです、何かに注目して、何かを無視しなければなりません。そうならなければ、「三角形」という概念を「わかった」ことにならないのです。一体何に注目して、何を無視するのでしょう??ぜひ、ご自分でお考え下さい。学んだことを実践しましょう! それが「わかる」ことへの第一歩です。

木 村 進

◆私と学習障害

私は現在、仙台市の「学習障害児等教育検討委員会」の委員であり、同時に「学習障害児等巡回相談事業」の相談員として、いくつかの小学校を訪問し、担任の先生の相談を受ける立場にある。また、大学の授業「障害児の心理」」では2時間ほどこの問題を取り上げているし、不定期ながら宮城教育大学でも半期この障害の理解と教育のための講義をもっている。

私は、30数年、障害をもつ幼児の育児と保育のスーパーバイザー/カウンセラーとして仕事をしてきている。「学習障害」という障害名は、カーク (Kirk,S.) が1963年に最初に命名したとされているが、日本においてこの障害名がよく知られるようになったのは、30年も後のことである。私は、大学院生の時代に、この障害についての文献を読んだ記憶はあるが、自分が扱っているケースの中に、学習障害の子どもがいるのではないかという意識はほとんどもたずに仕事をしてきている。その理由の第一は、後で述べるように、幼児期ではこの障害かどうかがはっきりしないからである。

「学習障害」あるいは「LD」という障害名がかなりポピュラーになってきた今日、この障害についてのきちんとした理解を促進し、またどのように指導したらいいかということについての考えを刺激するために、ここにキーワードとして取り上げることにした。

◆学習障害(LD)とは

2000年に文部省(当時)は「学習障害児に対する指導について」と題する最終報告書を発表し、その中で、学習障害を以下のように定義している。

学習障害とは、基本的に全般的な知的発達に遅れはないが、聞く、話 す、読む、書く、計算する又は推論する能力のうち特定のものの習得と 使用に著しい困難を示すさまざまな状態を指すものである。

学習障害は、その原因として、中枢神経系に何らかの機能障害がある と推定されるが、視覚障害、聴覚障害、知的障害、情緒障害などの障害 や、環境的な要因が直接原因となるものではない。

この定義は、アメリカで広く用いられているものを参考にしていると思われるが、この定義を理解するポイントは、次のように考えられる。

- (1) 「全般的な知的発達に遅れはない」としているところから、知的水準は正常範囲にあることを前提にしている。この「正常範囲」をどのように考えるかについては、いろいろ議論があるが、IQ70以上とする説が多いようである。完全に正常範囲ということで90以上を主張する研究者もいる。
- (2) 聞く・話す・読む・書く・計算するのすべてに困難さを示すのではなく、この中の特定のものの習得と使用が難しいということである。そういうことから、「個人内差」が著しく大きいと表現される場合もある。
- (3) このような困難さは、例えば目が見えないこと(視覚障害)によって も引き起こされる可能性があるが、他の障害によって引き起こされたと 推測される場合は、学習障害とは呼ばない。
- (4) 学習障害の原因は「中枢神経系の機能障害」を「推定される」とされているところから、育て方に問題があるとか、本人の努力不足とかが原因ではなくて、生まれつき、大脳の働きに軽い問題があって起こってくる障害であるということになる。また「推定」ということは、現在のところ、大脳を調べてみても決め手となるものが発見されていないということであり、後に述べるように、診断(判定)は、もっぱら症状から行われることになる。

以上のような解説を読んで、読者の皆さんは、この「学習障害」というものをイメージできるだろうか? 具体的な理解を促進するために、実際の子どもの姿の例をいくつか紹介しておこう。

■視覚による認知に困難がある場合■

・A君は、小学校3年生。算数では、計算はできるのだが、繰り上がりの 桁がずれてしまったりする。プリントに計算問題がたくさん並んでいる と、隣の問題のところに答を書いてしまう。物差しを使って長さを測るときには、cmとmmが混乱してしまったりする。

国語では、語彙は豊富であるが、漢字を書くのが苦手で、行をとばして読んでしまうことがある。行動面では、整理整頓ができない、迷子になりやすいなどの問題がみられる。手先の不器用さもある。

・WISC-Ⅲの検査では、動作性ⅠQが言語性ⅠQより低い。

■聴覚による認知に困難がある場合■

- ・Bさんは小学校4年生。授業中にぼーっとしていることが多く、担任の 言葉の指示がうまく伝わらないことがある。学級の話し合いについてい けない。的確な言葉が見つからず詰まったりする。文章の理解や作文に 困難を示す。九九が覚えられない。
- ・WISC-Ⅲの検査では、言語性ⅠQが動作性ⅠQより低い。

◆学習障害の診断(判定)

これまでの説明を読んできてお気づきのことと思うが、学習障害と診断 (判定) するのは、学習が本格的になってくる小学校の中学年の頃が多い。 つまり、国語の学習とか算数の学習とかの中で、常識では考えられないよう な間違いをすることから、「この子は、学習障害ではないか」(「LDサスペクト」という)と、担任の先生が気づくことが、診断(判定)への第一歩に なることが多いのである。言い換えれば、担任の先生に発見してもらえないと、例えば子どもの努力不足や不注意などと解釈されて、放置されてしまう ことにもなりかねないので、学習障害についての理解を促進しておく必要が ある。

学習障害の本格的な診断は、病院や専門機関に委ねる必要があるが、ここでは、教育現場における判定の仕方について説明しておく。まず、「**学習障害児の校内における実態把握基準」**(試案)として文部科学省が示しているのは、

- (1) 特異な学習困難があること: ①国語又は算数(数学)の基礎的学力に著しい遅れがある ②全般的な知的発達に遅れがない
- (2) 他の障害や環境的な要因が直接の原因ではないこと

である。(1)のためには、個別式知能検査の実施が必要である。校内において、以上のような情報収集を行い、「LDサスペクト」と判断された場合は、医師、心理学者、教師などで構成されている「専門家チーム」に相談して、専門的意見を聞くことになる。

◆「特殊教育」から「特別支援教育」へ

現実問題として、学習障害児の圧倒的多くは、通常学級に在籍している。 上記の判定や意見に基づいて個別指導計画(IEP)が立てられ、指導が開始されることになるが、私がやっている巡回相談は、そのような通常学級の担任に支援しようというものである。

障害をもつ子どもへの教育は、長い間「特殊教育」と呼ばれてきたが、文部科学省は省庁再編に際して、「特殊教育課」の名称を「特別支援教育課」に変更した。これからは、「特別支援教育」と呼ばれることになる。これは、「特別な教育的ニーズのある子」に対して適切な教育的援助を与えようとするものである。ここにおいて、これまで障害児と呼ばれてきた子どもたちはもとより、軽度の障害をもつ子どもたち、あるいは学習上の困難さをもつ子どもたちにも、その子にあった教育のあり方が検討され、実現されていく方向性が示されたと言えるのである。

●参考文献

平山 諭ほか編著 2003 『発達の臨床からみた心の教育相談』(発達心理 学の基礎と臨床3) ミネルヴァ書房

小松教之編集 1993 『障害児の心理』(新教育心理学体系 5) 中央法規 出版

佐藤俊人

人間の特徴を考える場合に、ほかの動物たちと比較しながら検討してゆくという方法があります。そのような比較の中で、思いもよらない発想が生まれてくることもあるのです。今回は、そのうちの一つを紹介したいと思います。

動物学者であるアドルフ・ポルトマンは、1944年スイスで『人間論の生物学的断章』を著し、日本語訳は1961年『人間はどこまで動物か』という題名で出版されました。この本は、人間の発達の特徴について面白い視点から述べられています。なんと、「ヒトの子どもは、全員早産である(生理的早産)」というのです。いったいどういうことなのでしょうか? まず、ほかの動物たちの子どもの出生の様子を考えてみましょう。

◆就巣性と離巣性

ポルトマンは、哺乳類を、その子どもの成長の様子から「就巣性(留巣性)」生物と「離巣性」生物という2つのカテゴリーに分類し、それぞれの特徴を指摘しました。動物には、たとえばネズミのように「生まれたときには未熟であり、自力で移動できるようになるまでにしばらく時間がかかる動物」と、たとえばウマのように「生まれた数時間の後には、親とともに歩ける動物」がいます。この違いが、①妊娠期間、②子どもがどれくらい成熟した状態で生まれてくるか、③一度に生まれる子どもの数、という3つの特徴の組み合わせによって分類されるというのです。

すなわち、**就巣性生物**とは、たとえばネズミのように「妊娠期間が短く、子どもは未熟な状態で生まれ(ゆえに、体型が親とはかなり違っており)、一度に生まれる子どもの数が多い」という一連の特徴をもつ生物のことです。イタチやリスなども例として挙げられます。反対に**離巣性生物**とは、ウマのように「妊娠期間が長く、子どもは成熟した状態で生まれ(ゆえに、体型は親と似ていて、比較的すぐに親と一緒に自力で移動できる)、一度に生

まれる子どもの数は少ない」という特徴をもつ生物のことです。ゾウやクジラ、キリンなども例として挙げられています。そして、実はサルも離巣性生物に分類されます。

つまり、サルは比較的妊娠期間が長く、生まれる子どもの数が $1 \sim 2$ 匹であり、「木から木へ飛び移る親のおなかに自力でしがみついている成熟した能力がある」ということです。

◆ヒトはどちら?

では一体、ヒトはどちらに分類されるのでしょうか? 妊娠期間と子どもの数については間違いなく離巣性と言えるでしょう。するとサルと同様、離巣性の生物のように思えます。しかし、生まれたばかりのヒトの赤ん坊は成熟していると言えるのでしょうか? ヒトが本当の意味で離巣性であれば「体型がおとなと同様で、ヒト特有の直立が可能であり、コミュニケーションの手段としてある程度の言語や身振り語をそなえているくらい成熟していなければならないはずだ」とポルトマンは述べています。すると、「ヒトは離巣性生物のくせに、未熟な状態で生まれてくる」といも考えられるわけです。

確かに、人間には離巣性生物のなごりとも思われる身体能力を持って生まれてきます。たとえば、生まれたばかりの赤ん坊は、自分の握力でぶら下がることができるし(把握反射)、体をたてにして足を床につけると、まるで歩くように左右の足を交互に動かしたり(歩行反射)、驚いたりしたときにまるで何かにしがみつくような腕の動かし方をしたり(モロー反射)します。きちんと眼を開けて外界を観察したり、親とコミュニケーションをとろうとしたりもします。しかし、本当の意味で歩行し、コミュニケーションできるようになるには、生まれてから一年くらいはかかることになります。

つまり、「人間は生後一歳になって、真の(離巣性の)哺乳類が生まれた時に実現している発育状態に、やっとたどりつく。そうだとすると、この人間がほんとうの(離巣性の)哺乳類なみに発達するには、われわれ人間の妊娠期間が現在よりもおよそ一力年のばされて、約21カ月になるはずだろう(ポルトマン)」ということになるのです。そして早く生まれてしまった時期(子宮外の胎児期)には、本当の胎児がみせる胎内での発育スピードを維持

するかのように急激な発育をとげることも、この考えの根拠の一つになって います。

◆だから「生理的早産」

もしも人間の妊娠期間が21カ月くらいであったなら……子どもは生まれたとたんに二本足で立ち上がり、コミュニケーションにも困らない状態で生まれてくるかもしれません。それが離巣性生物としての本来の姿と考えたのでしょう。しかし、現実には9カ月ほどで生まれてきます。だとすれば、ヒトは全員生まれてくるのが早すぎる、つまり「早産である」ということになります。このようにあたりまえになってしまった、ヒトの誕生における早産のことを、ポルトマンは「生理的早産」と表現しています。このようなポルトマンの考えには、確かに多くの疑問も指摘されています。例えば、そもそも就巣性と離巣性という2分割で考えて良いのかという疑問もあります。また、ヒトの新生児も外見ほど能力のない状態で生まれてくるのではなく、かなり高度な運動や感覚の能力を有するということも近年明らかになっており、ヒトの子どもが本当に未熟な状態で生まれてくると考えていいのか、という疑問も出てくるのです。

◆だから子育ては面白い!?

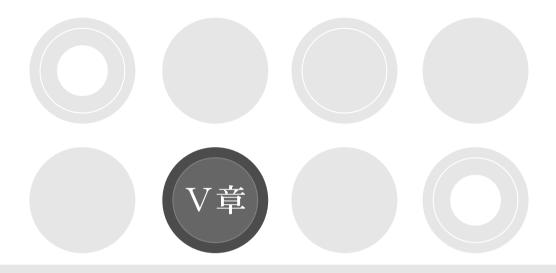
しかし、それでもヒトの親子関係について多くのことを考えさせてくれると思います。本当はおなかの中にいてもよかったはずの時期に外界に生活することになったら……? 本来なら受けなくてもよいようなさまざまな刺激を、周囲(環境)から受けなければなりません。いや、「刺激をうけることができる」と表現したほうがいいでしょう! そして、どのような刺激を周囲が準備してあげるか、が重要だということもわかっていただけるのではないでしょうか。 この時期、子どもとどうつきあうか? これは大きな課題です。今後、多くの学問に触れながら、子育てについてご自分の価値観を持っていただけたらと思います。一つ言えることは、ある程度未熟な状態で生まれてくるからこそ、子どもはあらゆる可能性を持ったすばらしい存在であり、外界からの刺激を積極的に受け、そして学ぶことによって発達してい

くということです。子どもの発達に影響を与える豊かな文化をどう創ってい くのか、それが課題のような気がします。

なお、動物の行動については興味深い研究がたくさんなされています。温かみと安心感という視点から、アカゲザルを使って針金製と布製の母親を比較したハーローの実験、動物の本能について、離巣性の鳥類にみられる「刷り込み」という現象を紹介したコンラート・ローレンツの研究、また、タンザニアの森でチンパンジーの生態を長年にわたって続けているジェーン・グドールの報告など、どれも興味深いものばかりです。日本ではチンパンジーのアイちゃんも見逃せないところですので、興味のある方は情報を集めてみてはいかがでしょうか。人間のあり方についても思わぬ発見があるかもしれません。

●引用文献

アドルフ・ポルトマン著 高木正孝訳 1961 『人間はどこまで動物か』 岩波新書



レポートを書こう



レポートを添削して

心理学概論 レポート解答例

心理学概論 レポートを書こう(1・2・3単位め)

レポートを添削して

木 村 進

私の担当のレポートは、「生涯発達心理学」「障害児の心理」および「心理学研究法 I・II」(の一部)ですが、たぶん「再提出」が多い教員(の I人?)として悪名が知れ渡っていることと思います。再提出の分は再び読まなければならないわけですから、私としても採点を甘くしようかという思いがないわけでもないのですが、通信教育生の勉強に対する熱意に応えるためには、できるだけ中身の濃いレポートにしてもらえるよう指導することが努めだと思っているのだということをご了承ください。

◆レポートは学習成果をアピールするもの

通学生にもレポートを課していますが、通信教育の場合のレポートは、通学生の場合とは異なると思われます。通学生の場合は、講義を受けることの補助的なものとして位置づけられますが、通信教育生の場合は、自分がどれだけ勉強したかをアピールするものという意味があります。つまりレポートを通して「こんなに勉強したぞ(文句あるか)」と私に対して誇示するものなのです。そのアピールが十分に伝われば「合格」ということになります。だから、課題にそってきれいにまとめればいいというものではなく、処々に勉強の跡がわかるような内容であることが望ましいと思われます。

◆勉強とは何か?

どの科目にもテキストがあります。多くの市販のテキストは講義の補助材料として使われるように書かれていますので、テキストを読んだだけではよくわからない点も多いかと思われますが、勉強の第一は、テキストを隅から隅まで読むことだろうと思います。レポート課題に関係のありそうなところだけを読むのではなく、全部です。

第二は、その中でわからない部分やもっと知りたいと思う部分について

は、調べるという作業です。参考文献として配布されている書籍はもちろん、必要なら図書館で関連する文献を探すということも必要でしょうし、インターネットで情報を得るということも効果的かもしれません。

そして第三は、それら理解したことを総動員してレポート課題に取り組む ということです。

◆レポート課題への取り組み

『学習の手引き』にも書いたことですが、要点だけを再びまとめておきます。レポートに取り組む際に最初にしなければならないことは、「テーマ分析」です。これは、その課題が何を求めているか、ということをしっかり理解するということを意味します。どの課題にも「解説」がついており、その中にかなり親切に説明されているはずですから、さほど難しい作業ではないはずです。しかし、この段階でつまずいているものも珍しくはありません。テーマについてしっかり把握できたら、それまでの学習成果を整理して、何を書くかについて検討することが第二段階です。この段階では、細かい具体的な内容までは検討せずに、「見出し」程度の検討の方が良いと思います。そして、第三段階で、教科書やノートを参考にしながら、具体的に何を書くかを考えていきます。

ここまで来ればあとは書くだけということになりますが、あと2つほど検討しておかなければならないことがあります。その一つは、書く内容の組み立てです。つまり、それぞれの内容をどの順序で書いたらまとまりのよいレポートになるかの検討です。もう一つは、字数に制限があるわけですから、それぞれの内容をどれくらいの字数におさめるかということも考えておかなければなりません。最初の内容に多くをとりすぎて、後ろの方の内容が不十分になっているレポートも少なくありません。

◆上手なレポートの書き方

基本的には、レポートにもそれぞれ個性があってよいと思いますが、読ませるものという視点から考えると、共通に満たしておくことが望ましい条件がいくつかあります。以下に基本となる6点をあげておきます。

(1) いくつかの部分に分けて「小見出し」をつけて書く

これについては、添削においてかなり多くの人に指導しました。小見出しをつけるということは、第一に読みやすさに効果的ということですが、それ以上に、課題を考える時にポイントをはずさずに考えられること、また、レポート全体としてまとまった印象を形成することというメリットがあります。ぜひ、こういう癖をつけてください。

(2) 引用なのか、自分の考えなのかがわかるような書き方を

学習成果を示すためには、その課題について、文献ではどのように論 じられているかをレポートするというのが基本です。しかし同時に、自 分なりのまとめや考えを書く必要も出てきます。読んでみてそれがわか るような書き方が望ましいのです。煩雑でも「テキストでは」とか 「(人名) によると」とかの書き方をする必要があります。

(3) 参考文献・引用文献を明記すること

いうまでもありませんが、どれだけの文献を参考にしてレポートを書いたかということは、学習成果をアピールする上で重要なポイントです。時々忘れている人がいますが、お忘れなく。

(4) できたら「まとめ」をつけ加えること

字数の関係もありますから、どうしても必要というほどのことではないのですが、書ける余地があれば、学習した結果としての「まとめ」を 最後につけ加えるとレポートがしまります。

- (5) 「です・ます」調ではなく、「である」調で書くこと
- (6) 段落では最初の一文字を空けること

◆個性的なレポートを

課題が決まっているのですから、ここでいう個性とは内容のことではありません。レポートに対する取り組みの個性です。文章を書くのが得意な人もいれば不得意な人もいるはずですが、不得意な人が推敲を重ねればよいレポートになる可能性があります。そういう意味で、自分なりのやり方で自分のペースで仕上げたのが個性的なレポートであり、それがその人の学習スタイルであるということになります。もしかしたら、何度も再提出というのも、その人の個性なのかもしれませんね。

心理学概論 レポート解答例

「心理学概論」前担当の佐藤俊昭先生より、このために新たに出していただいたレポート課題にもとづいて作成した解答例です。佐藤先生からのコメントがレポート末にありますので、ご参照ください。同じ課題に対してまったく別の解答がありうることを念頭において、あくまでもひとつの参考としてご覧ください。

◆レポート課題(見本用)

忘れようと思っても簡単には忘れられないことがある一方、必要なことを うっかり忘れてしまうこともあるのはなぜか。具体例をあげながらわかりや すく論じよ。

◆解答例

恋人に別れを告げられた、自分の不注意が原因でわが子を死なせてしまったなどのつらい経験は、「『自我』を非常な不安にさらす結果になるので」(教科書p.22)、意識にのぼってこないように「抑圧」してしまった方が得策なはずである。しかし、よほどのつらい経験でない限り、なかなか忘れられるものではない。このような例をもとに、忘れられないことがある人間の心を、「何が記憶に残るのか」という点から論じてみたい。

まず、感情をゆさぶる刺激や経験は記憶に残る。また、興味や関心があること、自分にとって意味のあることは覚えている。上記のような経験は、強い感情的ショックを受けるため、なかなか忘れられないことになる。

さらに、日常的ではない珍しい刺激や経験は「新奇性刺激」とよばれ、注意が向けられやすいため、記憶に残る。好きな人との最初のデートでの会話は覚えているが、毎日顔を合わせている夫婦の間の会話は忘れられやすいのはそのためである。

次に、「繰り返し」意識にのぼることは記憶を定着させる。つらい経験を忘れようと思うこと自体も、そのことを繰り返し意識に引

き出すことになるので、ますます忘れられなくなる。このような心の働きを心理学用語では「リハーサル(復唱)」と呼んでいる。
さらに、人間の頭の中での「処理水準の深さ」が記憶を促進するという研究もクレイクとロックハートによってなされている1)。例えば、新しい知識を覚える場合、その知識をただ機械的に頭の中で繰り返す「維持リハーサル」を何度もするより、その知識を自分がすでに持ち合わせている経験や知識と関連させて覚える「精緻化リハーサル」を行う方が効果的という考えである。冒頭の例では、なぜ恋人にふられたのだろうと理由をあれこれ考えることは精緻化リハーサルを行ったことになる。

また、人間の行動はすべて適応的であるという進化論的な考えをスクーリングの際に佐藤教授から伺ったが、その考え方を応用すれば、生存のために必要な情報は覚えているが、必要ない情報は忘れてしまうということもいえる。恋人や肉親がその時点では自分の生存にとって重要であったので強く記憶され、現時点では生存に必要のない人のことでも忘れない、あるいは推測だが、失恋や喪失の経験も失敗の例として記憶しておいた方が今後何かの際に必要だという理由で忘れないのかもしれない。

以上のような5つの点から忘れようと思っても簡単に忘れられないことが起きることがわかった。

次に、忘れては困ることを忘れる場合について考えてみよう。人との約束をうっかり忘れてしまうという経験は誰にでもあるだろうさまざまな情報が飛び込んでくる現代社会にあっては、一期一会かもしれないかけがえのない人との約束も、感情をゆさぶる経験ではなく、意味をもてるとは限らない日常的・惰性的なものが多く、そのために忘れてしまうことがあるのだろうか。

忘却のメカニズムとして、教科書 p. 268~272 の記述によれば、短期記憶から長期記憶に入ったことがらは、①「単なる時間の経過でもある程度まで薄れるが、その後一定にとどまる」(「記憶痕跡の崩壊」2 あるいは「減衰」)、そして②「なにか他の事柄を覚えるというようなことにより、さらに薄れる」(干渉)ことになる。

また、思い出せないことのもう一つの理由として、「検索失敗説」がある²⁾。「検索」(あるいは想起)とは必要な事柄を長期記憶などの貯蔵庫からの呼び出してくる働きであり、手がかりがあれば思い出しやすい。

さらに、あまりに忙しい時などにした約束は、そもそも「短期記憶」から「長期記憶」に転送(記銘)することができないために覚えていないこともある。

以上、さまざまな記憶と忘却のメカニズムを述べたが、ひとつの原則で忘れる理由・忘れない理由を説明することは難しい。人間のこころの働きを説明する際に 100%真理の法則はないのだろうから95%程度あてはまるという確率論的な考え方、あるいはこの場合にはAという原則があてはまるが別の場合にはBで説明できるという場合分け的な考え方を行う必要があるように感じた。

引用 · 参考文献

- 1)子安増生ほか著 『教育心理学(ベーシック現代心理学 6)』 有斐閣、1992年
 - 2)金城辰夫編 『図説 現代心理学入門(改訂版)』培風館、1996年

教科書の『心理学概論』(私立大学通信教育協会編、1979年)、 その他の心理学の本も参考にした。

◆コメント 担当教員 佐藤俊昭教授

心理学の「学」を日常的体験の説明に、このように適切に結びつけて下さると、「学」が生きてきます。その点で、このレポートは「よい」レポートの見本です。文献の挙げかたも適切です。

気がついた点を述べましょう。第1に、記憶には、「記銘」と「保持」と「再生」の3段階がありますので、「忘れる」のが、どの段階で起きている「忘却」なのか、「忘れられない」のが、どの段階のことなのかを整理しておいてください。失恋の痛手が忘れられないのは、情動の働きによって、繰り返し「再生」されるからです。だから、情動がおさまれば、記憶としてはしっかり残っていても、ひとりでに再生される頻度は少なくなります。時間がかかりますが、やがて、思い出しても苦しくはなくなります。忘れたければ、情動を静める方法を工夫するのが上手なやり方です。第2に、心の法則も100%当てはまるのですが、当てはまらないところでは、別の法則が働いているのだと、理解してください。

心理学概論 レポートを書こう(1単位め)

ここでは、「心理学概論」の 1 単位め課題を題材にして、通信教育部職員がレポートを書くつもりになって、どんな順番で勉強したか、その際考えたことなどを記してみます。学習法は人それぞれですが、ひとつの参考になれば幸いです。

『レポート課題集($1 \cdot 2$ 年次)』「心理学概論」のページ,および心理学概論の教科書『図説 現代心理学入門』(培風館)をお手元においてお読みください。なお、教科書のページ数は下記のとおりです。

改訂版:『図説 現代心理学入門(改訂版)』 平成15~17年度履修登録者の教科 書のページ数

三訂版: 『図説 現代心理学入門 (三訂版)』 平成18年度以降履修登録者の教科 書のページ数

(手順1)『レポート課題集』を読む1:レポート課題を頭に入れる

「心理学概論」のページをひらきます。] 単位めの課題は「心の世界は,意識される世界のほかに意識されない世界を含むことを具体的にわかりやすく説明しなさい」とあります。



「意識されない世界を含む」なので、何となく「無意識がある」ことを説明すればいいんだな、と感じました。また、「具体的にわかりやすく」なので、具体例をあげるなどしなければいけないのだなと思いました。

(手順2)『レポート課題集』を読む2:「科目の内容」「アドバイス」を読む

『レポート課題集』の1単位めアドバイスを読んでみます。「心理学は「心」の学であるが、初期の頃は、「心」イコール「意識」であると考えられた。……ヴントの考え方がその典型であったが、やがて、心の世界は意識される世界だけではないという認識に到達した。そのきっかけとなったのが、フロイトの精神分析である」。



やっぱりフロイトや無意識のことを書けばよさそうだな、と思いました。教科書で「フロイト」とか「無意識」が載っているページをさがせばよいや!

「その基本となる考え方は、心の動きは意識下の動機や無意識の記憶に左右されるということである」ということなので、意識できない動機や忘れてしまった記憶が心の動きに影響を与える例ってあるだろうか、と考えてみます。そもそも「心の動き」って何? ある人を好きになったり嫌いになったりすることを自分で説明できる? 話が合ったから? 話が合う人は他にいるのになぜ? それに話をしてもいないのに好きになることも若いときはあったね。かわいいから? かわいい人は他にいるのになぜその人? 自分をわかってくれそうだから? 自分を傷つけないから? やさしくしてくれるから? お母さん(お父さん)に似て

いる? 前好きだった人に似ている?……。

 $\stackrel{\wedge}{\boxtimes}$

p.127 2 段落め 「心を「働き」と「内容」に分けると、「働き」は意識されないのが普通である」と書いてあります。



意識されない世界に「心の働き」というものもあるんですね。「心の働き」って何だろう? p. 126「科目の内容」には次のような文章が書いてあるけどよく意味がわからない!

――心の「働き」とは、たとえば「見る」「考える」などで、心の「内容」とは、その結果できあがったイメージや知識などである。

(手順3) 教科書を読む1:目次や索引でキーワードがどこにあるか調べる

『図説 現代心理学入門』は本の終わりに「索引」が付いているので、まずこれを引いてみます。「索引」がある本は便利ですね。



- ・フロイト (Freud,S.) 綴りがわからないとひけないので少し苦労。 改訂版 p. 4, 26, 46 三訂版 p. 4, 36, 60
- ・無意識 改訂版 p. 1, 18, 26, 46, 172 三訂版 p. 36 意識 はあるかな? あった。
- ・意識 改訂版 p. 1, 2, 26, 94, 160, 172 三訂版 p. 1, 2, 36, 190 ※三訂版 p. 190は p. 192の誤植と思われます。

あがったページで「意識」「無意識」をさがしながら順番に読んでいくことにします。そして、具体例を考えていくようにしました。

(手順4)教科書を読む2:改訂版・三訂版ともp.1,2,4を読む

p. 1 2段落め 「では、心とは何かということになる。……私の心は、何かを感じたり、想像したり、考えたりするし、何かを欲したり、意思したりするし、ときには動揺したりもする。こうしたことを、われわれは誰でもある程度意識することができる」



なるほど。心とか意識とかは、好き嫌いのような感情だけでなく、感じること や考えることもあるんだな。結局は「頭に浮かんだこと」すべてが意識なのかな。空が青く見える。雲が浮かんでいる。晩御飯のおかずは何にしよう。このし ごといつ終わるのかな。昨日上司にこんなこと言われたな、嫌だな。

何だか『徒然草』みたい。「心に移り行くよしなしごと〔つまらぬ事〕」を「そこはかとなく〔とりとめもなく〕書きつくれば」意識のことはわかるのかな。

教科書にも「個人的に自分の意識を調べれば、……心を知ることができるようになるであろう」と書いてあるし(ヴントの考え方?)。

 $\stackrel{\wedge}{\square}$

p. 1 3段落め 「しかしながら、やがて、自分のある<意識>を別の意識をもちながら分析すること自体がたいへんな困難」……

T

ちょっと哲学的なので飛ばしてみます。

 $\stackrel{\wedge}{\sim}$

p. 1 3段落めつづき 「すなわち、何かを感じる、考えるというときに、意識に現れうるのは、感じ・考えた何かのことであって、そこにいたるまでのく心の過程>の方は意識されず、無意識的なのである。……どのようなわけでそれをしたくなったのかのく心のはたらき>の方は無意識的なのである」。



アドバイスにも書いてありました。意識されない世界に、<心の過程>と<心のはたらき>があるという説明です。<心の過程>って何? 過程ってプロセスのこと。感じるプロセス、考えるプロセス……たしかに、皮膚をつねられると痛いと感じるけど神経のどこをどう伝わって、頭で(心で)痛いと感じるかのプロセスは見えないから意識できないということ? 目でものが見えるのもそう。考えつくことも、突然あることが思いつくことも多いけど、どこからその考えが浮かんできたのかは、確かによくわからない。そういうのが、「意識されない世界」っていうことでしょうか?

<心のはたらき>も、甘いものが食べたいとか、眠いとか、なぜそうしたくなるのかを考えてみると、意外に説明できないっていうこと? 確かに食べることや寝ることを忘れて集中していることもあるし、逆に夜中に家にないからコンビニ行って買ってでも甘いものが食べたいということもあるけど、がまんできたりできなかったり、それがどういう違いからくるのかは、説明できないかもしれないな。

☆

 $p. 1 \sim 2$ 意識ということばをさがして読んでみますが、他にはピンとくるところがありませんでした。ただ、p. 2 に<心的過程>と<心的機能>とありますが、機能=はたらきだから、<心の過程>と<心のはたらき>と同じことだと思います。また、 $p. 1 \sim 2$ は、心理学がどんなことを明らかにしようと研究されているのか、その基本的な考え方がわかるページでしたので、じっくり読んでみることをお奨めします。

 $\stackrel{\wedge}{\bowtie}$

p. 4 フロイト 『夢の解釈』もした人なんですね。夢は思い浮かんだことだから意識なのかな、それが無意識の内容をあらわしていると考えるのだっけ。

샀

改訂版 p. 18 (三訂版は目次にはないけど p. 114) を読んでみると、恐怖を感じたときにとっさに逃げるのは無意識的という説明があります。目の前にげんこつが来たら、とっさに目をつぶったり、よけたり、手で払いのけようとしたり、そういう瞬間の判断(行動)は考えないで行っているので、「意識できない世界」がある具体例だとあげることはできると思います。

これは「心の世界」のことなのかなと、考えてしまいます。でも、p. 3の図 0 - 1 によれば、行動は心が反映されたものという考え方を心理学はするようです。 だから、「意識されない世界を含む」ことを説明するのに、「意識されない世界」が「意識」にあらわれ出てきたりすることを具体

的に示せるとよいのかなと思いました。

(手順5) 教科書を読む3:改訂版p.26・三訂版p.36を読む

結論から言うと、この改訂版 p. $26\sim27$ ・三訂版 p. $36\sim37$ の 2 ページだけをまとめてもレポートは書けるのではないかと思います。社会福祉学科で卒業のために「心理学概論」のレポートを書かなければいけないという人、時間のない人はここをうまくまとめてみましょう。

 $\frac{1}{2}$

(2) フロイトのパーソナリティ理論 の見出しの次,「われわれは固く口止めされていたことを、無意識のうちに人に口を滑らせてしまったとか……これは自分が意識していない,「何ものかの力」によって生じた行動である、ということを意味している」とあります。



具体例があがっていますね。同じ例はまずいでしょうから、何か似たような具体例思いつきませんか。

あとから紹介する『心理学がわかる事典』(南博編著)という本の p. 241でも「無意味な間違いは心の本音」「無意識が一時的に行動をゆがめさせるときがあります。それが、言い間違い、書き間違い、読み間違い、ど忘れなどです」とあり、開会を閉会といいまちがえた議長の話などの具体例がのっています。まあそうかなとかも思いますが、「ものを置き忘れたりすることは、その場所に対してもう一度訪問したいという無意識的願望の現われ」というような記述には、本当にそうなの?、ただ早く帰りたくて、他のことに気をとられていて、忘れものに気づかなかっただけではないか、と少し批判したくなります。

 $\stackrel{\wedge}{\bowtie}$

(2)**内の2段落め** 「フロイト……は、……人間の心は、<意識>、<前意識>、 <無意識>の3層からなると考えたのである(図2-2、表2-1)」



ここの文章はレポートに使えますね。そして、図 2-2 の意識とは「いま気がついている心の部分」、前意識とは「いま気がついていないが、努力によって意識化できる心の部分」、無意識とは「抑圧されていて、意識化できにくい心の部分」という説明も、是非レポートに取り入れたいと思いました。

 $\stackrel{\wedge}{\sim}$

次の文章 「無意識の領域には<本能的衝動(生得的な心的エネルギー)>や 意識化されると都合の悪い記憶、動機、観念などが抑圧されている」



すこし難しいですが、ここも「意識されない世界」には何が入っているかのフロイトの考えのようで、レポートに使えますね。

はじめの、本能的衝動(生得的な心的エネルギー)とは、そのあとの〈エス〉で書かれている「食欲や性欲などの欲求や、攻撃性などの衝動の満足を求めて活動」とある心の動きですね。欲求はふつう意識できると思いますが、その欲求がどこからわいて〈るのかとかは意識できないということでしょうか。また、たとえばイライラするときは何かの欲求が満足されていなかったり、逆に快調なとき

はいろんな欲求が満足されていたり、ということも言えるでしょうが、それが 「意識されない世界」のせいなのかな。

2つめの「意識化されると都合の悪い記憶,動機,観念などが抑圧」というのは、最近よく話題に出る児童虐待をうけて多重人格になった人などが極端な例なのでしょう。イヤなことやよくない考えは忘れてしまうけど、忘れたことも心の奥には残っていて、私たちの行動や意識に影響を与えるということですね。

もっと考えると、抑圧しなくても、どんな経験でも、どんな考えでも、心の奥底のどっかには残っていて、それが行動に影響を与えているかもしれないですね。異性に積極的に近づいていく行動をとるかそうでないか、ということや、ギャンブル的な行動が好きかどうかなどを題材に、過去の経験の影響が残っているかどうか考えてみたくなりました。

なお,他の本を読むと,フロイトは「無意識」をよくないものと考えていて,何でもかんでも「無意識」に入っていくという考えはユング的なようです。

(手順6)辞典でキーワードを調べてみよう!

教科書読むのも疲れてきたので、ここで『心理学辞典』(有斐閣) と『誠信 心理学辞典』(誠信書房)で「意識」「前意識」「無意識」をひいてみました。



「意識」にはいろいろな意味があることが書かれていますが、「気づいていること、知っていることのように内容を意味することもあり」(誠信書房版)とあるので、『徒然草』流「心に移り行くよしなしごと」という考えでもあながちまちがいじゃないんだな、と思いました。

「前意識」には「思い出そうと注意を向ければ思い出せるもので、いつでも意識のなかに入り込めるもの」(有斐閣版)とありました。教科書の図2-2だと、次に意識に出てくるネクストバッターズサークルにいるのが「前意識」かなとイメージしていましたが、もっと幅広いものですね。逆に、「無意識」はどんなに意識に出そうと思っても出てこない奥底のものと言えるのでしょうか。

(手順7) 教科書を読む4:改訂版p.26・三訂版p.36を読む(つづき)

教科書に戻ります。いまひいた辞典(誠信書房版)にも書かれていましたが、フロイトが「意識」「前意識」「無意識」と言ったのは最初だけで、研究を進めるにつれて、「エス」「超自我」「自我」の3つに分けて考えたと述べられています。主に「エス」「超自我」の部分が「意識されない世界」にあたることが表2-1からわかります。



「エス」「超自我」も具体例を考えてレポートに書けますね。新生児は「エスの 固まり」「幼少期の両親のしつけ……を取り入れて形成された,道徳性や良心」が「超自我」という表現もあるので,子どもの行動から具体例を考えてみたいと思いました。

「エス」の「自我や超自我にエネルギーを供給する機能をもつ心的エネルギーの 貯蔵庫」という説明や図2-3はよくわからないけど、その次の「食欲や性欲」 「即時的満足を得ようとする<快感原則>」や表2-2などでイメージがわいてき ませんか。心理学の場合、図表もよく見てみるとよいです。

なお、このフロイトの考え方が変わっていったことは、臨床心理の分野では大切なことのようで、『壊れた心をどう治すか』(和田秀樹著 PHP新書225)の第1章で非常にわかりやすく説明されていました。

 $\stackrel{\wedge}{\boxtimes}$

次に見出しの(3) ユングのパーソナリティ理論を読んでいきます。「ユングの特徴は、無意識層を<個人的無意識層>や<普遍的無意識層>に分けて考えることにある」。



このことはさきほどの 2 つの辞典両方に書かれていたので、大事なのでしょう。また、普遍的無意識は集合的無意識とも言われているようですね。

ユングは、ご存知の方も多いと思いますが、一般的な心理学者からは科学的ではないとして敬遠される場合もあります。でも、いろいろな本が出ていますし、「元型」など調べてみたくなりますよね。おおまかに全体を知りたい場合は『無意識の構造』(河合隼雄著・中公新書481)がよいようです。

全人類に共通の「普遍的無意識」があるのかについては、「本当かな?」と思ってしまいます。また、教科書を読んだだけでは「自我」と「自己」の使い分けもよく理解できませんが、ユングのことも多少はレポートに書いておいた方がいいでしょうか。

(手順8) 教科書の残り部分をいろいろ読む

改訂版 p. 43 表 2 - 16 三訂版 p. 55 表 2 - 17の「防衛機制」は、「意識されない世界」が意識や行動に影響を及ぼす例を考えるには絶好です。

改訂版 p. 46 三訂版 p. 60 精神分析療法の説明に「意識・無意識」が出てきます。改訂版の記述「<抵抗>は、自由連想がとだえて沈黙したり、ある話題を避けたり、約束の時間に遅れてくるなどの現象をいう。抵抗が生ずるのは、思い出すことが苦痛な不都合なことが抑圧され、防衛されているためで、抵抗を分析することで無意識の意識化を図ることになる」は、「意識されない世界を含む」具体例を考えるよいヒントになるでしょう。

なお、三訂版では「抵抗」という用語のみが出てきて、説明がありません。各種の心理学の教科書では、これまで心理学の研究で積み重ねられたいろいろな説が少しずつ細切れに紹介されているので、ひとつひとつの説明が短くてよくわからないということがあるようです。辞書で調べたり、他の本を読んだりしたほうがより理解が深まるのは、そのためもあると思います。

改訂版 p. 172 三訂版 p. 192 図 7 - 31 見出し 7 · 6 · 3 「左右大脳半球と意識・無意識」 ここはちょっと難しいですね。左脳=言語=意識,右脳=イメージ=無意識といった単純な話しではないようですし。

(手順9)参考文献をさがす・読む

教科書が読み終わりました。さて、次は参考文献をさがします。インターネッ

トで「本をさがす」のページ(http://www.books.or.jp/)やアマゾンのページで「意識 無意識」とひいてもたくさんの本が出てきます。そこから心理学の本をさがすのも一苦労ですし、自分のレベルにあった本を選ぶのも大変といえば大変(楽しいといえば楽しい)。以下は、レポートに参考になりそうなお奨め本です(初版発行年がやや古めなのは古本屋さんで買ったせいですが、下記の3冊はいまでも本屋さんに注文すれば買えます)。

南博編著 『心理学がわかる事典』日本実業出版社、1994年 この手の一般向けにわかりやすく心理学を解説した本も一冊はもっておくと、いろんなレポートに使えるかもしれません。

瀬名秀明監修 『「神」に迫るサイエンス』角川書店,1998年(角川文庫,2000年) 仙台在住の小説家・瀬名秀明氏の小説『BRAIN VALLEY』の解説本ですが,「神経伝達物質のセロトニン系が幸福感や愛情にかかわる」という脳科学的な記述がく心の過程>のひとつとして参考になりました。

下條信輔 『サブリミナル・マインド』中公新書,1996年 「人は自分で考えているほど、自分の心の動きをわかっていない。人はしばしば自覚がないままに意志決定をし、自分のとった行動の本当の理由には気づかないでいる」という新書の紹介文がありますが、「意識されない世界を含むこと」の例がたくさんあります。

その他,「意識・無意識」は心理学の一大テーマのようで,心理学の本を開けば あちこちに出てきます。参考図書をさがすのに苦労はしないと思います。

(手順10) レポートに何を書くか考える

- ・フロイトの「意識・前意識・無意識」と「エス・超自我・自我」
- ・ユングの「個人的無意識・普遍的無意識」
- ・<心の過程>と<心のはたらき>
- ・サブリミナル知覚に関すること

などが、「意識されない世界」としてあげられると思いました。

よって、書き出し(序論)は、次の文章から始めてみたいと思いました。

「心の世界に意識されない世界が含まれることを、4つの視点から述べてみたい。

ひとつめがフロイトのあげた「意識・前意識・無意識」のうち、「前意識・無意識」が意識されない世界ということである。フロイトによれば、意識とは……, 前意識とは……と説明される。………」

レポートにはただひとつの正解があるわけではなにので、上記はあくまで一例です。ひとりよがりな文章で読みにくかったかもしれませんが、レポートを書く方がひとりでも増えることを願っています。 (通信教育事務部 古藤隆浩)

心理学概論 レポートを書こう(2単位め)

ここでは、「心理学概論」の2単位め課題を題材にして、レポートを書く際の「考え方・ポイント」のようなものを紹介できればと思います。

2単位め課題は「動物の心と人間の心の違いについて考えてみなさい」です。



専門用語が入っている課題ならば、その専門用語の意味・定義を述べるところから始めればよいのに、この課題はちょっと面食らうかもしれません。

自分なりに何か違いを考えてみようとしたときに、まずペットのことを思い浮かべる人も多いのではないでしょうか。飼い主が帰ってくると喜んでしっぽをふる犬、金魚ならゆったりと泳いでいるだけ? でも金魚だってエサには大喜び?犬には心はあるけど金魚にもある? ……考える材料として大変よいと思います。もちろん具体例としてレポートにとりあげるのもいいでしょう。

ポイント 1 自分の身のまわりのことでレポートの題材になるものをさがして みてください。

しかし、大学のレポートは感想文や日記やエッセイとは違いますから、やはり アドバイスや教科書は読んで、その学問がどういうふうにその課題をとらえよう としているかは勉強する必要があります。

「心の働きと心の世界をもっているのは人間だけだろうか。この点をよく考えてほしい」で始まる『レポート課題集』のアドバイス全体のトーンとしては「動物も人間も心はもっていて共通点も結構ある。だけど人間はことばを獲得したことで科学や芸術を生み出した反面,悩みが多く危険な戦いもしてしまうなど他の動物とはちょっと違う心をもっている?」という感じで書かれています。佐藤俊昭先生はこのように考えておられるのでしょう。

ポイント 2 まず『レポート課題集』のアドバイスを読んで、その課題をどういうふうにとらえたらよいか、何を書けばよいのかを考えてみよう。

細かい点までアドバイスを読んでみます。

「まず、知覚とか記憶などの心の働きが人間以外の動物にあることには異論はないであろう。意見が分かれるのは、第一に、感情、意思、思考、想像、言語などの働きがあるかという点である……」。



ここで「心の働き」を知覚、記憶、感情、意思、思考、想像、言語などに分けてみるという考え方にハッとさせられました。] 単位めのときに読んだ教科書 p.] にも「私の心は、何かを感じたり、想像したり、考えたりするし、何かを欲したり、意思したりするし、ときには動揺したりもする」とあります。

ここで「心って何?」と考えてみます。すると、心理学の教科書の章立てに出

てくるようなことを「心」が行っているのではないかと考えました。

心=感覚,知覚,認知,記憶,想像・イメージ,学習(する心),言語(を操る心),思考,感情・欲求,動機づけ、意思、自己意識・反省、心の世界……。

ポイント 3 「心」のような当たり前の言葉でも、どういう意味なのか一度考えてみるのもよいかもしれない。

さらに考えると、動物にもいろいるいます。人間に近いチンパンジー、サル、 犬、猫、……イルカ、クジラ(哺乳類)から鳥類(カラス、ハト……)、昆虫(ミ ツバチ、アリ)、貝、なめくじ、くらげ、そしてアメーバーなどの単細胞生物まで 多種多様。人間だって、大人と1歳児ではかなり違います。

とてつもなく大きな課題であることが見えてきました。

以下のような表をつくるとよくわかりますが、「動物の心と人間の心」といったって、「記憶」のことをヒトとハトで比較するのか、「感情」のことをヒトとなめくじ(なめくじも甘いものが"好き"で塩辛いものが"嫌い"なようですから)で比較するのかなど、いろいろなテーマがあります。無限の組合せがあって、ひとつひとつ書いていったらとても2000字ではおさまりません。

でも、このような表をつくって、いま勉強したり書いたりしているのはどの部分なのかを整理しておくと、議論が混乱しなくてよいのかなと思います。

ポイント 4 大きな課題では、小さいテーマに分けて考えていくとよいことが 多いです。

ポイント 5 小さいテーマに分けて論じた場合に、最初のレポート課題も見失わないようにしよう。

心種	感覚記憶学習	言語	思考	感情心の世界 欲求
ヒト・大人				
ヒト・1歳児				
チンパンジー				
:				
イヌ				
:				
カラス				
:				
ミツバチ				
ナメクジ				
:				
アメーバー				

では、書くべき内容の素材集めです。残念ながら、この課題では 1 単位めで使えた教科書の「索引」に「心」はありますが「動物」や「動物の心」はなくて役立ちません。目次も使えません。なので、教科書をめくっていって、とにかく動物のことが書いてあるところをさがしていきました。

(1) **三訂版 p. 74 改訂版 p. 132** ローレンツが発表した「刻印づけ」(刷り 込み) = 人間にも動物にもある生まれた直後の「学習する心」

- (2) **三訂版 p. 95 改訂版 p. 124** 心理学で「動物実験」がよく行われている こと(直接は使えません)
- (3) 三訂版 p. 96 改訂版 p. 12 パブロフの犬などの「条件づけ」 = 人間にも動物にもある「学習する心」。ちなみに「学習心理学」のレポート課題です。
- (4) 三訂版 p. 106 改訂版 p. 16 三訂版では「動機」、改訂版では「欲求・感情」として紹介されていますが、食欲、睡眠欲、性欲などは人間にも動物にも共通。その他の動機や欲求・情動は?
- (5) 三訂版 p. 148 改訂版 p. 103 問題解決のための思考(試行錯誤と見通し) ネコの問題箱,回り道の仕方(洞察),高いところにあるものを道具を使ってとるチンパンジー。人間の思考と同じところ、違うところは?
- (6) 三訂版 なし 改訂版 p. 114 言語 チンパンジーの手話やアイちゃん の話し (松沢哲郎:京都大学霊長類研究所の研究)。サルも言語を使える! いずれも心理学をこれからやるぞという方は、勉強しておいて損はないので是 非じっくり読んでみてください。また、よくも悪くも「動物の心と人間の心の違い」という課題に直接答えてくれている箇所はありませんが、それぞれ使えるネタです。表のどこを扱っているのか考えてみてください。

ポイント6 使えるネタをさがして、教科書をあさろう。

ここで2000字におさめるために何をとりあげるかですが、ここは個人差があってもよいと思います。ただ、アドバイスを読み返すと、(4)(5)(6)はとくに考え甲斐のあるテーマではないかと思います。

なお、福祉心理学科の方は本書『福祉心理学科スタディ・ガイド』も是非にお 読みください。この課題では、次の箇所が参考になります。

IE 心の成り立ち 獲物の位置を見定める(知覚・認知) 他人の意図や感情を読み取る 食物を独り占めにするために相手をだます 配偶者として適切な 異性を選択するなどの心の働き

図 動物からヒトを学ぶ 離巣性と就巣性=人間はどちらでもない 生理的早産 動物の行動に関する興味深い研究の紹介

ポイント 7 福祉心理学科の方は『スタディ・ガイド』で課題と関連したこと が書かれていないかさがそう!

さらにネタを仕入れることができました。でも、もっと知りたいと思った方は、是非参考文献をさがしてみてください。

私は宮城県図書館に行って「キーワードでさがす」で「動物 こころ」「動物 げんご」「動物 ことば」「動物 感情」などでさがしてみました。インターネットならば、「アマゾン」や「ビーケーワン」などネット書店のサイトでキーワード検索することもできます。結構いるいろな本が出てきてとまどいますが、心理学だけでなく「比較行動学」「エソロジー」「比較認知科学」「霊長類学」などの分野のものならば的外れではないようです。

ネタさがしにお奨めの本は、次の3冊です。

小川 隆 『動物とこころ』大日本図書(児童書). 1978年

虫のカモフラージュ(動物もうそをつく) チンパンジーの知恵だめし(動

物による知恵の働かせ方のちがい) ミツバチのことば(ミツバチの8の字 ダンスの意味)など、動物の心に関するわかりやすいテーマが一杯。

仁平義明編 『現代のエスプリ359 行動の伝播と進化』至文堂,1997年 このなかに載っているカラスの自動車利用行動(クルミを割るのに自動車に ひかせるカラスが仙台にいて、そのやり方がどんどん上達していく)につい ての論文(仁平義明「認知心理学のスキーマ論からみた鳥の学習」)は、とて もおもしろいです。

松沢哲郎 『ことばをおぼえたチンパンジー』福音館書店 (絵本), 1995年 さきほど出てきたチンパンジーのアイちゃんがことばを覚えていく実験がわかりやすく紹介されています。

その他にも、比較行動学の本を多く出している岩波書店、青土社、新曜社、どうぶつ社などの出版社から出ている本や、著者が心理学研究者の本はちょっと難しいかもしれませんが、きちんとした内容のものだと思われます。また、図書館でブラブラ見ながらさがすのならば、心理学(分類:140)の箇所よりも生物学(分類:460)あたりに関連図書があるようです。

ポイント 8 参考図書をさがして読めば、教科書に書いてあることの理解は ぐっと深まります。時間があれば是非やってみてください。

かなりネタが集まってきました。アドバイスをもう一度読むと、「心の世界」という言葉の使い方や「(動物は)心の中でそれ(ことば)をいじりまわして工夫したり、悩んだりする力はきわめて弱い」ということにも考えさせられます。おばけがこわいとか、悩むとかが意外に人間に特有だったりするのかもしれません。

全部書いたら、とても2000字ではおさまりません。何をどういうストーリで書くかを整理する必要があります。また、結論をどうもっていくかも考えなければいけません。

冒頭にあげた佐藤俊昭先生の考え方に賛成でもちょっと賛成でもまったく反対でも、例や理由をあげて示すことができれば、結論はどれもよいのです。

大学のレポート一般にいえることですが、とくにこの課題はいろいろな違いに 着目すれば幾通りの書き方もできるし、「違いがある」でも「あるけど意外に少な い」でも「ない」でもどれでも正解です。

ポイント 9 正解はただひとつではありません。自信をもって自分の調べたこと、考えたことを書いてください。

ポイント10 勉強したことすべては書けません。本論で書く題材を取捨選択して、「序論—本論—結論—引用・参考文献」という流れをつくって、書き出してみてください。

私個人としては大変おもしろい課題と思いました。この文章は説教くさくなってしまい、すみませんでした。 (通信教育事務部 古藤隆浩)

心理学概論 レポートを書こう(3単位め)

ここでは、「心理学概論」の3単位め課題を題材にして、私がどこを勉強したか、何を考えたかを紹介できればと思います。

3 単位め課題は「知覚とは、刺激を受動的に感受することではなくて、人が情報を能動的に『つかみとる』働きであることを、具体的な事実をあげて、わかりやすく説明しなさい」です。

この3単位めの課題,最初に読んだときはさっぱり何のことかわからなかったです。その場合は、とりあえず文章を繰り返し読むしかないですね。



「知覚とは」,見ること,聞くことなどのことですね。教科書・三訂版では p. 117に知覚の説明がちゃんと載っていますね。残念ながら改訂版のほうの知覚の説明は初心者にはわかりにくいもの(学問的には正確だろうけど)です。はじめて心理学を勉強する人には,「知覚」ということばが具体的に何をさしているのか教科書にわかりやすい説明がほしいところです。

次「刺激を受動的に感受することではなくて」。これも外から来る「刺激」(S)を人間が受け止めて「反応」(R)するという心理学の基本的なモデル(改訂版・三訂版ともp.3 図 0-1)を思い出して,まず心理学でいう「刺激」って何をさしているか考えないといけないですよね。窓から外を見る場合は,青い空とか緑の木とか見えるものが刺激なのでしょうか。

勉強していくと、刺激にもいろんなレベルのものが登場していくことがわかります。青い空とか緑の木だとわかる前の段階、「青くて広い大きなもの」(海?空?)、「茶色の背の高いものに、緑色のものがついているもの」(だから電信柱じゃなくて木か)が「刺激」ともいえるでしょう。もっと科学的・分析的にいうと、青い光のエネルギーが、音の場合は50ヘルツ・70デシベルという音が「刺激」なのでしょう(改訂版 p. 81~84、三訂版 p. 117~123)。

「受動的に感受」は「受け身でボーっと感じ受け止める」というふつうの意味でしょうが、このことが何をさしているのか、「**能動的につかみとる**」とのちがいをはっきり示せればこの3単位めはできたことになるようです。

課題を具体的なことに言い換えられるとよいのかもしれません。窓から外を見る場合は、「青い空を見ることは、青くて広い大きなものがあるときにそのままボーっと見ていることではなくて、青くて広い大きなものが空だとわかり、晴れているなと思うこと」だと言えればいいのでしょうか。

上の考えでは「能動的につかみとる」ことの説明がやや弱いような気がしますが、とりあえず自分なりの考え、心理学の大好きな「仮説」(?)として、これから「アドバイス」を読んでいきます。

「メロディーは音の中に存在するのではありません。音と音との時間的関係から 人が読み取るのです」。



「ド・ソ・ド・シドレ〜ド」というメロディーは、ドの音、ソの音などひとつひとつの音からできているけど、ひとつひとつの音をいくら調べても、メロディーのきれいさはわからない。音と音のつながり方でメロディーが決まるという意味ならばわかりますが、人が読み取るという点がいまいちわかりません。

きれいなメロディーが電車のなかで聴こえてきたとき、電車のガタンゴトンという音やまわりの雑音は忘れ去られて、「メロディー」のみを聴きとるということでしょうか。

「映画のフィルムのひとコマひとコマの映像は静止画像であって……しかし、静 止画像の連続のなか、人は『動き』をみる」。



ここでも、ひとつひとつ細かく分けて見ていくと「静止画像」にいきついて、映画の動きは解明できない、といったことが言われています。これは、『福祉心理学科スタディ・ガイド』「図で書かれているデカルトの「切断」(細かい要素に分解)vs「統合」ということと関連しているように思います。

教科書を読んでいった際、改訂版 p. 92に電光ニュース板、三訂版 p. 134横に並んだ数個のライトのことが書かれています。これは新幹線に乗った際に客室の前の方にあるニュースの電光掲示板をさしているのでしょうが、このことが「仮現運動」ということがわかります。

「仮現運動」を辞書やインターネットで調べてみると、「ゲシュタルト心理学」で言われ始めたこと、細かい要素に分割していくというデカルト流の自然科学的方法では説明できないことをゲシュタルト心理学が指摘し全体を見なければいけないという立場であることがわかります。さらに、上のメロディーの話しもゲシュタルト心理学で言われたことがわかってきます。

このように、バラバラな解説のなかに共通点を見出し、頭の中でひとつにまとめていくことができると、勉強するのが楽しくなります。そういうく発見>は、スクーリングで先生の講義を聞くとたくさん得られますが、独学の場合はたくさんの本を読んでいくとよいように感じています。

『レポート課題集』のアドバイスに戻ります。「カメラで人物を低いアングルから撮影した写真でみると、その人物の脚がとても長い。ところが……」



人物を撮ることに熱中していると他のことが見えなくなってしまう、ということでしょうか。「知覚は刺激には忠実ではなく、その現実的意味に忠実なのです」ということは、心理学実験 | で行うような「錯視」の例、こわいものは大きく見える、気になることはよく聞こえる(カクテルパーティ現象)などが考えられ、「情報を能動的につかみとる」働きであることに気づかされます。

次の段落の文章「知覚という心の働きによって、人は生きる上に必要な環境の情報を読み取り、それを手がかりとして、自分の行動を決定する」。



心理学のひとつの「説明」の仕方として、何か心の働きは、生きる上で必要だからある、適応のためにある、進化の結果あるということを言うようです。自然のなかでエサをとるために、または食べられてしまわないために必要なのが知覚という説明ですね。人間の場合、信号を知覚して赤だったら止まらないと危ないといった物理的環境だけでなく、上司と話すときその人の表情を見ながら話さないと怒り出すかもしれないというような社会的(=人間関係的)環境も大切でしょうか。

☆

ここまででも随分大切なことが書かれていました。次に教科書を読んで、レポートを書くためのネタさがしです。これも、アドバイスにキーワードがないので、「知覚」が書かれている改訂版 4 章、三訂版 5 章を最初から読んでいくしかないようです。

紙数が限られているので、私が読んで関連していると思ったところをあげていきます。



改訂版 p. 81「知覚に際しては、注意とかまとめ方の面で過去の経験からの知識ないし枠組みが関与してくる」



これは「能動的につかみとる」(いらない情報を切り捨てる)ことの大きなポイントでしょうね。たとえば次のようなことがあるでしょう。

- 1 言葉の働き 空が空と見えるのは言葉があるから。
- 2 ものを見るときの枠組み=スキーマ(改訂版 p. 100, 三訂版 p. 148)。「スキーマ」のことだけでこのレポート課題は書けそうですが、その参考になったのは、池田謙一・村田光二『こころと社会』東京大学出版会、1991年です。また、他の教科書にも良く出ている「THA HAT」の文字列や「カ」を文脈によって、カタカナの「カ」と読んだり漢字の「カ」と読んだり使い分けている例(『つっこみカ』ちくま新書、2007年)など。なお、三訂版 p. 132の「知覚における文脈の効果」も同じことですね。

改訂版 p. 81「知覚も記憶も、単に感受したりという……受動的な過程ではなくて」

三訂版 p. 126「私たちが知覚しているものは、刺激を単純にそのまま受け入れた結果ではない」



このことについて、さまざまな例がその後の教科書にはたくさん書かれています。このあたりのことを書くのが一般的にこのレポートに答えたことになるようです。

- 1 知覚の恒常性(三訂版 p. 126)・大きさの恒常現象(改訂版 p. 90)
- 2 図と地の知覚(三訂版 p. 128)・図と地の分化(改訂版 p. 86) = 教科書の 紙の上の文字を読むとき紙の白い部分が「地」で文字が「図」ですね。文字 = 「図」に注目していくのが知覚の能動的なはたらきのひとつでは?
- 3 **群化知覚**(三訂版 p. 128) **群化**(改訂版 p. 86) = 三訂版図 5 21, 改訂版 図 4 11の図をよく見てください。くっついているとまとまって見えるのも, 考えてみると知覚の能動的なはたらきですね。
- 4 **幾何学的錯視**(三訂版 p. 130・改訂版 p. 86) 錯視が能動的なはたらきで意味があることは、下條伸輔『〈意識〉とは何だろうか』講談社現代新書、1999年を読むとよく理解できました。
- 5 **主観的輪郭・知覚的補完**(三訂版 p. 130) なぜ輪郭が見えてしまうのかも、知覚の能動的なはたらきのひとつですね。
- 6 **奥行き知覚**(三訂版 p. 132・改訂版 p. 86) 目の網膜は平面的なのに、なぜ立体的で三次元であると知覚するのか。これも受動的ではない例ですね。

☆

さらに教科書を読んでいくと、改訂版 p. 136の発達心理学で勉強する赤ちゃんは母親と母親以外の声の区別ができてかつ母親の声によく反応するというような話(選考注視法ほか 三訂版 p. 76~80・改訂版 p. 132~136),社会心理学で勉強する「認知的不協和理論」(三訂版 p. 12・改訂版 p. 58)とか「コインの社会的認知の実験」(三訂版 p. 8・改訂版 p. 49;いかにもアメリカ的で個人的にはイヤな研究結果だと感じますが……)もこのような面があると思います。なお,「アフォーダンス」という最新の知覚の考え方から書くのもよいでしょう。

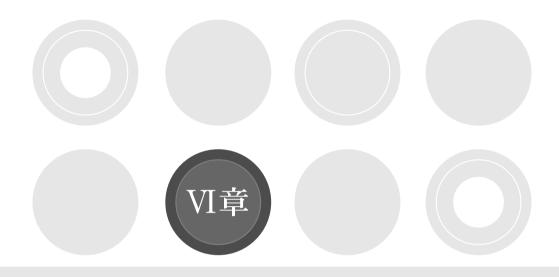
₹

私たちは、完全ではなく聖徳太子のように一度に7人の話を聞くことはできないわけで、何かを切り捨てている点でどんな知覚も受動的ではないのでしょう。 すべてのことが知覚されたら、気がおかしくなってしまうかもしれません。

また、言葉やスキーマがあることで、一々それが何であるかを考えなくても空は空だと知覚できるく楽ちんさ>はあり、危険な事態に陥ったときに一瞬にして逃げるという判断ができるのも、知覚がある意味で怠慢で必要なものだけを能動的につかみとっているせいなのでしょう。だけど、そのことが思い込みや偏見を生んでしまっている面もあるのかもしれないと感じます。

繰り返しになりますが、この課題は最初何を言っているのか本当にさっぱりわかりませんでした。前担当教員の佐藤俊昭先生のスクーリングを聞くことと、アドバイスと教科書の熟読、そして心理学のいろいるな本を読むことで、とりあえず今は上のように考えています。参考にしていただき、ひとりでも多くの方がレポートに取り組んでいただけることを願っています。

(通信教育事務部 古藤隆浩)



卒業研究ガイド



福祉心理学科 卒業研究作成のしおり 心理学における研究の進め方・論文の書き方(その1~3)

福祉心理学科 卒業研究作成のしおり

心理学専攻学生として、すでに、実験 I ~III、研究法 I ・II の課題を終えてきた皆さんは、これまでにおける心理学に関する学習の総括としての卒業研究を作成する段階に至っている。卒業研究は、これまでの、どちらかと言えば、受け身的な学習とは異なり、自分で研究課題をとらえ、自分で工夫して、研究を進めていくべきものであるから、以下の諸点を留意して、自主的に取り組んで欲しい。

卒業研究として認められる研究は、**調査研究**(実験法,質問紙法,面接法、観察法),**事例研究**(面接法、観察法),**文献研究**である。以下の説明をよく読み、指導教員と十分に相談した上で研究をすすめてほしい。

◆ 1 テーマの決定

(1) 問題意識の具体化・明確化

一般に研究を行おうとする場合、まず第1に、テーマをどのようなものにするかが問題となる。テーマは、かなり漠然とした興味や関心から出発することが多い。また、すでに、講義や実験の中で、こういうことを研究したいという、ある程度具体的な問題意識を持っているかもしれない。しかし、いずれにせよ、いざ自分の研究として進めていこうとすると、どこから手をつけて良いか、方向づけに迷いがちなものである。したがって、研究を進めていく第一歩は、問題をできるだけ明確にし、一定期間内でまとめあげられるように絞り込んでいくことである。そのためにはまず、自分の興味・関心に関連のある文献を読むことが必要となる。また、この段階で然るべき先生に相談し、指導を仰ぐことも、問題意識を深める上で非常に役立つはずである。さらに、順序は逆になるが、はっきりした問題意識の方向がなかなか定まらない場合に、文献を読むことによって、おもしろそうな問題を発見するという方法も、効果的であると思われる。心理学研究法 I の教科書、『教育心理学の技法』の「第1章第3節 研究アイデアを得るヒント」も参照のこと。

(2) 関連文献を調べること

問題意識がある程度具体化してきたらば、関連のある文献を読み始める。 この場合、文献というのは、概説書・専門書などの単行本と、オリジナルな 論文を掲載している専門誌・学会誌をあわせて呼ぶものである(p. 180~ 182参照)。

日本の学会誌としては、『心理学研究』『教育心理学研究』『心理学評論』が代表的なものであるから、それぞれ最近の数年分に目を通し、その中から関連論文を発見するとよいであろう。文献は、まず、最も新しいものを読み、それからさかのぼって読んでいくのが原則であるが、一つの論文を読むと、それに関連した文献が、参考文献(references)の欄に挙げられているから、その文献を次々に読んでいくのが効率的な方法である。外国の専門誌については、Psychological Abstract誌などにあたって、関連したタイトルを発見し、それからオリジナル論文を探すと便利である。また、学会ホームページから論文を検索することもできる。一部の学会では、学会誌(先に挙げた『教育心理学研究』など)の目次、論文の要約を掲載している。

先述の学会誌はすべて本学図書館にある。本学図書館には,通教生用の利用案内が用意されているので,本学ホームページなどで確認してほしい。本学図書館にない文献も取り寄せできる「文献複写サービス」など,積極的に利用していただきたい。本学図書館以外でも,国立国会図書館(http://www.ndl.go.jp)では,登録利用者に対する文献複写サービスが利用可能になっている。その他,公立図書館で一部の専門誌を所蔵していることもあるし,近くの大学図書館が一般に閲覧可能な場合も多いので,各自の行動範囲内で確認してほしい。

関連論文が見つかったら、とりあえずは、自分なりの文献目録を作ってお く。そうすると、後で本格的に文献を整理する時に効果的である。

(3) 仮テーマ (仮題) の決定

(1), (2)により、ある程度問題意識が明確になったら、その問題の方向に従って、仮テーマを決定し、通信教育部のフォーマット(『レポート課題集(3・4年)』所収)に従って大学に提出する。各自の提出したテーマを検討し、学科で指導教員を決定する。言うまでもないことであるが、教員一人の

指導能力には限界があるので、研究領域が複数の教員にまたがる場合は、 その教員間で人数を調整する場合もあることを、あらかじめ知っておいて欲 しい。

(4) テーマ (論題) の決定

指導教員が決定したならば、その指導、助言のもとに、問題意識をより深め、研究の方向性、ある程度の結果の見通し等をふまえて、それを具体的なテーマとして表現する。テーマは、同時に、卒業研究のタイトルでもあり、それによって、研究の具体的な内容が理解できるように、できるだけ具体的かつ簡潔なものとすることが望ましい。また、やや抽象的なメインテーマに、具体的なサブテーマをつける方法もよく使われているものである。

◆ 2 研究のすすめ方

(1) 研究の目的(目標)を明確化する

心理学の研究においては、今まで明確にされていなかったことを、実証的に研究することが要求される。したがって、ただ漠然と実験したり質問紙を配ったりすれば何かが出てくるだろうという態度では、十分な研究は望めない。

また、事例研究を行うにしても、少数の事例について綿密なデータ収集と 分析を行い、そこから一般的な結論を導きだそうとするものが事例研究であ るので、単に何人かの人たちに会った上での意見や感想を述べるだけでは、 研究とはいえない。

文献研究の場合でも、他人の論文をいくつか読んでまとめるだけでは、レポートであって、これも研究とは認められない。文献研究とは、単に一つの調査、実験からの結果発表を行うのではなく、あるテーマを設定した上で既に発表された論文・研究を多数詳読し、そのテーマに関する理論的考察・批判を行い、今後行われる新たな研究の展望を打ち立てるものである。よって、概説書ではなく専門誌に掲載されている論文を中心に文献を収集しなければならない。

したがって、心理学の研究においては、「自分が研究する」という基本線 に立って、自分が何を明らかにしようとしているかを、第一に明らかにしな ければならない。その明らかにしようとすることについての答えがある程度 予想される場合、それを「仮説」(hypothesis) と言うが、仮説を立てるまでに至っていない場合でも、自分の研究の目的がどの程度明らかになっているのか、ということが、それから先の研究の進め具合に多大な影響を与えるので、研究の出発点において可能な限り明確にしておくことが大切である。

(2) 研究計画をたてる

研究の目的が明確になったら、いよいよ、具体的な研究を進めていく段階になるわけであるが、提出期限までの限られた期間内に研究を完成させ、卒業研究を書き上げなくてはならないのであるから、最初に、大体の研究計画を立てる必要がある。研究どおりに順調に研究が進んでいくとは限らないので、途中で何度か計画を変更せざるを得ない場合も予想されるが、とにかく、最初にできるだけ綿密な計画を立てておくことが、研究をスムーズに進めるコツである。大雑把に言って、研究は次のようなプロセスを経て行われていくものであるから、それぞれの段階について、どの程度の期間が必要か(あるいは、どの程度の時間をかけられるか)あらかじめ検討しておく必要がある。

- 1) 方法についての検討(実験機器、質問紙等の準備も含む)
- 2) 予備実験. 予備調査. 予備観察
- 3) 本実験, 本調査
- 4) 結果の整理
- 5) 結果についての分析と考察
- 6) 提出のための体裁を整える(図表の整理など)

(3) 研究についての検討と選択

自分の研究目的(研究内容)にもっとも適した方法の検討をし、選択するわけであるが、その場合、まず関連文献において使用されている研究方法が大いに参考になることは言うまでもない。いくつかの関連する研究の中で使われている方法を比較・検討することから始めると効率的である。

方法に関する検討においては、被験者(被調査者)の数や属性(年齢・性別など)、教示のしかた、記録のしかたなどを具体的に考察し、決定しなければならない。その際に、前述の研究目的が大きく関わってくるわけで

ある。

たとえば、「実験」を方法として選択する場合には、使用する機器、実験 条件、その回数などの検討に加え、どの実験室を使用するか、使用したい機 器が使用可能の状態になっているか、あるいは、どの程度使用可能であるか などについても指導教員を通じて確認しておく必要がある。

「質問紙」によって調査をおこなう場合も、当然のことながら、研究目的によって、その対象、調査の時期、調査票の配布と回収の方法などを検討しておかなければならない。

また、たとえば心身障害児の研究のように、観察を中心とした研究、あるいは事例研究の場合には、観察法を十分に身につけておくこと、記録について、効率的で正確なしかたを検討することが必要であるとともに、実験や調査と比較して研究に時間がかかることが特徴であるから、できるだけ早く研究に取りかかることが大切である。また、観察にせよ事例研究にせよ、対象者の全体像に関わりを持つことが必然的になってくることが多いが、時間的な制約などを考慮し、研究の対象となるポイントを絞り、働きかけを系統的に組み立てて研究を進めることが、特に必要である。

さらに、資料をどのように分類し、その分析のためにどのような統計法を 活用するか、ということも、この段階において、すでに検討を終えているこ とが望ましい。

(4) 具体的計画の立案 (予備実験・予備調査・予備観察)

卒業研究においては、その途中で、計画や目的を根本的に変更したり、研究のやり直しをしたりする時間的余裕はないので、十分に準備をし、計画を立て、見通しを確実にしてから研究に取りかかることが大切である。そのためには、予備的な段階における具体的な検討が不可欠である。予備実験、予備調査、予備観察などの結果によって、実験回数の増減、質問項目の増減、被験者数が妥当であるかの検討、教示の更新、改善など、研究方法に関する適切な処置を工夫していくのである。

また、この段階において、被験者(被調査者)についての見通しをはっきりさせておく必要があることは言うまでもないし、さらに、特に実験においては「統制群法」を用いることが多いと思われるので、「実験群」とともに、「統制群」「対照群」についても検討しておく必要がある。

(5) 本 研 究

予備研究によって具体的な研究計画が立てられたならば、いよいよ本研究 に取りかかる。本研究そのものは、計画さえしっかり立っていれば、その計 画通りに進めればよいのであるから、さほど問題は起こらないはずである。

むしろ大切なのは、実験結果や調査資料をその都度整理しておくことである。また、必要事項(日付、場所、被験者名、その時の特別な事情など)を必ず記入しておくことである。さらに、実験中や調査中に気づいたことは、すべて詳しく記録しておくことが大切である。それが後で結果の解釈の時に大いに役立つことがある。

観察や事例研究においても、記録は印象が鮮明なうちに整理しておくことが大切であるし、観察や指導をしている最中に感じたことや考えたことを、同時に書き留めておくと研究のポイントをより明確にし、後の観察や指導をより有効にするのに役立つことが多い。

(6) 研究結果の整理

結論を導き出すためには、分類したり統計的な分析をしたりする必要があるので、結果はローデータ(raw data)のままにしておくのではなく、パソコンに入力したり、整理用カードや整理表をあらかじめ作っておいて、それにまとめて転記しておくと良い。この場合、入力・転記を誤ると資料としての価値を失うことになるので、十分に慎重に行い、二重・三重にチェックをすることが大切である。資料が多量の場合には、アシスタントを依頼することも考えられるが、そういうときには、事前に十分に打ち合わせと訓練を行い、信頼性を高める配慮をすることが必要である。また、入力・転記の際には、後の分析のために便利なように記号や略号を用いる場合があるが、その場合には、必要に応じていつでもローデータに当たることができるように、ローデータを整理して大切に保存し、また、番号を打つなどして、関連がはっきりするようにしておくことが必要である。

(7) 結果の分析・考察

本研究が終わり、結果の整理が一通り済んだら、結果の分析に入る。結果の分析と考察は、一口に言えば、最初に立てた仮説が果たして検証されたかどうか、あるいは、研究の目的に即して何がわかったか、ということを、結

果に即して検討することである。

心理学においては各種の統計法が活用されているが、それぞれの統計法には、それを利用するための前提条件があるので、自分の研究の性質から、その点を十分に考慮して活用しなければならない。また、心理学の研究課題、あるいはその内容によっては、数量化が困難なものも少なくない。したがって、第一には統計法の活用しうる限界をよくわきまえる必要があるし、第二には統計法によって確認された結果に意味づけをしていくことが重要であるのは言うまでもないことであるから、結論を導き出すための一手段としての統計法という位置づけをはっきりと持つことが必要である。

また、グラフと表を有効に活用することも大事なことである。統計法を用いる前に、平均値や度数などの基礎集計をまず行っておく。それをグラフ化したり、表にしたりすることで、目に見える具体的な資料から「差の有無」「関連の有無」のあたりをつけることができる。統計による有意性検定にのみ目が向き、「有意な差、有意な関連」を見つけ出すことに腐心するということになってはならない。

以上のプロセスを経て「結論」が導き出せるわけであるが、「結論」は研究の目的に関してできるだけ簡潔・明確に表現されることが望ましい。また、結論として導き出されたことは、一定の制限条件の中での結論であるから、そのことも明確にすることが必要である。

◆3 指導を受ける上での留意点

卒業研究は、あくまで個人的な研究であるから、皆さんの研究者としての個人的な自由は十分に尊重されなければならない。しかし、それと同時に、皆さんはこれまで心理学を学んできたとはいえ、それは決して十分とは言えないし、また、自主的な研究に取り組むのは初めての場合が多いと考えられる。したがって、指導教員の指導・助言を受ける必要が出てくる。しかし、一人の教員が受け持つ学生数がかなり多数にのぼると予想されるので、指導を受けるにあたっては、次の諸点に十分留意して欲しい。

1) 指導は所定の回数(面接指導2回以上・通信指導3回以上)必ず受けること。原則として指導教員の方から呼び出すことはしないので、自発的に指導を受けるようにして欲しい。また、できるだけ細かく指導を受けるこ

と。すなわち、研究の各段階において、指導教員に相談し、一つ一つ確認しながら研究を進めていく態度が望ましい。ほとんど指導教員のもとを訪れることなく研究を進め、結果が出てから指導を受けに来ても、もはや指導の余地も意味もほとんどなく指導教員として責任が持てないので、そういうことにならないよう、特に注意すること。

2) 指導を受ける際は、必ずあらかじめ連絡を取り、決められた時間に遅れないように、時間を厳守すること。また、一人一人の学生皆さんにあてられる指導時間は極めて短いので、その都度、指導を受けるポイントを明確にして来訪する態度が望ましい。

予約した時間に何らかの事情で来訪できなくなった場合, あるいは遅れる場合には, 必ず連絡をすることは言うまでもないことである。さらに, 決められた時間以外に連絡なしに来室することは, できるだけ避けてほしい。

3) 実験・調査,あるいは観察などで、学校・幼稚園・保育所・施設あるいはその他の機関を利用する場合には、まず先方の知人・関係者などを介して都合を聞くなど、自分で努力することが望ましい。さらに、正式には福祉心理学科から「依頼状」(p. 165参照)によってお願いすることになるので、個人的な関わりで依頼する場合でも、必ず依頼状を持っていくことを忘れないように注意すること。なお、被験者を学科・指導教員から紹介することはない。被験者を独力でさがすことも卒業研究という課題の一部である。

また、そうした場合、相手方に結果の報告をすることは常識であり、それを怠ると次回からの依頼に応じてもらえない事態を招くことにもなるので、 指導教員と相談の上、できるだけ早く報告するように心掛けることが大切である。

◆4 「卒業研究」論文の書き方

1) 卒業研究の構成

論文の構成をどうするか、と言うことについては、テーマとの関連性から、 一律に規定することはできないが、基本的には下記の内容が、その骨子とな るであろう。

(1) テーマに関する先行研究ではどのようなことが明らかになっているのか

- (2) この研究がどんな目的で行われ、なにを問題にしているか
- (3) 問題を究明するために、どのような方法を用いたか
- (4) 研究の結果として、どのようなことが明らかになったか、あるいは、明らかにならなかったことはどういうことか
- (5) その結果に対する考察

以上のことを踏まえて、一般的な論文の構成は、強いて言えば次のようになる。

① 研究の目的・課題・問題

これは"はじめに""前書き""序(章)"などと表現されることもあるが、その研究がどのような目的で行われ、なにを問題にしているのかをまず明らかにしておかなければならない。同時に、同様のテーマでこれまで行われた先行研究においては、どのような方法が用いられ、どのようなことが明らかになっているのかを整理しておく必要がある。また、実験なり調査なりを始める前に、従来の研究等から、結果についての予測、あるいは予期がある場合(これを「仮説」という)、その根拠と共に、仮説を明示する必要がある。

「仮説」が明確にできない場合でも、ほとんどの研究ではそれに関連した、あるいは、類似の研究がすでに多くの研究者によって行われている。 よって、これまでにどのようなことが明らかにされているか、あるいは、どのようなことが不明なままであるか、ということを、先行する研究の引用によって明らかにしておくことが望ましい。

② 研究方法の説明

どのような手順で研究が行われたか(研究の方法)は、結果の評価には不可欠な条件であるから、できるだけ詳しく記述しておかなければならない。 主な内容は下記の通りである。

- ・被験者 (Subject), 調査対象者, 選択の方法 (方針), 数, 年齢, 性別, 学年, 職業など
- ・研究の手続き、および順序 使用した機材の名称

質問紙法の場合は、その構成・内容(添付するのがよい。なお多量の場合には、巻末につけるのも一方法である)

実験の順序や教示の与え方(できるだけ詳しく、具体的に)

- ・研究の時期、時間、場所
- ・研究に参加した人間(実験者,調査者,検査者,記録者,アシスタントなど)の記述

以上のような事柄に関して、その研究について全く予備知識を持たない人間にも理解できるように記述することが望ましい。また、必要に応じて写真・描画などによる表示も歓迎する。

③ 研究結果の記述

研究結果は、できるだけわかりやすく表現することが大切である。そのためには、必要に応じて図表、あるいは写真などによって表現するのがよい。図や表は文章表現の代わりではあるが、本文中にそれらの図や表から読みとれる主要な内容については、文章化して表現する必要がある(単に「表○を参照」では簡単すぎる)。したがって、本文中に図表を入れる場合、その説明文に最も近いところに位置させることは当然である。もし表などがあまりに膨大なものになる場合には、本文中には簡略化した表を使用し、詳細な表(原表など)は巻末につけるか、別冊にしてもよい。

④ 研究結果の考察

研究結果に基づいて、はじめに提出された問題がどのように解決されたか (例えば、最初に立てた仮説が検証されたか、あるいは、予想したとおりの 結果が出たかどうか)を、まず明らかにする必要がある。問題 (テーマ)に よっては、この点を明確にすることが困難な場合もあるが、その時には、自 分の研究結果からどういうことが言えるか、と言うことを明らかにしなければならない。この際、拡大解釈や無理なこじつけを避けなければならないことは、言うまでもない。

なお、結果の考察にあたっては、他の研究者によってなされた類似の研究 結果と比較してみると良い。自他の研究結果を比較考察することによって、 自分の研究結果の意義が、より明確になる場合が多い。

⑤ 結果の要約と反省, 今後の課題

研究を行うにあたって大切なことは、その研究によって何がわかったか、ということであることは言うまでもないが、同時に、何がわからなかったか (残された問題、あるいは課題)を明らかにすることも、同時に大切である。したがって、「結果の要約」として、まずその研究によって明らかになったことを、箇条書きなどで記述し、それとともに、「今後の課題」として、残された問題についての考察も行うことが望ましい。

また、研究を行ってみた上で、問題の設定の仕方、被験者の選定、研究方法などにおいて、不満な点や欠陥がなかったかどうかを検討し、「反省」として記述することが望ましい。

⑥ 参考文献・引用文献に関する記述 → 2) ③の(9).

研究を行うにあたって参考にした文献については、一括して巻末に付記するのが普通である。文献は著者のアルファベット順に並べて通し番号を打ち、本文中に該当する箇所には、その番号を付記しておくことが望ましい。

引用文献について、本文中で特に明らかにする必要がある時は、その部分に(注1)などの表記をし、そのページの下部に脚注をつけるという方法もある。

2) 記述の仕方

① 体裁

- ・手書きの場合: A 4 サイズの400字詰め横書き原稿用紙50枚以上100枚 以内
- ・パソコン・ワープロの場合: A 4 判用紙 左右40文字×天地30行=1200 字詰め(横書き)とする。17枚以上34枚以内。
- ・製本仕様については、通信教育部からの指示に従うこと。 なお、どちらの場合でも、2部提出してもらうことになる。

② 記述

文章はわかりやすく簡潔であることが大切である。「~である」調で書き、現代仮名遣いを原則とする。また、同じ事項を時に漢字で、時にひらがなで書いたり、あるいは、送りがなを付けたり付けなかったりなどは避け、全体的に統一しなければならない。

③ 表記法

(1) ピリオドとコンマ

論文は横書きであるから、一般的には文章の終止は句点「。」、途中の切れ目はコンマ「、」で書くのが原則であるが、ピリオド「、」、読点「、」でもよい。いずれも一つのマスを使って書く。

(2) 引用

文献などからの引用の文章は、脚注などでそのことを明確にした上で、""または「」を使って書く(または引用文の前後1行をあける)。また、引用文章中にさらに引用句のある場合には、''や『』を使用する。いずれも一つのマスを使って書く。

(3) 括弧

括弧には()と()を用いる。通常は()を用い、その外側に さらに括弧を付ける必要がある場合には()を用いる。いずれも一つ のマスを使って書く。

(4) 数字

数字は原則として算用数字(1, 2, 3 ·····)を用いる。ローマ数字(1, ||, ||| ······)は実験(調査)番号を示すときにのみ用いる。なお、2 桁以上の数字は半角にする(原稿用紙の場合1マス2字)こと。

(5) 略語

一般に広く知られている心理学用語、例えばCA、MA、IQなどはそのまま用い、字間を開けたり略記号(.)を付けたりする必要はない。また、他と混同する恐れのない場合には、実験者をE、またはVI、被験者をS、またはVP、観察者をOと略して差し支えない。

(6) 図および表

表の番号は本文中に示す順序に従って、表 1、表 2、あるいは、Table 1、Table 2 のように算用数字で通し番号を付ける。表の記号は表の上部に付け、表の説明文、または表題を並べて書く。

図も表と同様、本文中に示す順序に従って、図1、図2、あるいは、 Fig1、Fig2のように算用数字で通し番号を付ける。写真も図とする。 図の番号は図の下に書き、図題、または図の説明文を並べて書く。

本文中で図表について言及する時は、図表に付けた番号(表 1, Table 1, または図 1, Fig 1) と同じ表現をすること。

また、特に図については、見やすくするために、色分けなど、色彩の 使用が望ましい。

(7) 注の書き方

文章の流れ(文脈)からして、本文中には入れにくい説明文や付記する必要のある事柄、あるいは引用文献などは、〔注〕の形で表記するのがよい。この場合、注の入れ方には下記の4つの方法がある。

- イ 該当する文章の後ろに入れる。()を使って小文字で書く
- ロ その文章を含むページの下部に、脚注として入れる
- ハ 章や節の切れ目に、まとめて入れる
- ニ 論文全体の終わりに、まとめて入れる

このうち、最も読みやすいのは口の脚注の形式である。論文用紙には脚注の欄がないので、適当に線を引いて区分し、脚注の欄を設けるようにしてほしい。

(8) 英文の表記法

原則として、1マス2文字(アルファベット)で書く。ワープロ・パ ソコンの場合は半角文字にすること。

(9) 引用文献、参考文献の表記法

文献を本文中で引用した際には、本文中に必ずその著者と発行年を明 らかにする。

(引用例) …このような反応の変化は、濱田(1991)の報告にも見られている。 文末には、本文で引用した文献と参考にした文献の書名をまとめて 記載する。掲載順は、引用順ではなく、著者名のアルファベット順で ある。

また, 文献の種類によっては掲載すべき情報が若干異なるので, 以下 に示した形式を踏襲すること。

学術雑誌論文の場合:著者名 発行年 論文名 雑誌名 巻(号) 該当ページ の順(欧文文献の場合,雑誌名・書名はアンダーライン(下線)を引くか,イタリック体(斜体)にしてください)

(例)

Cronbach, L.J. 1967 The Two Diciplines of Scientific Psychology. <u>American</u> Psychologist, vol.12 p. 671-684.

濱田治良 1991 短期記憶における視空間記憶と聴覚記憶の差異 心理学研究 61巻 第1号 p.8-14.

単行本, 単著の場合 (著者が一人の場合):著者名 刊行年 書名 発行 出版社名 (該当ページ)

(例)

Eysenck, H. J. 1957 <u>The Dynamics of Anxiety and Hysteria.</u> Ohio: Charles E Merrill.

北村晴朗 1975 新版一般心理学演習 誠信書房 p. 110-112.

単行本,共著の場合(1冊の本で著者が複数いる場合):著者名 刊行年章などの題名 書名(編者名,書名) 発行出版社名 (該当ページ) (例)

加藤忠久 1987 こころの働きの生理学的基礎 黒田正典ほか共編 応用的見地から の一般心理学 (改訂版) 八千代出版

事典の場合: 執筆者 刊行年 項目名 書名 発行出版社名 該当ページ (例)

牧野達郎 1981 視空間 新版心理学事典 平凡社 p. 300-304.

◆5 研究における倫理

研究を行う際の最大の原則は、「調査対象者・被験者の尊厳を守ること」である。卒業研究の説明として、最後に、「研究における倫理」に関して説明する。

1) なぜ倫理を強調しなければならないのか?

「数多い調査の中には、残念ながら、無責任に行われ回答者やインフォーマント(情報提供者)に対して果たすべき義務を怠っているもの、迷惑をかけているもの、プライバシーを尊重しないどころか侵害しているものなどが含まれる。このような調査は人々の調査全般に対する信頼感を損ない、調査対象者の協力拒否や反発を招き、積極的な協力を得にくくしている。そして結果として、きちんとした目的をもって回答者の人権に配慮しながら調査を行っている調査者、さらにこれから調査を行おうとする人々の調査環境をも

著しく侵害しているのである(鈴木、2002)」。

2) 説明と同意: インフォームド・コンセント

調査者は対象者に、研究の目的、趣旨、データの利用の仕方について同意 を得なければならない。絶対に協力を「強制」してはならない。同意を得る ためには、調査に協力するかどうかの判断を調査対象者が行うのに必要十分 な情報を調査者が提供し、それを理解、納得、了解してもらわなければなら ない。提供しなければならない情報は以下の通り。

①調査者. 調査に関する情報

当然のことながら調査者の氏名、所属を伝える。そして、調査の目的、意義、調査の内容、面接・観察ならば記録・録音の有無について説明する。専門用語を使いすぎることなく、対象者のわかりやすい表現を用いること。なお、事前に調査目的・内容を伝えることで反応・回答に影響することが想定される場合には事後に説明することもある。

②個人情報保護に関する情報

個人情報や話の内容の秘密がどれだけ、どのように守られるのかを明らか にする。「匿名だから大丈夫」ですませてはならない。 → 3)参照

③結果報告の義務

調査者は、対象者が希望した場合に調査結果の報告をしなければならない。結果報告を希望するかどうかを聞く。

④結果の公表先

学校、施設、企業などの組織を通じて対象者にアプローチする場合、結果の報告義務は対象者だけではなく、組織に対しても発生する。所属先にどの程度まで情報がまわるのか、明らかにしておく。例えば面接法を用いた事例研究を行うとする。対象者が面接に同意したことは、面接で得られたエピソードをそのまま公表されることに同意したことと同じことにはならない。発表・報告に用いる際には、再度同意をとる必要がある。

⑤拘束時間と謝礼

調査内容の情報とも関わるが、どの程度対象者を拘束するのかはっきりさせておく。謝礼の有無についても説明する。

⑥同意の得方

厳密には、「同意書」への署名を用いる。組織を通じた多人数の質問紙調

査など、個別の同意書を得ることが難しい場合には、調査票の表紙に①~⑤ の事柄を示し、「同意できない場合には回答の必要がない」ことを明記する。

3) 個人情報・プライバシー保護のための方法

守秘義務を果たし、データの保管にも細心の注意を払う。同意も無しに個 人情報を含んだデータの公表をしてはならない。具体的には以下の通り。

- ①調査内容は必要最小限の関係者の目にしかふれないようにする。
- データ入力を他者に頼む場合でも、個人名はわからないように、コードナンバーなどに。
- ②対象者の組織が調査に関わっている場合、組織に対する匿名性を保証する「学校で生徒に調査する」「企業で従業員に調査する」といった、組織が調査に関わる場合、個々人の回答を無断で組織に渡さないことを保証する。
- ③対象者を精神的、肉体的に傷つけるようなことをしない

物理的に危険なことをしてはいけないのは当然であるが、質問の仕方によっては対象者の名誉、自己イメージを傷つけたり損ねたりすることがある。特に、学歴、職業、家族については特に注意すること。また、対象者への軽視、偏見、差別が含まれていないか、十分に確認すること。研究者一人では気付かないことが多いので、周りの人々に意見をいただくことも大事となる。

④データの保管

得られたデータは、一定期間保持する(研究に対する問い合わせ・疑義への対応のため)が、いずれ処分することになる。保存期間、処分する際の方法を説明する。

4)調査内容の限界を意識する

これまでに説明したことからわかるだろうが、研究に必要だと思うことなら何でも聞いていいというものではない。対象者の「回答をしたくない気持ち」を尊重しなければならないし、そもそも「答えることが不利益を招くと感じされる質問」「軽視された、馬鹿にされたと感じる質問」がないようにしなければならない。

5) 依頼の仕方

「3 指導を受ける上での留意点」でも述べたが、学校・施設などで調査を行う際には、正式には福祉心理学科から「依頼状」によってお願いすることになる。個人的な関わりで依頼する場合でも、必ず依頼状を持っていくことを忘れないように注意しなければならない。指導教官との了解なしに、勝手に行ってはならない。

①依頼のためのアポイントメントを取る

知人,関係者を介することが多いとは思うが,これまで関わりのない組織には、自らアプローチすることになる。電話で行う際には、氏名,所属,用件を伝え,担当者もしくは施設長につないでもらう。簡単に研究概要を説明し、協力依頼に伺ってよいかどうかを聞く。来てもよい、という返答をもらった場合、依頼状の宛先・名義も伺っておく。

②依頼状を用意する。

依頼状と研究計画書を用意する。依頼状は、添付のフォーマットを参照のこと。指導教員の署名と印鑑が必要となる。研究計画書には、研究のポイントを簡潔にまとめる。理論的背景・仮説の根拠などよりも、「具体的にその施設を使って何をするのか」「なぜその施設にお願いしないといけないのか」「研究対象者にどのくらい負担がかかるのか」「いつ行うのか」「どのような調査項目なのか」「プライバシーの保護はどうなっているのか」という点が明確になっていることが重要となる。

③先方の要望にあわせて研究計画・内容を修正する

こちらの要望がそのまま聞き入れられるとは限らない。依頼時に指摘され たことをふまえて、手続きや項目の修正を行う。

◆6 参考図書

1)研究倫理に関する参考図書

富田正利・深沢道子訳 1996 『アメリカ心理学会 サイコロジストのための倫理綱領および行動規範』 日本心理学会

鈴木淳子 2002 『調査的面接の技法』 ナカニシヤ出版

古澤頼雄・斎藤こずゑ・都筑 学 編 日本発達心理学会 監修 『心理学・倫理ガイドブック』 有斐閣

安藤寿康·安藤典明編著 2005 『事例に学ぶ心理学者のための研究倫理』 ナカニシャ出版

2) 研究法に関する参考図書

①北大路出版 心理学マニュアルシリーズ

大野木裕明・中澤 潤編 2002 『心理学マニュアル 研究法レッスン』 中澤 潤・大野木裕明・南 博文編 1997 『心理学マニュアル 観察法』 鎌原雅彦・宮下一博・大野木裕明・中澤 潤編 1998 『心理学マニュアル質 問紙法』

保坂 亨・中澤 潤・大野木裕明編 2000 『心理学マニュアル 面接法』 後藤宗理・大野木裕明・中澤 潤編 2000 『心理学マニュアル 要因計画 法』

②福村出版 シリーズ・心理学の技法

渡部 洋編 2002 『心理統計の技法』

大村彰道編 2000 『教育心理学研究の技法』

田島信元・西野泰広編 2000 『発達研究の技法』

下山晴彦編 2000 『臨床心理学研究の技法』

村田光二・山田一成編 2000 『社会心理学研究の技法』(2007年・第2版)

杉山憲司 堀毛一也編 1999 『性格研究の技法』

海保博之・加藤 降編 1999 『認知研究の技法』

③一般的な研究法

南風原朝和·市川伸一·下山晴彦編著 2001 『心理学研究法入門』 東京大学 出版会

南風原朝和・市川伸一・下山晴彦著 2003 『心理学研究法』 放送大学教育振興会 (NHK出版)

高野陽太郎・岡 隆編 2004 『心理学研究法』 有斐閣

高橋順一ほか編著 1998 『人間科学研究法ハンドブック』 ナカニシヤ出版 日本発達心理学会監修 2000 『心理学・倫理ガイドブック』 有斐閣

『心理学研究法』(1~17) 東京大学出版会

W.J.レイ著・岡田圭二訳 2003 『エンサイクロペディア 心理学研究方法論』 北大路書房

丹野義彦編 2004 『臨床心理学研究法』 誠信書房

山本 力・鶴田和美編著 2001 『心理臨床家のための「事例研究」の進め方』 北大路書房 末永俊郎編 1987 『社会心理学研究入門』 東京大学出版会 やまだようこ編 1997 『現場(フィールド)心理学の発想』 新曜社 田尾雅夫・若林直樹編 2002 『組織調査ガイドブック』 有斐閣

3) 心理統計に関する参考図書

び方』 東京図書

丸山欣哉ほか著 2004 『学生のための心理統計法要点』 ブレーン出版 岩淵千明編 浦 光博・石井 滋・西田公昭・神山貴弥著 1997 『あなたも できるデータの処理と解析』 福村出版

森 敏昭・吉田寿夫編 1990 『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』 北大路書房

吉田寿夫著 1998 『本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく 初歩の統計の本』 北大路書房

初歩の統計の本』 北大路書房
大村 平著 2002 『改訂版 統計のはなし』 日科技連
山内光哉著 1998 『心理・教育のための統計法〈第2版〉』 サイエンス社
山田剛史・村井潤一郎著 2004 『よくわかる心理統計』 ミネルヴァ書房
南風原朝和著 2002 『心理統計学の基礎』 有斐閣
神宮英夫著 1998 『はじめての心理統計』 川島書店
田中 敏著 1996 『実践心理データ解析』 新曜社
渡部 洋編著 2002 『心理統計の技法』 福村出版
室 淳子・石村貞夫 2004 『Excelでやさしく学ぶ統計解析』 東京図書
内田 治 2000 『すぐわかるEXCELによる統計解析』 東京図書
石村貞夫 2001 『SPSSによる統計処理の手順』 東京図書
室 淳子・石村貞夫 2001 『SPSSでやさしく学ぶ統計解析』 東京図書

鍵和田京子・石村貞夫 2001 『よくわかる卒論・修論のための統計処理の選

殿

東北福祉大学 総合福祉学部福祉心理学科 学科長・教授 小松 紘

指導教員 印

調査の実施について (ご依頼)

本学の教育研究について、日頃、格別のご高配を賜り、誠に有り難く、厚く御礼申し上 げます。

さて、下記の学生は下に示すようなテーマについての研究を進めており、そのための若 干の調査を、貴 において実施させていただきたいと希望して おります。

つきましては、ご多忙のところ誠に恐縮ですが、この研究の意義と学生の希望をご理解 くださいまして、調査についてのご指導とご許可を賜りますようお願い申し上げます。

なお、調査の実施と資料の取り扱いにつきましては、ご指示に従い、様々な配慮に欠けることのないよう、責任を持って学生を指導します。

記

学科学年: 福祉心理学科 年

氏 名:

研究テーマ:

対象者と人数:

調査実施希望期間:

連 絡 先:〒981-8522 仙台市青葉区国見1-8-1 東北福祉大学総合福祉学部(通信教育部)福祉心理学科

以上

心理学における研究の進め方・論文の書き方(その1)

木 村 進

大学の夏休みの期間中、それも旧盆の期間中、通信制大学院のスクーリングというものを経験しました。「生涯発達心理学演習」という私の科目のスクーリングは、自画自賛ながら、まあうまくいった方だと思いますが、この機会を利用して、修士論文についての相談にも応じることにしました。そちらの方は、お互いに苦戦でした。主に「テーマ」について話し合ったのですが、多くは、壮大なテーマで、とても1年や2年で論文が完成しそうにもないものでしたし、また、焦点がはっきりしていないという問題点も見出されました。研究の進め方が分からないという声も聞かれますので、ここで、研究の進め方・論文の書き方ということについて、固苦しくならないように注意しながら、私見を述べてみたいと思います。

◆1 論文の完成まで

心理学は、実証的な学問ですから、卒業論文にせよ修士論文にせよ、目的 に沿ってデータを集め、それを分析して、その結果をもとにして論文を書く という手順になります。主なポイントは以下のとおりです。

- (1) 問題意識をもつ から テーマ決定 まで
- (2) 文献を探して読む から 仮説の設定 まで
- (3) テーマの再検討 から 研究計画の作成 まで (仮説を立てる)
- (4) データ収集方法の検討 から データ収集 まで
- (5) データ分析 から 統計処理 まで
- (6) 論文目次の検討 から 執筆 まで
- (7) 論文完成 から 提出 まで

これらすべてについて書くとすれば、1冊の本になってしまいますので、 ここでは、何回かに分けて、大事なところだけを取り上げてみたいと思いま す。卒業論文あるいは修士論文に取り組もうとしている人は、まず、上記の 流れに沿って,大ざっぱなタイムスケジュールを立ててみてください。もちるん.(7)から逆に考えていくことになります。

◆2 問題意識を持つ

すべての研究は、問題の発見から始まります。ここで「問題」というのは、「なぜだろう?」「~の答が知りたい」などということです。疑問と言い換えてもいいかもしれません。ここにまず、その人の個性が現れます。どのようなことに問題を感じるかということが、人によって異なるからです。私は、いろいろな意味で、この個性ということを重視しています。そのことの意味は、読み進めていくうちにだんだん明らかになってくるはずです。現実のなかでは、いろいろなものに疑問を感じたり、問題を発見したりできるはずですが、ここでは、心理学的な研究の話ですので、問題や疑問も「心理学的な」ということに限られてくることになります。しかし、「心理学的な」というのはよくわからないという人もいるだろうと思われますので、あまりこだわらないことにしましょう。人間に関することは、心理学的だと考えてもいいし、テーマが決まってから、どのように研究を進めていくかというところで「心理学的」を意識してもいいということにしておきましょう。

■人を見つめてみよう

私はよく学生に「テーマなんて、その辺にゴロゴロ転がっている」という 言い方をします。しかし、それを発見できなければ、テーマにはなりませ ん。だから、まず自分を含めて、人というものを興味をもって見つめてみま しょう。

たとえば、昨年卒業論文を書いたある女子学生は、母親の養育態度の違いは、どこから来るのか、ということに注目しました。今年修士論文の指導を私に頼みに来たある修士課程の院生は、同じ子育てをテーマにしていますが、育児書の中で、どのような子育てが望ましいと書かれているかということについて、時代の変化を明らかにしようという意図をもっています。ある学生は、ダイエットに関心のある学生とあまりない学生の違いはどこから来るのかというテーマで卒業論文を仕上げました。「学生にとって卒業論文とは?」ということをテーマにした学生さえいます。また、お酒を大量に飲む

学生とほとんど飲まない学生はどこが違うのか、とか、試合になると緊張する選手としない選手はどこが違うのか、というようなテーマもありました。

このように見てくると、論文のテーマというものが身近なところにあるということがお分かりになるでしょう。いずれにせよ、普段の生活のなかで疑問に思ったこと、知りたいと思うことから出発したテーマです。

■学習のなかからテーマを見つける

もう一つ、テーマにたどり着く道は、いろいろな学習、通信教育の場合は、テキストを読んだり、スクーリングを受けたりすることですが、そのなかで問題意識をもち、テーマに発展させるということです。教科書を読んでおもしろいと感じたり、授業を受けていて興味をもったりしたことから出発して、自分なりのテーマに到達するという道です。

私は、大学3年のときに「学習心理学」の講義のなかで聴いた「偶発学習」ということを卒業論文のテーマにしました。これは、例えば通勤で利用しているバス路線の停留所の名前を、いつの間にか覚えてしまっているというような場合の学習をさす言葉ですが、これとは対照的な「意図的学習」との比較において、その性質を明らかにしようと試みた研究でした。講義を聴いたときに、偶発学習というのはおもしろいなと思ったのと、しかし学習は意図的でなければ意味がないだろうと考えたのが、この研究に取り組む動機になりました。

ある学生は、私のゼミで、アメリカの研究者が書いた英語の論文を読み、その研究結果は、日本の若者には当てはまらないのではないかという問題意識をもって、それを証明する研究に取り組みました。別の学生は、授業のなかで言葉の発達は女の子の方が早いという話を聞き、本当だろうかという問題意識をもちました。

このように、自分の学習のなかで疑問を感じたり、問題意識をもったりすることからテーマが出てくるということもあるのです。

◆3 文献を探す→文献を読む→テーマの決定

問題意識の焦点がはっきりしてきたら、次は、文献を集めましょう。文献は、単行本という形のものと論文という形のものがあります。テーマについ

て、そのものずばりという本なり論文なりがあれば、それに越したことはないのですが、現実にはなかなかそうはいきませんので、まず、自分の問題意識なりテーマが心理学のどの分野に属するか、関係するかということを判断し、その分野の本を探しましょう。たとえば、「発達心理学」「臨床心理学」「社会心理学」「人格心理学」「教育心理学」などという本です。これらの本を読むことによって、自分の問題意識に関する基礎的な考えや知識を得ることができるでしょう。いくつかの分野にまたがることもありますから、1冊の本を読むと、別の本も読む必要性が明らかになって、だんだん基礎的な考えが固まっていきます。

それらの本のなかに、参考文献や引用文献という形で、他の本や関連する 論文が紹介されているのが普通ですから、自分が目指すところに直接関係す るものを、そこから探し出すことも可能です。また、「キーワード」がはっ きりしている場合は、図書館でそれを使った検索も可能です。

このようにして、最初は一般的な本からスタートして、だんだん焦点をはっきりさせ、それに伴って読む文献もしぼられてくるということになります。この段階で文献を読む目的は、問題意識に関連する理論や知識についての理解を深め、問題意識をより確かなものにするということですが、同時に、この段階で読んだ文献(の一部)は、卒業論文や修士論文を書くときに引用したり、参考にしたりということにも使いますので、大事だと思われる部分はコピーをしたり書き写したりして、手もとに確保しておく必要があります。その際、著者名、書名、発行年、発行所、引用ページも記入しておくと、後で論文を書くときに便利です。論文の場合は、そっくりコピーしてとっておきましょう。

本や論文を読み進めていくうちに、最初はぼんやりしていた問題意識がだんだんはっきりしてくるはずです。言い換えれば、自分がやろうとしている研究のイメージが具体的になってくるということです。ここまできたら、研究の目的(何を明らかにしようとしているのか)を具体的に考えてみましょう。最初に問題意識をもった時点で、それがはっきりしている場合もありますが、途中で考えが変わる場合もありますので、あらためて考えてみようということです。

実は研究というものは、答えがわからないから調査や実験によって明らか にしようという場合もありますが、圧倒的に多くは、答に対する予想(仮説 といいます)があって、その予想が正しいかどうかを確かめるために行われるものです。だから、研究に取り組むということは、どういう結果が予想されるかということを含んでいるのです。上記の文献による学習は、最終的には、仮説が考えられるようにということを目標にしていることになります。そして、どのような仮説を立てるかというところに、その人らしさが出てくると思われます。そこには、上記の学習だけでなく、その人のこれまでの経験や生き方、考え方などが反映されるからです。

以上、研究に取り組むための第一段階について、基本的なことを書いてきました。ここまで来たら、一度指導教員に相談してみてください。次の段階は、いよいよ研究計画を立てることになるわけですが、ここまでの考え方や準備に不十分なところがあると、研究としては致命的なことになるので、テーマや仮説について指導を受け、さらには、研究の進め方についてアドバイスを受けた方がいいでしょう。

心理学における研究の進め方・論文の書き方(その2)

木 村 進

第2回めの本論に入る前に、現在、研究室で助手をしている若手の研究者に、どのようにしてテーマを決定したか、取材してみましたので、簡単にご紹介しておきましょう。一人は、授業で、高齢者のソーシャル・サポートについて学んだことから、「配偶者を亡くした高齢者のストレス対処」というテーマで卒業論文を書き、その後、ストレスについての興味が強くなったので、修士論文では「進路選択に関するストレス」をテーマにしたということです。もう一人は、指導の先生に相談に行った時に「タイプA人格」というものがあることを教えられ、それとストレス対処の関係(リラクゼーション)について研究することになったという話でした。

◆ 4 研究というものは

心理学における研究は、多くの場合、人を対象にします。たとえば、質問紙調査においては、多くの人に回答をお願いすることから始まりますし、観察法を使用する場合は、対象となる子どもや大人のもとに出向いて、観察を行います。よく学生に言うのですが、「自分の研究のために、対象者の時間をもらったり、対象者の生活に介入したりすることが許されるのだろうか」と考えてみてください。研究する側は、それが卒業論文であれ、修士論文であれ、データが必要なわけですから、調査、検査、観察などの方法によってデータを集めなければなりませんが、そのことが相手にとってはどういう意味があるのか、ということを考えなくてもいいものでしょうか。相手の時間をもらう代わりに、対価を払うという方法もありますが、日本では一般的ではありません。

このことに対する答は難しいのですが、私は、「研究というものは、広い意味で、**人類の幸福のために**行うのだ」と説明しています。研究対象となった人に直接的に応えるのではなく、小さな研究でも、それが人々の幸福に少しでも寄与できるはずだということで、相手の時間をもらったり、生活に介

入したりすることが認められるのだと思っています。そういう意識をもたない研究者は、ただ自分の利益のために研究を行うことになり、それは本来あるべき姿ではないでしょう。

もちろん「人類の幸福」などと大きなことをもち出したのでは、誰も研究できなくなるかもしれませんし、すべての研究がただちにそのような目標をもつということもないかもしれませんが、このような意識から始めないと、次の「仮説」がなかなか出てこないのではないか、と思うのです。あくまで意識の問題として、頭のすみっこに入れておいてほしいと思います。

◆ 5 仮説を立てる

テーマが漠然としていながらも方向性が見えてきて、それに沿って文献で理解を深めるというのが、前回までの段階でした。そのような「**文献研究**」によって、自分が研究しようとしている領域についての理解が深まってくると、これまでに何が明らかになっているのか、何がまだ明らかにされていないのか、ということがわかってきます。そうなると、自分のテーマとして、何を研究すべきかということが、はっきりしてきます。その意味でテーマに沿って文献を幅広く読むということは、研究の土台として非常に重要なことなのです。

テーマがはっきりしてくるということは、自分がやろうとしている研究の結果 (答)が見えてくるということでもあります。答がまったく予想できないようでは、まだ文献学習が足りないということですし、後で述べますが、どこから研究に取りかかったらいいかがわからないということですから、研究以前の学習を積み重ねなければならないということになります。この答の予想を、専門的には「仮説」と呼びます。

研究というものは、自分が予想した答(仮説)が正しいかどうかを、データによって明らかにしようというものなのです。前回、お酒を大量に飲む学生とほとんど飲まない学生はどこが違うのかという卒業論文のテーマがあったと紹介しました。この場合の仮説は、たとえば、体力や素質が違うのではないかということも考えられますし、親の飲酒経験が影響しているのではないかという予想も立ちます。また、その学生の性格や交友関係が関係している、物の考え方が反映しているとも考えられます。これらが、仮説の第一段

階です。この第一段階の仮説で研究ができるかというと、そうはいきません。

このテーマで、体力や素質が違うのではないかという仮説を立てたとして、それを証明するためには、体力や素質についてのデータを収集して、それを両者で比較する必要があります。だから、体力や素質のなかの「何が」お酒を飲むことと関連するだろうかと考えなければならないということになります。性格を仮説としてもってきた場合も同様で、性格検査によって調査することになるでしょうが、性格検査を選択するためには、「どのような性格が関係しているか」という予想を立てなければなりません。そこまで行って初めて、研究に着手することができるのです。これが、仮説の第二段階です。

この段階まで来ると、研究の焦点がはっきりしてきますから、再び文献を 読んでみましょう。自分が考えている予想(仮説)が的はずれでないかとい うことを中心に、今度は、関連する研究がどのような方法を使って行われて いるか、という点にも注目します。そうすると、最初に読んだ時には気がつ かなかった点に気づいたり、解釈が難しかった点がわかってきたりという新 しい発見もあるかもしれません。

この仮説を設定するということは、研究の出発点として、極めて大切な作業です。なぜかというと、この研究が何を目標としてなされるのかということをはっきりさせることだからです。ただ何となく調査や観察をすれば、何かが出てくるだろうというような態度では研究として成功することは望めません。したがって、この段階で、指導教員に相談する必要が出てきます。

◆6 研究計画を立てる

仮説がはっきりし、何を研究するかということが明確になってきたら、今 度は、研究計画を立てる段階になります。

研究計画は、2つの部分に分かれます。1つはスケジュールです。修士論文の提出期限は決まっているわけですから、そこから逆算して、大まかなスケジュールを立てておきましょう。その内容は、研究のやり方によって違ってきますが、ほぼ以下のようなものになるでしょう。①方法についての検討(別項) \rightarrow 2研究対象者への依頼 \rightarrow 3データ収集の実施 \rightarrow 4データの分析と結

果の検討→⑤卒業・修士論文の章立ての検討→⑥執筆。

それぞれ、研究に使える時間が異なるし、実際にはデータ収集に要する時間、分析のための時間がテーマによって異なりますので、自分の状況に合わせたスケジュールの設定が必要です。指導を受けるという観点からすれば、上記の①と⑤を合わせて研究がスタートする前に指導を受けておいた方がいいでしょう。いずれにせよ、執筆にどれだけ時間が取れるかということがキー・ポイントになりますので、早め早めにスケジュールをこなしていくということが大切です。

研究計画のもう1つの部分は、方法についての検討です。心理学における研究法の主なものとしては、調査法、実験法、検査法、観察法などがありますが、テーマに合わせて適切な方法(あるいは方法の組み合わせ)を選択する必要があります。また、対象者はどうするのか、何人くらい必要か、また、研究によっては、どのような部屋や器具が必要か、など、きちんと検討し、準備をしなければなりません。心理学は実証主義だといいましたが、それだけに集まったデータが命なのですから、この方法についての検討は、慎重にかつ具体的に行う必要があります。言い換えれば、ここまでの検討がきちんとできれば、あとは計画に従って、データを集め分析して、結果に基づいて論文を執筆するという流れをこなしていけばいいので、仮説の設定と研究計画ができた段階で、研究の60%は済んだと言ってもいいくらいです。

通信教育部の「卒業研究」では2回以上(大学院は3回以上)指導教員の面接指導を受けることと定められています。もちろんそれ以上何回でもいいわけですが、お互いになかなか時間がとれない立場にありますから、ポイントをおさえて、有効な指導を受けるように心がけてください。また、テーマによって、あるいは研究の経過においては、指導教員以外の教員の指導が必要になることもあるかもしれません。そういう場合は、指導教員が便宜を計らう用意もできていますので、必要に応じて相談してください。

ここまで来ると、研究の全容が見えてきます。そうなると、モティベーションも上がってくるということになり、指導する側としては「一山越えた」という実感が味わえることになるわけです。ここまで来るのに、いかにコツコツと学習を積み重ねていくか、いかに上手に指導教員を活用するか、ということが決め手になることでしょう。「通信制」ということで、日常的

な接触がないわけですから、見えない所での不断の努力ということが期待されます。

繰り返しになりますが、「**あなたは何の研究をするの?**」と誰かに聞かれた時に、簡単な表現で、はっきりと説明できるように、目標を明確にしていくというのが、ここまでの経過で最も大切なことです。はっきりしていればしているほど、研究の成功が約束されていると言っても過言ではありません。

心理学における研究の進め方・論文の書き方(その3)

木 村 進

◆7 データの収集と分析

データを集め、それを分析し、(統計処理をして)結果を明らかにし、それに基づいて論文を執筆するというのが、論文作成までの手順であることは、すでに説明しました。ここに来るまでに、すでに仮説が明らかになっていますから、その仮説に基づいて、どのようなデータを集めればいいかということもはっきりしています。問題は、それを**どのような方法で**集めればいいのかということです。

調査をするにせよ、実験をするにせよ、検査法を使うにせよ、集められたデータが信用できるかどうかが問題になりますので、データの収集は、客観的・科学的な方法で行われなければなりません。言い換えれば、どのような方法を使うか、被験者(対象者)はどういう人で何人くらい必要か、集められたデータはどのような方法で、どのように分析するかなどが十分に検討されなければならないということになります。この検討が不十分なままに集められたデータは、何の価値もないことになってしまいますので、指導教員と十分にディスカッションしてください。

紙数の関係で詳しく具体例を挙げることはできないのですが、私が指導した卒業論文を例にとって、簡単に説明しておきましょう。ある学生が、「性格というのは思いこみの部分があるのではないか。だから、その思いこみを変えてやることができれば、行動が変わるのではないか」という仮説のもとで、研究をしたいとやってきました。そして、性格特性として「内向性」を選択し、性格検査をして「内向性」が高いという結果の出た学生で本人も「内向的」だと思っている学生を選び出しました。その学生を2つのグループに分け、それぞれ共同作業をさせて、行動観察をしました。1つのグループは、その後私が1人ずつ面接をして、(性格検査の結果)「あなたが思っているほど内向的ではない」という説得をしました(もちろん嘘です)。もう1つのグループには、そのような説得は行いませんでした。その後、もうー

度同じ共同作業をさせて、行動観察をしました。その結果私の説得を信じた 学生のグループは、1回目の共同作業に比べて、2回目の方が行動が活発に なったという傾向が得られ、仮説は支持されました。

この研究では、検査法、観察法、調査法の3つが使われています。具体的には、どのような作業をさせるか、その作業中のどのような行動を指標として使うか、思いこみを変えるためにどのような方法を使うか、また、どのような性格検査を使うかなどが検討されたことになります。ちなみに、この場合の被験者の数は、1グループ20名、合計40名でした。また、私の説得を信じた被験者が80%、20%は「そんなはずはない」と思ったそうです。もちるん、「嘘」については、データ収集後に再面接して謝りました。

心理学の研究において使用されるさまざまな方法について説明する余地はないので、その点については、指導教員に相談し、各自で研究法についての学習を進めてください。

◆8 データ分析ということ

集まったデータを目的に応じて分析し、どういう結果が得られたかを明らかにするというのが次のステップです。

上記の研究例について、具体的に書いてみます。上記の研究は、①内向性の人を抽出するための分析⇒②行動の変化を明らかにするための分析の2つが必要でした。この場合①については、性格検査のテキストに示されている通りにやればいいので簡単ですが、②については、もしかしたら男性と女性で効果が異なるかもしれないと予想されるなら、男女を分けて分析する必要が出てきます(いうまでもありませんが、男女に分けて分析するかどうかは、最初に決まっているはずですし、それによって、被験者の数も違ってきます)。このように、分析した後に、統計処理という課題が出てきます。

統計処理になじまない研究もありますし、統計処理をして結果を出すことへの疑問が論じられることもありますが、例えば「調査法」によってデータを収集した場合、普通の手順として、結果を統計処理するということが行われますので、ここで、統計処理についてふれておきたいと思います。

とはいっても, 統計処理の具体的な方法について述べることは到底無理で すので, ここでは, なぜ統計処理が必要なのかということについて, 初歩的 な説明をするにとどめます。このことについても、具体的には担当教員の指導を仰いでください。

私は、日本とアメリカの小学生の学力比較の研究を15年ほどやっていました。その中に日本とアメリカの小学生に同じ算数の問題をやってもらい、比較するということが含まれていました。その結果が、例えば日本の小学校5年生の平均が80点、アメリカの5年生の平均が60点だとしたら、誰が見ても、日本の子どもの方が成績が良いという結論を出すでしょう。しかし、80点と75点だったらどうでしょうか。さらに、80点と77点だったらどうでしょうか。5(3)点しか違わないと受け取る人は「成績に差がない」という結論になり、5点の違いは大きいと思った人は、「日本の子どもの方が成績が良い」という結論になってしまいます。つまり個人の判断に委ねていたのでは、同じ結果についての解釈が異なるということになります。そこで、(この場合は、両者の差について)客観的に判断する方法として「統計法」を使うことになるわけです。

同じことですが、何かについて賛否を問う調査において、賛成が70%、反対が30%だったら判断に迷いはないと思いますが、60%と40%、55%と45%だったらどうでしょうか?

別の角度から見てみると、上記の調査が、1000人に聞いた結果である場合と、10人に聞いた場合では、数字のもつ意味が異なってきます。そういうことも含めて分析することができるのが「統計法」ということになるのです。

望ましいのは、計画の段階で、分析には**どのような統計法を使うか**という ことまで検討しておくということです。

統計法というと、数学が苦手な人には頭が痛くなるような理論が並んでいるという印象ですが(実際、私が学生のころは、その理論や計算式に基づいて「手計算」しなければならなかったので、大変でした。パソコンはおろか電卓さえなかった時代でしたので)、今は、統計ソフトが充実しているので、データ入力を正確に行えば、かなり高度な統計処理も簡単にできます。 尻込みしないで挑戦してみてください。

◆9 論文の構成

実際の作業手順とは異なるかもしれませんが、ここで、論文の内容につい

てふれておきます。実際には、もっと早い時期に論文構成は決定しているはずですし、データの収集や分析をしながら、書ける部分は書いておくという形で作業が進んでいくはずです。

研究の内容によって異なる点が出てきますが、論文の主な内容は、だいたい以下の通りです。

- 第1章 **問題意識** ここでは、研究の目的と意義について詳しく書きます。
- 第2章 **これまでの研究と仮説** 研究テーマにそって、これまでどのような研究が行われてきているか、あるいはどのような関連研究があるかということを具体的に述べることによって、自分の研究の位置づけを明らかにします。

それを踏まえて、仮説について、理論的な説明を加えながら 述べていきます。

- 第3章 **方法** どのような方法を使って研究を行ったかについて,詳しく具体的に述べるとともに,その方法が妥当であるということを論じます。
- 第4章 **結果** 表や図を活用しながら、結果について述べます。研究というのは結果が命ですから、わかりやすい表記を心がけるとともに、必要な部分は解説を加えながら書いていきます。統計処理の結果も説明に加えます。
- 第5章 **討論,結論,残された問題** 第一に,**仮説が検証されたかどう か**をきちんと述べ,それを踏まえて,何がわかったか,何がわからなかったかを明らかにします。仮説通りの結果が出なかった部分,明らかにならなかった部分については「**なぜか**」ということについて検討します。結論を述べ,残された問題は何かということを明らかにします。

最後に、参考文献・引用文献の一覧を付け加えることも忘れないでください (p. 158~159参照)。

■参考文献

研究する分野の先行研究等を調べるための参考文献をあげておきます。資料の検索方法などくわしくは『学習の手引き』 9 章「資料・情報をさがす」をご覧ください。

] 書籍

1)辞(事)典

(心理学全般)

『心理学辞典』(有斐閣/CD-ROM版もあり)

『心理学小辞典』(有斐閣)

『誠信 心理学事典』(誠信書房)

(心理学各論)

『発達心理学辞典』(ミネルヴァ書房)

『発達心理学用語辞典』(北大路書房)

『認知心理学事典』(新曜社)

『教育心理学小辞典』(有斐閣)

『教育心理学新辞典』(金子書房)

『社会心理学小辞典』(有斐閣)

『改訂新版 社会心理学用語辞典』(北大路書房)

『カウンセリング辞典』(ミネルヴァ書房)

『カウンセリング辞典』(誠信書房)

『現代カウンセリング事典』(金子書房)

『臨床心理学辞典』(八千代出版)

2) 講座・ハンドブック・事典

関心のある分野の先行研究を見渡すためには、下記にあげたような講座・シ リーズ・ハンドブック・事典の利用が便利です。高価なものも多いので、まず は図書館で見てみましょう。

(感覚・知覚・認知・学習心理学分野)

M.W.アイゼンク編 『認知心理学事典』新曜社

大山 正ほか編 『新編 感覚・知覚心理学ハンドブック』誠信書房

戸田正直ほか監修 『認知科学選書』(全24巻) 東京大学出版会

乾 敏郎ほか編 『認知心理学』(全5巻) 東京大学出版会

宮田 洋監修 『新 生理心理学』(全3巻) 北大路書房

堀 忠雄ほか編 『脳生理心理学重要研究集』(全2巻)誠信書房

(発達心理学分野)

東 洋ほか編 『発達心理学ハンドブック』福村出版

無藤 隆・やまだようこほか編 『講座 生涯発達心理学』(全5巻)金子書房 村井潤一ほか編 『新・児童心理学講座』(全17巻)金子書房

久世敏雄ほか編 『青年心理学事典』福村出版

内田伸子ほか編 『シリーズ 人間の発達』(全12巻) 東京大学出版会 長崎 勤ほか編 『シリーズ 臨床発達心理学』(全5巻) ミネルヴァ書房 (臨床心理学分野)

河合隼雄ほか編 『臨床心理学大系』(全20巻) 金子書房

下山晴彦・丹野義彦編 『講座 臨床心理学』(全6巻) 東京大学出版会

河合隼雄ほか編 『心理臨床の実際』(全6巻)金子書房

土居健郎ほか編 『異常心理学講座』(全10巻) みすず書房

(性格心理学分野)

詫摩武俊監修 『性格心理学ハンドブック』福村出版

本明 寛ほか編 『性格心理学新講座』(全6巻) 金子書房

(家族心理学分野)

日本家族心理学会編 『家族心理学事典』金子書房

星野 命ほか編 『講座 家族心理学』金子書房

(社会心理学分野)

大坊郁夫ほか編 『社会心理学パースペクティブ』(全3巻)誠信書房 齊藤 勇編 『対人社会心理学重要研究集』(全5巻)誠信書房 浦 光博ほか編 『セレクション社会心理学』サイエンス社 高木 修監修 『シリーズ 21世紀の社会心理学』(全10巻) 北大路書房 三隅二不二ほか監修 『応用心理学講座』(全13巻) 福村出版

3) 単行本

単行本の検索は、図書館をご利用ください。

現在書店で販売している本の検索には、『日本書籍総目録』や http://www.books.or.jpの利用が便利です。

2 雑誌

1) 専門誌

『こころの科学』(日本評論社) 『現代のエスプリ』(至文堂)

『児童心理』(金子書房)

『臨床心理学』(金剛出版)

『発達』(ミネルヴァ書房) 『心理学ワールド』(実務教育出版)

2) 学会誌

学会などの学術団体が発行する雑誌は、学会誌とよばれています。

『心理学研究』

『心理学評論』

『教育心理学研究』

『児童心理学の進歩』

『家族心理学研究』

『健康心理学研究』

『発達心理学研究』

『発達障害研究』

『認知科学』

『パーソナリティ研究』(旧『性格心理学研究』)

『社会心理学研究』

『実験社会心理学研究』

『産業・組織心理学研究』 『コミュニティ心理学研究』

『心理臨床学研究』 『カウンセリング研究』

『臨床心理学研究』 『リハビリテーション心理学研究』

『犯罪心理学研究』 『質的心理学研究』

また、各学会の大会発表論文集も参考になる場合があります。

3)紀 要

大学・短期大学の学部や研究所が発行する雑誌は、紀要とよばれています。たとえば、東北福祉大学では、『東北福祉大学研究紀要』、『東北福祉大学 大学院研究論文集一総合福祉学研究』、『東北福祉大学社会福祉研究室報』なら びに『東北福祉大学感性福祉研究所年報』などを発行しています。

4) 論文検索

学術雑誌に掲載された論文は、国立国会図書館編『雑誌記事索引』で検索することができます。図書館によっては、CD-ROM版を持っており、検索が容易な場合もあります。NDL OPAC (http://opac.ndl.go.jp/) でも検索できます。

また、インターネットで「GiNii(論文情報ナビゲータ)」、「NACSIS Webcat(総合目録データベース)」等を用い、「キーワード」から関連論文を探す方法もあります。



卒業後の進路



心理学関連の資格取得に向けて 卒業おめでとう

心理学関連の資格取得に向けて

皆川州正

皆さんの中には、卒業と同時に「認定心理士」の資格取得を望んでいる方も多いと思います。また、卒業したら、さらに大学院に進み、「臨床心理士」や「臨床発達心理士」の資格取得をめざしている人もいることと思います。その他にも、心理の資格にはさまざまなものがあります。そこで、心理の資格について説明と紹介をしたいと思います。

◆認定心理士

本学福祉心理学科を卒業することによって、認定心理士の資格認定を申請 して、取得することができます。

まず「認定心理士」とはどんな資格でしょうか。日本心理学会のホームページには次のようにあります。「日本心理学会認定心理士とは大学における心理学関係の学科名が学際性を帯びてきて、必ずしも「心理学」という、直接的名称が使われていない場合が多いことから、心理学の専門家として仕事をするために必要な最小限の標準的基礎学力と技能を習得している、と日本心理学会が認定した人のことです」。

ここには、3つのポイントがあります。

第一に、学科の名称の問題です。つまり、「行動科学科」「発達人間学科」などの名称のため、心理学を学んでいながらそのことが伝わらない場合に心理学を学んできたことを証明するのに用いられる資格ということです。したがって、本学のように「心理学」という名称が学科名についている場合には、取得しなくてもすむ資格ともいえます。ただし、「福祉心理学」というのは、本来〈福祉=well-being〉の心理学を意味するものですが、世間では〈福祉=welfare〉の心理学と誤解されている向きもあり、なかには"福祉領域の心理学なら、心理学の基礎(心理学実験や心理学研究法など)は学んでいないだろう"と思う人もおります。そういう場合に、この資格を持っていれば、基礎もしっかりと学んできていることを証明できます。

第二に、心理学の専門家としての仕事をするために必要な資格ということです。ただし、これは医師や看護師の資格のような業務独占の国家資格ではありませんので、これがなければ心理学の専門家としての仕事ができないというわけではありません。しかし、世間では「心理学」を語ったセミナーが横行し、いわば似非「心理学」が流行ってもいます。そこで、これらの動きを牽制あるいは歯止めをかけるということも、この資格ができた背景の一つにあります。そこで、この資格を取得していれば、民間で心理学の仕事がしやすくなるということは言えるでしょう。

第三に、最小限の標準的基礎学力と技能の習得を証する資格ということです。あくまで基礎資格という位置づけです。ただし、大学院に行くための必要条件や専門資格(「臨床心理士」「臨床発達心理士」など)の取得のための必要条件になっているわけではありません。日本心理学会では専門資格につなげることを望んでいますが、実現はしていません。

取得の条件として、『学習の手引き』 3 章 (2007年版では p. 119) に示すような所定の科目履修が必要とされます。この点は本学福祉心理学科を卒業すれば満たされるようになっています。

取得希望の方は、卒業前に申請書類の申込みをして下さい。「郵便振替口座 00180-4-543408 加入者名 社団法人日本心理学会認定委員会」に 1,500円を振り込みますと、申請書類一式と申請の手引きが送付されます (通信教育事務室で閲覧は可能です)。

◆臨床心理士

「臨床心理士」とは、臨床心理学の知識や技術を用いて心理的な問題を扱う「心の専門家」のことであり、具体的には、面接・観察・種々の心理テストを用いた心理アセスメント、さまざまな臨床心理学的技法を用いての心の問題の改善に向けた援助(心理カウンセリング)、学校や社会や地域社会の人々に対する臨床心理学的地域援助、臨床心理的調査や研究活動を行います。ただし、業務独占の国家資格ではありません。有資格者の勤務先としては、病院の心理職(呼び方は「臨床心理士」「心理士」「心理判定員」などさまざま)やスクールカウンセラー(非常勤)などが多いです。なお、公務員の心理職および一部の病院の心理職は、「臨床心理士」の資格とは関係な

く. 本学福祉心理学科を卒業見込みで受験できます。

臨床心理士の受験資格を得るには、財団法人臨床心理士認定協会が指定した大学院を修了する必要があります。1種は修了と同時に受験資格が取得でき、2種はさらに1年間の実務経験が必要です。通学制の本学大学院の臨床心理学分野は1種指定大学院になっています(通信制大学院は指定になっていません)。他に、東北では、1種指定として秋田大学と東北大学、2種指定として福島大学、岩手大学、岩手県立大学の各大学院があります。また、福島県の某私立 | 大学大学院も1種指定を申請中です。なお、通信制では放送大学大学院が2種指定、佛教大学大学院が1種指定です。

◆臨床発達心理士

「臨床発達心理士」とは、発達心理学をベースとした発達的観点を持って、人の健やかな育ちを支援する専門家のことであり、具体的には、発達をめぐる問題の査定と支援、子どもから大人までの生涯にわたる支援、家族・地域への支援、子育て・気になる子ども・障害・社会適応などの問題への対応を行います。この資格も、業務独占ではありません。受験資格を得るには、学会連合資格「臨床発達心理士」資格認定委員会(日本発達心理学会を中心とする関連4学会で構成)による大学院での指定科目の履修か講習会の受講、臨床経験等が必要です。なお、本学大学院(通学課程)の福祉心理学分野では、現在、指定科目を履修できるようになっております。

◆その他の資格

他に、心理学関連の資格として、認定カウンセラー、学校心理士、学校カウンセラー、大学カウンセラー、産業カウンセラー、健康心理士、交流分析士、行動療法士、応用心理士、交通心理士、家族相談士、催眠技能士、バイオフィードバック士、臨床動作士、自律訓練法認定士、音楽療法士などがあります。いずれも学会認定の資格であり、当該学会への所属および学会発表や研修会受講などを条件としています。詳しくは、インターネットで調べてください。

◆大学院受験に向けて

大学院の受験は、通常は、書類(履歴書・健康診断書・成績証明書などの他に、志望理由書、研究計画書、卒論のコピー)、英語と心理学の試験(社会人入試の場合は小論文試験が多い)、面接からなります。英語は、多くは読解中心の出題で、受験勉強が必要です。また、心理学関連の英語の問題が出題されることも多く、心理学用語についても知っておく必要があります。心理学は、『新・心理学の基礎知識』(2005年新版が刊行されました)、『心理用語の基礎知識』(いずれも有斐閣)、および希望専攻分野に応じた専門書・事典類、過去の問題で勉強している人が多いです。面接では、学習・研究の意欲に加えて、日頃の学習姿勢と修士論文が書けるだけの下地を持っているかどうかが問われます。さらに臨床心理士などをめざす場合は、面接での応答や生活の態度なども重視されるでしょう。志望理由書や研究計画書の書き方については、大学院受験に関する本やインターネットなどを調べて参照してください。

大学院入試日程は各大学によって異なります。本学は | 期が | 3月にありますが,他大学では | 期が | 7~9月,| 期が | 2月にあることが多いので,早めに日程を確認した方がよいでしょう。また,合格者数は,通常 | 期が多く,| 期は少ないので,| 期を受験できるように準備を進めた方がよいでしょう。

なお、本学で臨床発達心理学関連の学習・研究を希望の場合は、臨床心理 学分野ではなく、福祉心理学分野になりますのでご注意ください。

卒業おめでとう

木 村 進

早いもので本学に通信教育部が誕生して4年が過ぎようとしています (注:執筆の2006年時点)。そして、初めての卒業生を出せることになったのは、私たち教員にとっても嬉しい限りです。何しろすべてが初めての経験だったので、戸惑いの連続の4年間でした。十分な指導ができなかった面も多々あると思われますが、学生の皆さんの努力で卒業までこぎつけられたことに心から感謝をするとともに、「おめでとう」と声高らかに申し上げたい心境です。

卒業される皆さんのはなむけに、いくつかメッセージを差し上げたいと思います。

1 重さは?

必要な単位を揃えれば卒業ということになり、卒業証書をもらえることになるわけですが、同じ卒業証書でも、人によってその重みは違うのではないかと思われます。あなたの重さはどうでしょう? レポートを書いたり、スクーリングに出席したりしてコツコツと単位を揃えていった結果ですから、きっとずしりと重いのではないでしょうか。レポートを読んでいての勝手な推測ですが、時としてそのレポートを書くのに悪戦苦闘している様子が伝わってくることがあります。そういうレポートの積み重ねの結果としての卒業証書はきっと重いに違いありません。

卒業証書の重さは、あなたの努力の重さです。その重さが、大学を卒業したという実感の土台になり、大学を卒業したことが、今後の人生に大きな意味を持つ原動力になるのだと思います。卒業証書を手にしたとき、ぜひその重さを実感し、それを忘れないでください。

2 賢さは?

入学時のコメントで、大学で学ぶのは、知識や技術以上にhow to learn ということだと書いた覚えがあります。つまり「学び方を学ぶ」ということです。大学入学の動機はそれぞれの異なるかもしれませんが、卒業まで到っ

たときに、このことについて振り返ってみてほしいと思っています。

4年間の学習の中で、あなたの中に残ったこと、新しくつくられたことは何ですか? あなたは確実に賢くなったはずですが、さて、賢さとは何でしょうか?

多くの時間はレポートの作成に費やされたはずですが、レポートを作成するということは、課題(テーマ)を理解し、書くべき内容を集め、それを整理して組み立て、文章として仕上げる という過程を含んでいます。そして、この過程全体に必要とされるのは、「考える」という行動です。したがって、考え深くなったと言えるでしょう。考え深いということは、別の表現をすれば、論理的に物事を考えられるということを意味しています。つまり、賢くなったということは、論理的に考えられるようになったということです。どんな仕事であれ、このことは、きっと大きく役に立つことと期待されます。

3 心理学は?

卒業後は、「大学で何をやったの?」と尋かれたら「心理学をやりました。」と答えることになります。だから、「心理学」が卒業後のキーワードになります。

私は心理学者ですから、「顔を見ただけで人の心がわかるでしょう」とよく言われます。そういう時、もちろん「そんなことはありません」と答えますが、世の中の一般の人はそう考えているのだということを実感します。学業をおえて卒業の時を迎えているあなたがたが、同じように「そんなことはありません」と答えられるとしたら、それは、あなたがたの学習が確実なものだったということを意味していると言って良いでしょう。

「心理学をやった」ということの意味は、第一に、人の心を考える癖がついたということだと思います。何かにつけて、この人は、どんな風に考えているのだろうとか感じているのだろうとか考えるということです。第二には、その時の答が複数考えられるということです。私はこれを「可能な答」と読んでいますが、別の言い方をすれば、断定して考えないということです。第三には、その可能な答の中からもっとも適切と思われるものを選択することになるわけですが、その時に、可能な限り裏づけとなるものを土台にして考えるということです。その裏づけは、理論であったり、知識で

あったり、経験であったり、観察や調査や検査のデータであったりします。 第四には、その結果でた答を人を操ることにではなく、人を動かすことに使 うということです。

卒業おめでとう! 方向は違っていても、同じく大学で心理学を学んだ仲間が増えることは喜ばしいことです。あなたがたが属している学科は、「福祉心理学科」です。福祉は幸福と同義です。したがって、福祉心理学科は、人の幸せに貢献できる人材養成、人の心の幸せを実現するために心理学を活用できる人材を育てることを目標にしてきています。その学科で学んだ人が世に出て、それぞれの分野で活躍してくれるということはは、その分だけ福祉の向上に貢献できるという大きな期待感をもって、あなたがたを送り出します。

卒業後の進路については、『学習の手引き』 3 章も合わせてお読みください。

学籍 番号	
氏名	
住所	

福祉心理学科 スタディ・ガイド (第2版)

2005年 4 月20日 初 版 発 行 2007年 9 月20日 第 2 版発行

発 行 東北福祉大学通信教育部

〒981-8522(李学) 仙台市青葉区国見1-8-1

電話 022-233-2211 http://www.tfu.ac.jp

印刷·製本 今野印刷株式会社

©Tohoku Fukushi University 2007 Printed in Japan





福祉心理学科 スタディ・ガイド[第2版]

2007年9月10日 第2版発行

東北福祉大学 通信教育部

〒981-8522(本学専用)仙台市青葉区国見1-8-1 TEL 022-233-2211 FAX 022-233-2212 http://www.tfu.ac.jp/ E-Mail:uc@tsukyo.tfu.ac.jp